

演劇会議

■ 「今日」とは 一文化論的考察——	島田 豊	1
東会議総会メモ・「今日」をめぐる活発な討論		29
総会で通らなかった議案書をふりかえって	こばやし・ひろし	35
戯曲書きの妄想ふたつ ―こばやし講義書について―	大 橋 寛	40
「サマー・フェスティバル・イン・雨畑」を終えて	河 野 司	46
東会議ゼミナール分科会の報告		48
「メーキャップ」(林 隆昌) 「第3分科会・今日とは」(栗木英章)		
「生活と演劇」(室野定子) 「演劇の活性化」(堀北 弁)		
「小型式上演について」(内田 薫)		
■ 第25回・西会議総会の記録	堀 野 隆・堀 史	55
分科会 「狂言」(池田真代) 「音楽」(山田一己)		59
■ 劇 団 通 信		62
関西における戦前プロレタリア演劇の研究(51)	大 岡 欽 治	81
東会議とDDRの労働者演劇交流	堀 野 エリ子	90
□ 劇 評		
「秘話 伊予路はる・あき」(こじか座)	竹 村 彬	93
観劇雑感	萩 坂 株 彦	96
「グッド・ラック」(若者座)	笹 尾 新	101
「きらめく岸線」(四代会)	平 田 康	103
中部ブロック7月～10月の上演から	九 子 礼 二	105
□ 戯 曲		
淡墨色の板たち	小 島 真 木	108

幕間を人形劇で綴る 浪花演劇フェスティバル

—全上演第3回演劇祭—

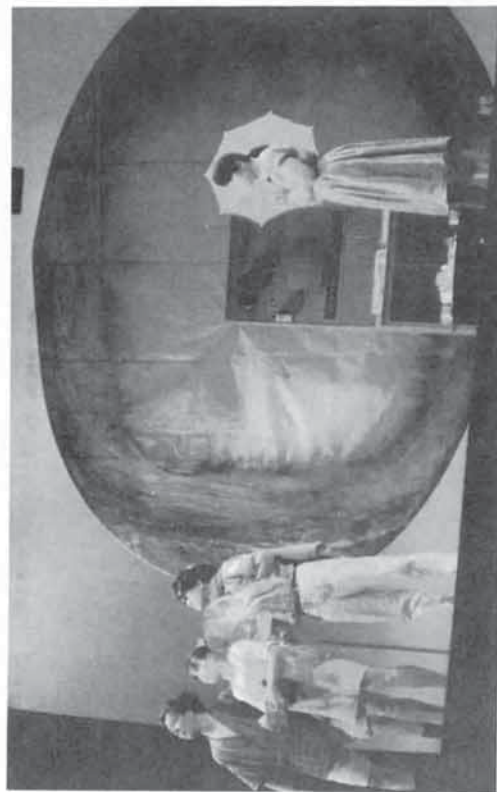
□ 日 時	1987年2月14(土)・15(日) 日
□ 場 所	劇団大阪樟古場 542 大阪市南区谷町7丁目1-39-103 Tel 06-768-9857
□ 参加費	¥8,500 (予定)

昨年中止の教訓をうけて、構想を練りました。東・西各2劇団からの創作劇をもとに、外部から講師を招いて討議をつくします。上演劇団は目下詮議中ですが、西会議は地元大阪からの1劇団が有力です。なお、今回は、人形劇団クラテ、京芸などが人形劇をもって、司会、進行等で趣向に花を添えてくれることになりました。

1987年の全上演のスタートはこのフェスティバルで！
活発なみなさんの参加をお待ちしています。

詳細は追ってお知らせしますが、問合せは下記へ。

○東会議事務局	500 岐阜市西野1 劇団はぐるま内 Tel 0582-65-1852
○西会議事務局	673 明石市東野町1-5-1009 (堀 武史) Tel 078-941-1513



劇団同胞

「ザ・シエルター」

作・北村 想

演出・沢田 和彦



劇団支木

「幽霊哀話」

作・芳地隆介

演出・中野 健



劇団協同

「象の死」

作・齋藤瑞穂

演出・車田 悟

青年劇場機関紙 No.10

頒価 ¥500 千代 ¥200

●特集・高校演劇教室

私の演劇教室考（爪生正美） 座談会＜演劇教室成功のために＞

（島田静仁・関根秀介・田端宗寿・中村 裕・宮部 明 司会・土方与平）

●劇団中堅座談会＜否応なし中堅になって＞

（葛西和雄・小林直二・苔米地洋子・原 陽三・藤木久美子 司会・中野千春）

●パネル・ディスカッション “今日の演劇状況は……”

五十嵐敏夫・茨木 憲・爪生正美・菅井幸雄・中本信幸 司会・土方与平
（これはリアリズム演劇と青年劇場への提言として討論されています。）

問合せ申込先

青年劇場 160 東京都新宿区新宿2-9-20 問川ビル

03-351-7054

川村光夫戯曲集

¥1,800

●めくらぶんど ●怪談・田嶋変身

●うたよみざる ●食れだ村物語

●「地域を超えても土台はそこに在って」（千田是也）

●座談会「川村光夫の劇世界」（山田民雄・ふじたあさや・香川良成）

問合せ申込先

晩成書房 101 東京都千代田区猿樂町1-4-4

03-293-8348

松本克平新劇自伝＜八月に乾杯＞

¥2,300

①生いたち ②プロレタリア演劇全盛期 ③苦闘するプロレタリア演劇

④プロット解散・新協劇団結成 ⑤新協の強制解散

⑥拘留所・保護観察所 ⑦戦時下の演劇 ⑧回想の人々

（これは体験にもとずく紛れもない新劇裏面史である。俳優座機関紙「コメディア」に100回にわたって好評連載されているものに補筆された。
読み出したらやめられないおもしろさである。）

問合せ申込先

弘隆社 101 東京都千代田区猿樂町1-2-4-302

03-292-8385

平田 康「観客術」

¥2,000（予価） 千代 ¥300

●芝居の持つ魅力と感動をストレートに語った異色の演劇本

●エッセイ・劇 評 （舞台写真多数収録）

●A5判・224頁（予定） ＜12月上旬刊行＞

問合せ申込先

神文書院 651 神戸市中央区八幡通1-1-21-807

神戸共同印刷内



■テアトル・ハカタ
「落ちこぼれの神様」
—夜間中学の教室—
作・演出 園山土筆



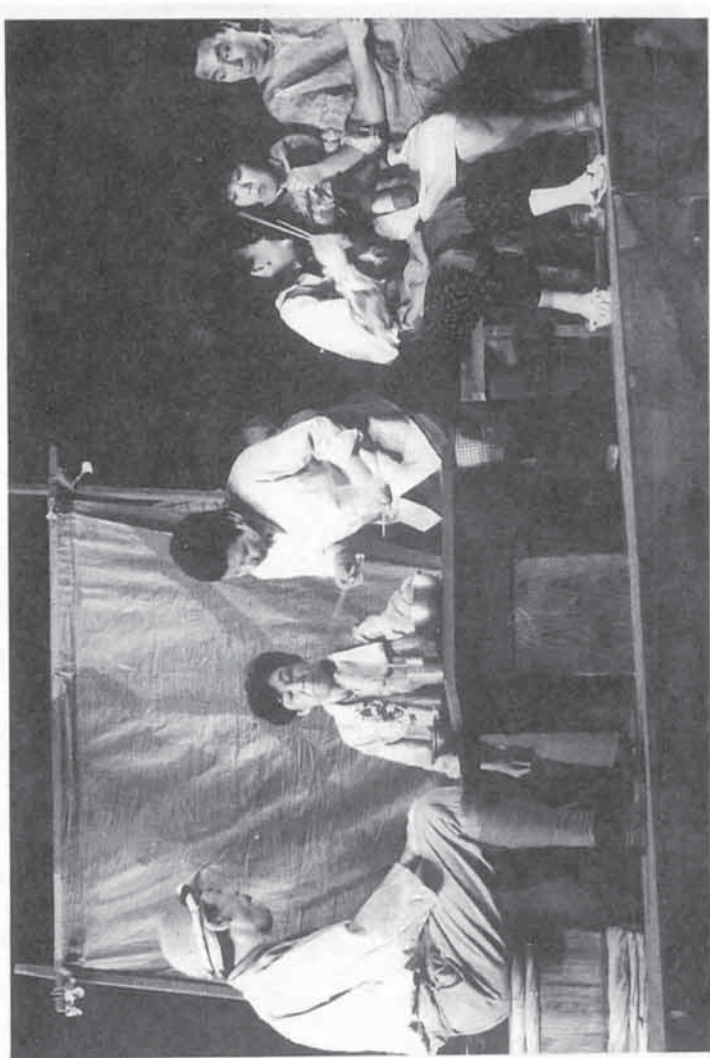
■劇団2月・コーロ
「カエルとおてんとごま」
原作・グエン・フィ・トウ
訳・加茂徳治
脚本・かたおかしろう
演出・寸上嘉司



■劇団若者座
「グッド・ラック」
作・V・ローソフ
演出・天羽新平



■青年劇場 「書かれなかった頁」 作・ふじたあさや 演出・千田是也



■劇団群馬中芸 「やけあとのブレメン楽団」 作・中村欽一 演出・ふじたあさや



■人形劇団京芸

「空を飛んだ鶏と銀色の松ボックリ」

作・可能あらた

演出・幸見彦

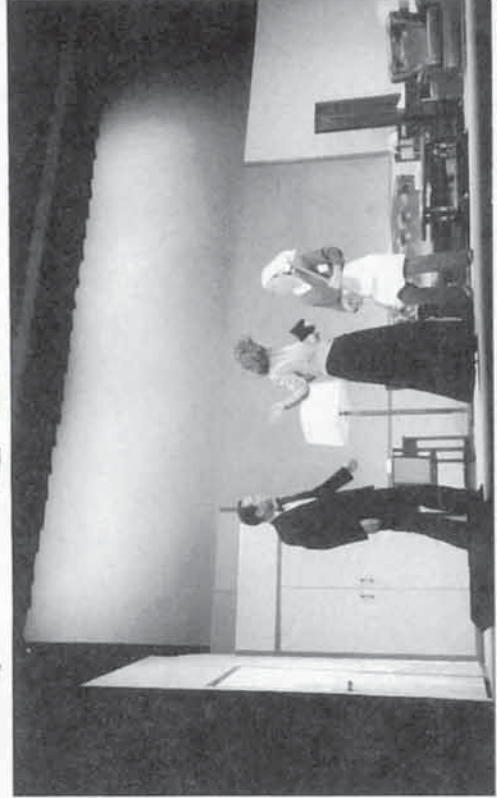


■劇団四紀会

「きらめく星座」

作・井上ひさし

演出・江口慶一



■演劇サークル麦の会

「98階の42号室」

作・飯沢 匡

演出・吉岡利根雄



■劇団名古屋

「ウソッ！」

ほんと？」

ブレヒト作「第三帝国の

恐怖と貧困」より

演出・久保田 明



■劇団埼玉

「仏ざわき」

作・東川宗彦

演出・由布木一平

<演劇甲子園>

■劇団大阪

「精霊流し」

作・岡部耕大

演出・夏原幸子

〈演劇甲子園〉
■神戸職演連

「幽霊哀話」

作・芳地隆介
演出・梶武史



■劇団大阪 「翼は心につけて」 作・寺島アキ子 演出・熊本一

■劇団京芸 「おばけリング」 作・谷川俊太郎 演出・岡井直道



〈雨畑ゼミ・小型式上演〉

■劇団静芸

「淡墨色の桜たち」

作・小島真木

演出・西横太

●東会議総会

議案書でつかえて弱った顔と顔。お立ちの三人はオブザーバーでお客様の「土くれ」の人たち。…加盟は考えもんだなア…といった表情である。



●大交流会開幕

観衆をうならせた京浜協同劇団の「権兵衛大鼓」

●西会議「演劇講座」より

説明はないが、これは茂山先生か安達先生の、どちらかの講演の時間にちがいない。談笑の中に、チャッカリ身につけている風景。



〈東会議演劇ゼミナールにおける講演〉

「今日」とは —文化論的考察— 島田 豊

(日本福祉大教授)



(1) 文化の時代

題は、こばやしひろしさんがつけて下さったんです。講演をひきうけてしまった理由は、あのこばやさんのペンテコリンな笑顔と声の調子がおどしがきくものですから、なんとなく断わりにくいことに昔からなっております。快諾したようなことになったんです。(笑い)。

先程「演劇会議」をいただいて、僕は活字を見るのは速いものですから、「今の観客と今の演劇についての小論」という栗原さんの文章を斜めに急いで読んで、大体同感だなと思って、このくらい遠慮しないで物の言える雑誌が出ているのだったら、もうちょっと早

くから読めばよかったと思いました。

この題名の付け方も大変同感です。今の観客と今の演劇という順番の並べ方も結構です。

「今日とは、ということでは何を僕がしゃべるのか」と言いますと、僕は今の演劇について論じられるはずはありませんから、みなさんの芝居を観る側の人たち、僕もその一人である見る側の人間の今日のあり方みたいなものをおもにしゃべればいんだなと考えています。

昨日話したのは、東京都民生協の仕事をしている三十才位から五十才にいたる位の二百人程のお母さんたち相手です。題は与えられたものです。「今日のくらしと文化」という

題でした。

聞いて下さる人たちはみなさんみたいに何か創造活動をしている人たちじゃなくて、といっても、生協活動をやっているお母さんたちはやっぱり、くらしと文化、を創り出す仕事をやっているわけですが、そういう人たちがともかくお前の考えている事を言えということでした。いろんな人が、今日とは、というのを文化とつなげて考えているのだなと思います。

例えば、全国の自治体問題研究所などという所があるのですが、『住民と自治』なんて雑誌を出しています。夏になると、自治体学校、というのをやります。この夏も十六百人ほどの聴衆がいましたが、文化の時代をどう生きるか、という話をさせられました。

この題も向こうがつけたんです。「文化の時代にカッコをつけますか」っていうから、「つけなくていいですよ」って言いました。始めっからカッコがついていないことが大変気に入ったので、お話を引き受けました。

これだけでわかって下さる方もいらっしゃると思いますけれども、文化の時代、という言葉がよく使われたのは、亡くなった大平元首相のブレインであった人たちが、「一九

五十年代は政治の時代であった。六十年代は経済の時代であった。これからは文化の時代だ」といってからで、日本の進歩的な人達が、文化の時代という言葉を使う時は、たいていカッコに入っています。

今日の財界や経済界や政府筋が、文化の時代なんて言葉を使うようになった政治的背景は何か、とか、経済的基礎には何があるか、とか、そういうことを批判する論文はいくらでもありますから、どうぞ読んで下さい。

僕はカッコなしのそのままでもいいから、僕が文化の時代というのを定義するからかまわないといって、講演をお引受けしました。

このように、みなさんのように演劇をやっていない、しかし、国民のくらしの領域の中で、いろんなことをやって仕事をしている生協のお母さんたちも、今日のくらしと文化のことを考えていますし、自治体の仕事をやり、自治体の問題を研究している人たちが、自分たちの、今、生きているこの時代を、文化の時代と理解した上で、僕に話をしろと言ったりしていることも、実は、今日の時代の特色のひとつなんです。

日本の統治をやってきた自由民主党という政党の内閣の指導者や、それに助言をしたり

智慧を貸したりする人たちが、一九五〇年代の頃には政治の時代であったが、高度成長期には経済の時代だった。これからは文化の時代だと言ったことには、かなり重要な意味があつて、現在でも文化の時代は続いています。

格時代という言葉もあります。三〇四の安定多数を確保し、何か怖いことをするかもしれないというのも本当ですが、今は戦争の時代でもなければ経済の時代でもなくて、まさに文化の時代なのです。今日について一言で言えというならば、僕はそこからお話を始めます。

僕の定義によると、文化問題でちゃんとしたことをやるかやらないかが、日本の政治や経済の運命にかかわるようになった時代、そういう意味で、文化の時代だということです。政財界もやっとな気がついて、高度成長時代のいろんなことについて多少の手直しをして、予算が足りようが足りまいが、いろんな文化のことについてもやりましょうと言い、それなりのことをやりました。

日本は軍事大国になろうとしているから、文化の時代なんていってもけちん坊して、文化問題など大事にしないでさうと予側した人もありましたが、その予側はたいがい裏切ら

れている。ちゃんと博物館も美術館も作ったし、劇場だって作るし。愛知県だっていろんなものの建て直しをやっています。

名古屋にはマツザカヤというデパートがあります。「生活と文化を結ぶマツザカヤ」が十年程前からの素晴らしいキャッチフレーズです。(笑)僕はこのキャッチフレーズはすごいと思います。

現在の日本資本主義が、どうしてこんなに強力であるかを実に良く証明している重要な要素のひとつです。「生活と文化を結ぶマツザカヤ」というスローガンを今から十年程前に見た時に、「生活と文化を結ぶ日本福祉大学」なんてことをもっと早く僕が言えたら(笑)今頃、日本に冠たる大学になっていたろうにと思って、大変口惜しかったことを覚えています。

大平さんが文化の時代なんて言い出したときに、日本の民主的な人たちが全く同じ様に文化の時代のカッコを外して本気になって正面から文化問題を議論するようであつたらよかったのに僕は思うのですが。文化の時代というのをすぐカッコに入れて、この政治的背景はとか、この経済的基礎はとか、これはどういう意図でとか、そういう事ばかり言っ

ているものですから、文化問題については、この十数年あるいは、この八十年代、かなり立ち遅れをしています。文化問題について立ち遅れていないと思ったり、自分達のやっていることが今のままでいいと思ったりしてられるでしょうか。しばしば企業に文化戦略というものがあります。国家の文化戦略もあります。

しかし、国民の文化戦略というのはあるのでしょうか。自治体の文化戦略というのはあるのでしょうか。住民の文化戦略というのはあるのでしょうか。そういう論文を書いた人がどこかにいるのでしょうか。これが今日という時代に僕が危機感を持っている重要な特徴です。

これも自治体学校で講演した時の僕の話の出だしです。ですから、文化の時代というのは、なんとしてでも国民の文化戦略を、国民が自分の脳みそをふりしぼって創り出さなければいけない、そういう時代と理解すればいいのです。

そうしないと日本の国の政治もきつと良くならないし、経済の方もダメである。そのくらい文化問題というのは歴史のおまけではなくて、重心的課題になってきた。そういう時代

になったということにやっとな気がついたのが大平ブレインの人たちなんです。そんなことわかりきっているんです、どんな立場からいっても。それから今日まで安定三〇四に続いているわけですが、これは、国民が愚かだからじゃありません、むしろ賢いからでしょう。

(2) 国民は賢か愚か

選挙が終わってからいろいろな分析がありました。僕は、朝日ジャーナルが直後に出した分析を国民の声だと思いましたが、「こういう結果になったことは、あらゆる人にとつて意外だったし、選挙をした国民にとつても意外だったに違いないけれど、これは騙されて愚かだったんじゃないかと、大変賢明だったからだ、次回はこうはならないだろう」と。

みなさん方の実感として、今の国民大衆というのは賢いと思っているのか、バカだと思っているのか、どちらでしょうか。それは自分の胸に聞いて御覧になるといいと思います。僕はどのように思うかという、基本的には賢いと思うことにしています。

ですから、愚かな国民大衆に向って啓蒙の講演に行かなければならないという考えを僕

は持たないのであって、そういうふうを考え
ると、何を啓蒙してよいのか僕にはサッパリ
わからなくなるから、今日の時代にいったい
国民大衆から何を学ぶのかということをもっ
一度改めて考えたいと思います。

例えば、企業の文化戦略の場合、戦略とは
言うけれど、国民を騙す事を行っているわけ
じゃない。「生活と文化を結ぶマツザカヤ」
は、年がら年中国民を騙しているわけではな
くて、ちゃんと商売をやりながら、生活と文
化を結んでいるのです。もちろん儲けて売っ
ているのに違いないですが、デパートで商品
を売ることでそれなりに生活と文化を結んで
います。

昨日僕がお話をした生活協同組合というの
は、ほとんど資本主義経営体と違いありませ
ん。商品を作って、商品として売って、でき
るだけいい商品ができるだけ安い値段で、い
ろいろな住民の人達に買ってもらって、経営
をやって、商売をやっているんです。その場
合に買う側であるお客さんたちが、生活を協
同で、よりましにする為に協同購入だとか、
自主的にいろんなことをやっている。別にイ
タリアの真似をしなくてもいいんですが、イ
タリアでは文化問題も含めて生活というもの

を協同組合でやるのが、かなり定着してい
るようです。「アルチ」なんていうものがあ
るといいます。

日本人は時々カタカナの言葉というか、手
づまりになると外国にいいことはないだろう
かと言って、昔は中国を見たり、その少し前
はソ連の方を見たりしたけれど、最近はおま
り参考にならないから、それじやイタリアぐ
らいには何かいいことはないかとか、よその
国からあり合わせの処方箋をもらってくるこ
とが流行りますね。

いろんなことがあるのですが、「生活と文
化を結ぶ都民生協」なんです、やっぱり。

「生活と文化を結ぶ」という言葉だけをとれ
ば、下に「マツザカヤ」がくつつくか、「都
民生協」がくつつくか、「名古屋市政」がくつ
つくか、「日本福祉大学」がくつつくか、い
ずれにしても、生活と文化を結ぶということ
は、とっても大切な課題です。

これがここ数十年、国民のいろんなことを
問題にする時に、とても大切な焦点になっ
てきたということに、八十年代に入る頃にやっ
と大平ブレーンは気がついた。だからエコノ
ミックアニマル等と言われてきたことをいろ
んな方法で多少は手直しをして、片方で核問

題等大きな問題をかかえ、また、国家機密法
などを通したいなら、なおさら、文化の時代
でがんばらなければ、国民の中で安定多数を
確保できないことに気がついた。そういう時
代です、今は。

それに引きかえ、リアリズムでも何でもい
いのですが、自分では国民のためにいい事を
していると思う人たちの側では、そんなにむ
きになって、文化の時代にこの五、六年とり
くんできたでしょうか。もっと言うなら、十
年位前から、いや、十数年分のたち連れがあ
ると僕は思っています。だから今日いろんな
事が見えないんです。

ついでにもう少し言いますと、これは高度
経済成長がもたらした変化です。高度経済成
長についても同じことを聞きたい。あれは良
かったと思ってるのですか、悪かったと思っ
てるのですか、皆さん達は？

あまりくどくど長ったらしいことを言わな
いで、高度経済成長があって、日本の国民の
生活が変わって、基本的に良かったと思ってい
るのか、悪かったと思っているのかというこ
で、保守でも革新でもいいから、日本の現実
の今日という見方が違ってくると思います。

僕は簡単に言います。大衆は賢いと思うこ

とにしていると言いましたが、高度成長の日
本の中でおこったたくさんのは、基本的
にいいと思っています。つまり、歴史は発展
しているということです。そうじゃないと、

「生活と文化を結ぶ」とか、「文化の時代」と
いう発想は出てこないのです。良かったと言
うのは、自民党政治が良かったと言っている
のではありません。そんなことではありませ
ん。

高度経済成長以前の日本と比べたら、日本
ははるかに文化的に前進したし、国民生活は
比べものにならないくらい良くなったし、い
ろいろステキなことがあった。そういうこと
をもたらしたのは国民自身の力なんだと考え
るのか、特別なブレーンの人や特別な政治家
の首頭の取り方が良かったと考えるのかは、
別です。むしろつらい思いをしている人がた
くさんいるのも知ってます。だけど僕はク
ールに言います。第二次大戦後四十年間、「貧
しき人々」というタイトルで小説を書いた小
説家は一人もいないんです。昔はドストエフ
スキーが書きました。宮本百合子も書しまし
た。

今日、僕は日本福祉大学にいますから、僕
の友人達が、「現代の貧困」とか、「新しい

貧困」とか、いろいろと論じているのは百も
承知で、その上で言っているのですが。小説
家というのは自分に正直ですから。「貧しき
人々」という小説を書いた作家がこんにち一
人でもいたら、僕は教えていただきたい。僕
は知りません。

日本はそういう国になりました。この豊か
さが本物であるかないかを問うのはいいです
が、高度経済成長の中で物質的には豊かになっ
たけれど、精神的には貧しくなったとか、精
神文化は貧困になったとか、いろいろなこと
をいう人がいます。僕は全部まちがいだと思っ
ています。そういうふうな議論のたて方は、
思想的にも、進歩的にも、何の関係もありま
せん。

つまり、高度経済成長において、歴史が進
歩したと思うのか、歴史がますますダメになっ
たと思うのかは、一つの分れ目です。これも
時間をかければ、僕はいくらでも証明しま
す。例えば、日本人が生野菜を食べる様になっ
たのは、高度経済成長以後のことです。昭和
四十年前後、一九六五年位から、レタスをは
じめ生野菜にちよっとしたものをひっかけて、
鳥のエサみたいにして食べるようになりまし
た。これは栄養状態にいいはず。なぜ、

昔の日本国民が生野菜を食べなかったか。有
機農業をやっていた、野菜にはワジや大腸菌
がたかっているし、蛸虫が湧く様な諸条件を
たくさん持っているから、きれいに洗って漬
け物に漬けるか、ニンジンでもダイコンでも
ゴボウでも、やっぱり煮るのが普通であつた。
ニンジンでもダイコンでも生でボキボキと細
く切って、それをサカナに酒を飲むようになっ
たのも高度経済成長の後からです。

「貧しき人々」という小説を書いた人がい
ないといつても、今日、日本の社会の中で、
つらい思いをしている人がいっぱいいること
は僕も知っています。しかし、僕がものをい
う時、つらい思いをしている人々というのは
わりと僕の日常の実感で肉声で言えますけれ
ど、「貧しき人々」というのはかなり照れく
さいです。

思想や社会科学なんていう領域では、いろ
いろ分析をして、「やっぱりそれにもかかわ
らず、今日、国民の第5文化は深まりつつある。
とか、」にもかかわらず、国民は貧困である。
ということはできます。

しかし、日本という国は、誰のおかげで、
誰の成果であるかは別にして、やっぱり世界
第二の経済大国であって、第三世界の人で餓

死している人がいる時に、日本で餓死している人はいないわけです。国民の体力も全体として伸びている。僕なんかは昔、六十代になっただらさっそく死ぬだろうと期待していたら、最近困ったことに八十代位まで生きるってことになってしまったものだから、今の現代医学や栄養状態から言くと、あと僕は長いんですよ、まだまだ生きるの。(笑い)核戦争で死ななければ、ですが。

(3) 大衆は何を考えているか

こうして日本が経済大国になれた最大の理由は、日本が戦争をしなかったことです。アメリカの朝鮮戦争、ベトナム戦争の基地にはなったけれど、日本自体は戦争の当事国ではありません。戦争の当事国であったアメリカはベトナム戦争で敗北することを通じて経済力の点でもいろいろ日本に押しまかれるような条件を作りました。

戦争がいつでも資本主義を儲けさせるとは限らない。日本という国でも中曽根さんはいろいろ言いました。軍事費がGNP1%を超えるか否かは重大な争点です。しかしこれも誰のおかげであるかは別として、戦後日本の

国民はよってたかってGNP1%内に軍事費を押さえてきました。

そういう条件があって日本は基本的に平和なんです。だから奇蹟の経済発展というのも成しとげた。政治経済の分析として大さっぱすき話ですが、一番基本的なことです。だから自民党内部でも1%を超えるか否かは大きな問題にもなるし、中曽根さんの人気も1%枠に手をつけるかどうかで、世論調査でもグッと下がります。基本的に日本は今、平和なんです。

「板子一枚下は地獄だ」という言葉があります。僕もよく知っています。反核平和の「ピースサンデー」の委員長なんかもよくやりましたから、核問題が大変である事もよく知っていますし、しかし、板子一枚あれば、その下が地獄であろうと、人々は生きています。そこで問題になるのが、生活と文化を結ぶ課題なのです。

僕の友人で核問題にモレーツに熱心な人たちがいますが、「反核日本の音楽家たち」も非常にいい事をやっていると思います。が、その人たちが年がら年中反核音楽しかやらなかったら、僕はそういう人達の音楽を聞きません。つきあいかねるねと思う。二十四時間

核問題を考えて生きているわけじゃありません。僕が日々を生きている時にはもっとたくさんの方のことを考えています。

「うまいものを食いたいな」だとか、「コレ、俺に似合うかな」「最近テレビドラマみてるの不倫問題が多いけど、一人位僕にウィックしてくれる人いないかな」とか、いろんなこと思いつきながら生きてるのが普通なんで、そういうことも出来なくなるから死なない方がいいねと思ってるだけで、一年に何度かは反核集会をやる必要もありますけど、毎日、今日の核時代の芸術は反核芸術でなくてはならないという話を聞かされると、そうかなあと思います。

似た様な事はいっぱいありまして、政治ということではいろいろな問題になる領域、これも今日というものが持っているいろいろな特徴です。経済ということにかかわってもいろいろありますが、ここ十数年というのは、日本資本主義の持っている実力を最大限に発揮した時代です。

例えば、石油ショック以後とよく言いますが、日本の資本主義が本当に強くなったのはそれ以後です。経済危機の一番深刻な時代と言われながら、経済の立ち直りは世界で一番

見事だった。石油が無くてはどうにかやってゆける様な経済体制も一生懸命に作った。で、今、石油はとても安くなりました。

七十年代が終る頃になると、日本資本主義というのは「ジャパン・アズ・ナンバーワン」とも言われる様になった。実態はともかく、日本がナンバーワンと言われる様になって、また、五・六十年なんです。いつ頃かという、第一次石油ショックがあつて、七十年代の末頃から日本はしばしばいくつかの分野でアメリカを圧倒するようになった。

今日、二十一世紀は日本の世紀といわれているのはオーバーでも、このままの体制ですっていったら、米・ソ・日本が三大強国になっていると思います。これは疑う余地がありません。日本人はその程度賢いんです。日本の大衆というのは、みんな汗水流して働いて自分たちの生活を良くしようとするし、会社人間になったり、受験体制の中でしごかれて勉強したり、ありったけの智慧をはたいて機軸闊市時代から今日の様な日本を築いてきました。

そういう時の様々な物を見極める能力はたくさんあります。だから、電通や博報堂など企業の文化戦略を考える人たちは、一所懸命に日本の大衆を見つめています。

「分衆の時代」という。こぼやしさんが紹介してくれたように十年程前に僕は「個人の自立」ということが不可避的に歴史の課題となり、いやおうなしに国民は自立しはじめており、価値の中心に個人が座るようになっているのは、今日の時代の特長である」と言いました。そのかぎりでは、博報堂等と一致するのです。

僕が、そんな演説をやった時の理論的基礎は、カール・マルクスです。資本主義が発展すると、いやおうなしに個人は個人として人格的に独立していく。これは発展すればするほど、そうなるのです。だから、高度経済成長で満開になった現代日本資本主義社会を見ていて、大衆が十把ひとからげて画一的商品を買うのではなくて、分衆の時代となったとか、テレビのコマーシャルを見ても「自分らしさ」が最大のキャッチフレーズです。

昔、講演したことがあります。六十年代高度経済成長の頃までの女子学生は、教室に入るとすぐわかるのです。スカートの短くなると、皆そろって短くなる。長くなると一斉にそろって長くなる。だから、今、ロングが流行っているのか、短いのか、僕は下だけをぞいてたわけじゃないけれど、教室に入ればすぐわかりますよ。(笑い)しかし、それ

が今日では変りました。スカートの長さも、寝床からはい出して来たかのようなタン袋みたいなを着ている人も、いけば、短いから長いから、Gパンはいてるのから、一人一人みんな勝手な格好をしています。そして、一人一人が勝手な格好をして歩いているほどに日本女性はフランス女性になりました。

今から二十年程前の日本のインテリはこんなことを言っていました。「日本女性は主体性がなくて流行に振り廻されて、みんな画一的だ」と。「フランス女性を見ると、みんなクリスチャン・ディオールの真似をしているとは限らないので、フランス革命を通過した国は素晴らしいものだ」と。「みんな一人一人が自分自身の個性的判断で自分に似合った格好をする。だからやっぱりフランスの女は素敵だ」等。

当時のヨーロッパかぶれの日本のインテリは言っていて、日本女性を見下していたものです。その程度のことは、今日の日本女性はみんなやるようになりました。「これ似合う？」ってことを考えて「自分らしく」着ているようになったんですから。その上で商品を作って売る方は考えているのです。大衆生産、画一方式で成り立つのか、個人注文生産

等をどこまで加味するのか、大さっぱに大衆ということであつかわないでひとりひとり違ふのだ、とか。

最近「知衆化の時代」と言われるようになりました。これは最大のおべっかかもしれませんが、企業の方が国民をバカにしないことを知っています。どの位賢くてどんな要求を持っているか。企業が文化戦略を立てる時には、国民の文化的要求は何かということをして死活を賭けて研究するのです。

(4) 誰が大衆をつかんでいるか

死活をかけてそれを研究する、それは追隨でも迎合でもいい。本当にここ十数年大衆迎合をやり通した作品はあるか、本当に大衆に迎合できた様な作品がどこにあるのか、本当に大衆に追隨できたステキな作品が日本の文化界のどこにあるか教えていただきたい。

僕がたった一つ上げるのは、「男はつらいよ」だけです。今、「キネマの天地」を山田洋次が作りました。脚本を書くのに、井上ひさし、山田太一の協力を求めました。選り方も優秀ですね。

僕はナマケものですから新劇はあまり観ま

せんが、井上ひさしの芝居は観ます。面白いし、刺激があるし、観てきて損をしなかった気になるから。山田太一のテレビドラマも観ます。「ふぞろいの林檎たち」これは日本の四流大学の学生と卒業生の身の上を描いた作品としては傑作です。現代をあれ程うまく描いた作品を僕は知りません。テレビドラマというのはいやおうなしに、テレビというメディアが今日の最も末端の、現実の国民生活を追わなければならないことは否定できないでしょう。

「男はつらいよ」は十数年、六十九年に第一作を作つて三十六作まで。僕が七十年代の初め頃、東海道新幹線のひかりの停まる所はみんな革新自治体になりました、なんてうれしがつて話をしたことがありますが、そういうものはなくなりました。しかし、「男はつらいよ」だけは国民に愛され、今日まで続いています。何故か？それは実に見事に大衆の要求に答へ続けてきたから、それ以外に何の説明もないと思います。

その時の大衆の要求とは何であつたか。山田洋次のやった仕事は、秀れていると思うのか、くだらないと思うのか。大衆迎合だと思ふのか、追隨だと思ふのか。日本の文化に彼

は悪戦苦闘して新しい道を切り開いたと思うのか。ただの娯楽作品づくりと思うのか。演劇は、映画ともテレビドラマともジャンルが違ふことは知っているし、井上ひさしだってそれをわかっています。井上ひさしという人は、毎回、手練手管を交える人です。彼は趣向を変えたりいろんなことを工夫しながら、七転八倒しながら、自分の言いたいことを趣きを変えながら、見る人のところへ差し出してくる人ですが、山田洋次の方は、断固として十六年、「マンネリズム」を貫徹した。

この「マンネリズム」の貫徹の仕方は、相応な才能を要します。やってみたらわかります。一年二作、全く安定したマンネリベースの中、ワンパターンだと言われながら、ちゃんとお客を集め続けて、松竹をにない、経営をささえ続け、松竹の全従業員に月給を払い続けた。山田洋次が払ったわけじゃないけれど、彼が「寅さん」を作っていなかったら、みな、失業しました。

僕の知っている限り、アニメーション映画を除いて、松竹で黒字になるのは毎年、「寅さん」と、あと二本か三本です。ですから、そういった危機的状況の中で生き残った仕事の中には、学ぶべきものがあると僕は思つて

います。

悪口を言う前に、何故、創造性をなくさず国民の中で試され続けたのだらう、十数年にわたつて国民は騙され続けたのだと考えることは、国民を侮辱することです。それは企業にも劣る。そんなに愚かじゃないのです。

博報堂が「知衆」と言うくらい、今の日本の国民大衆は賢いのです、僕らが啓蒙をして歩かなくても。だから僕は啓蒙演説なんかする気にはなれなくて、テーマを向こうが付けて、そのテーマと僕の気持ちとが折り合った時にはじめてお話をしにいくというのは、もったいをつけているのではなくて、「君たちまだこういう事知らないでしょ、気がついてないでしょ、今や」という話をするには、日本は大衆高度な情報化社会で、テレビみてるだけでたいいのことはわかります。

社会主義の信用が落ちているというのも、情報はいくらでもあつて、それについても皆さめた目で見ているのだから、そう不思議なことじゃありません。例えば、ゴルバチョフが登場して、どうして社会主義、我がソ連においては、お客さんが買わない靴が大量に生産されるのか、権力の座についてはじめて、売れる靴をつくろうと呼びかけ始めました。

大衆迎合をやり直さなくてはならないのです。

みなさん方もモスクワの街へ行つて百貨店に並んでいる靴を、ソ連旅行の記念に買つて帰ろうという気にはならないですよ。多分イタリアへ行ったら、靴買つて帰る気になりません。いいですから、皮もカッコも。そういうレベルで競争が行なわれていて、敗北を喫していますから、いまの社会主義みたいな国にしたいと誰も思わない。僕も思わない。

日本みたいな国で、もっと生協が努力をして、買いたい方の要求に答えて生産をして、ドンピシャり合つて、無駄がなくて、みんなに喜んでもらえる商品が生産されて、それが流通機構の中で、官僚主義など起きないで、ちゃんと国民のところへ手渡される。そういう訓練をたくさんやったら、社会主義というのは国民のものとして成立する。いつか突然そうなるということではなくて、堂々と、現実に生活協同組合のことを地域でやってきたお母さんたちが自分たちの生活の中で学んで、自立と協同を、能書きだけでなく、現実の生活の中でやっている歩みが大切でしょう。

さて、これを言うとみんな笑いますが、例えば、テレビドラマを観て、僕は「必殺！」という番組が大好きです。これは奇をてらい

たくて言っているのじゃありません。時々学校の先生の中で、テレビの暴力番組の例として、「必殺」をあげる人がいる。そういった能力や批評の基準では、今日の時代の文化等わからない。例えば「水戸黄門」というのがあつて、昔、東野英治郎がやっていた。なぜ新劇の俳優というのはあんなことをやるのですかね。「大岡越前」を加藤剛がやっている。「遠山の金さん」は中村梅之助から、今日、高橋英樹に変わっている。「水戸黄門」や「大岡越前」や「金さん」は暴力番組でなく、「必殺」は暴力番組だと思ふというような、PTAママのような批評をやっているのは全然ダメです。前の方はもうおわかりでしょう、権力者が民衆に少しものわかりのいい顔をして、民衆の中を歩いて、一番最後、「葵の御紋が目に入らぬか！」とか、もう肌脱いで「べらんめい」をやってみせたり、あるいは「大岡越前」のように名奉行ぶりをやる人、みな権力をもっているんです。「破獄門」と命ずればいい。「破獄門」の方がはるかに残酷です。これは昔からのパターンで、大衆民衆に対して物解りの良いやさしい権力者がいてくれたらなあという願望は、大衆文化の中にあつて、これはリアリズムとは言われませ

ん。皆さん方は間違ってもそんな芝居はしないでしょう。

僕は一べん東野英治郎や加藤剛に会った。聞いてみたいのです、何故ああいうテレビに出るのですかと。もしかすると、新劇は貧乏だからテレビに出てアルバイトしてるのかも知れないのですが、もし、日本の文化庁が新劇の援助をしてくれたら、我々はテレビで、身すぎやすきやらなくてもいいのですが、なんて言ったら僕は軽蔑します。大衆を愚弄しているのものはなはだしいので。もうちょっと体裁の良いことを言えるだろうと僕は思っています。東野英治郎は死んでしまいましたが、加藤剛はまじめでいい人ですから、何故彼がテレビに出て「大岡越前」をやるかについては、彼なりの見解があるでしょうから、聞いてみたい。中村梅之助については、やってよかったのです。それで彼がスターになって、前進座が今日つぶれないでいるから。(笑)

出ることに反対しているのではなくて、なんでやっているのか、どんなメリットがあると思っているのかを聞きたいのです。演劇はもうからないからテレビでこんなことやってるのは実は恥しいことで、本当は文化庁が援助してくれればというぐいのことを言っ

ていけば、国民から見捨てられるのは当り前のことです。

それを言った上で「必殺」の方がはるかに良い。「必殺」は高度経済成長をくぐりぬけた日本国民の要求に答えた実にステキなテレビドラマの一つです。もちろん、満点はつけませんが、どこがいいか？ ちゃんと金ももらって人を殺すところがいい。(笑) ちゃんと大衆から一画もらってやるんです。金を一画もらってやる連中は民衆の仲間なんです。

普通は市民生活をまともにやっている。僕も昼間は日本福祉大教授で、夜は必殺仕事人なんてやってみたい。(笑) できたら、気持ちいいでしょうね。こんな世の中に生きていて殺したい人間の二人や三人いない人は、よほどどうかしている人で、僕はいますよ。(笑) でもやると損だから、やらない。完全犯罪なんて精密に出来ないと思うから。あんなの殺して自分が刑事犯になるのは引き合わないから、じつと我慢する。(笑)

昨日、僕が今みたいな冗談をいったら、会場へ来ていた二百人程の生協のお母さん達の圧倒的多数が笑いました。それはたぶん同感の笑いです。もちろんテロリズムは間違いで、憎たらしい二・三人を殺したくらいで世の中

変らないことは自明です。そんなことを説明しなくとも普通の人は皆わかっている。ストレス解消のために、「水戸黄門」でやるのか、「遠山の金さん」でやるのか、「大岡越前」に頼むか、みな、お奉行様や天下の副將軍だったり、菱の御紋を持っている。「必殺」では、養子で下積の小役人で、昼間フラフラやっている奴が、夜になるとみごとな太刀さばき、「ブスッ」と畳針でやってくれたり、背骨ボキボキやってくれる。(笑)

「必殺」が始まって十数年になり、学校の先生やお母さんの心配をよそに、日本の子供が友達に畳針をブスリと刺したり、背骨をボキボキやった事例は一つもありません。いじめなんかとも何も関係もない。別にブスッ！とやることを礼賛しているのではなく、少くともそういった大衆娯楽作品の世界でも、高度経済成長以前の日本的伝統を引きずって、今日でも無難なドラマということでスポンサーが金を出しているテレビドラマと比べたら、「必殺」はいくつもの新しさをはらんで、もっと大衆に密着しているのです。

そして、そういう作品は映画になります。「必殺」は映画にして、映画館に一定のお客を呼び集めることができる。しかし今、「水

戸黄門」や「遠山の金さん」を映画にしても、映画館にお客は来ません。「必殺」なら客は呼べます。僕の知る限り二回映画になっています。少くともそれはトントンにはなっています。

つまり大衆はその程度バカじゃない。テレビは視聴率が大事です。だから断じて民放は浪花節と講談はやりません。ラジオでもめったにやらない。「浪花節だよ人生は」という歌謡曲が流行りました。しかし、あのリズムやメロディーは浪花節ではない。もと、浪花節語りの女が唄いましたが、浪花節は戦争中は流行ったかもしれないけれど、戦争後、特に高度経済成長以後は、日本人の音感の世界から消えた。

浪花節は天皇制礼賛をやった。「靖国の母」という浪花節は、作ろうと思えば作れます。ああいうセンチメンタリズムで。講談でも「軍国の女」という講談ができます。落語では出来ません。落語で「軍国の母」を作るのは大変なことです。(笑) みなさんは芸術家だからすぐ笑われるのですが、芸術のジャンルとはそういうものだと思う。落語はあらかじめ、天皇制文化になることを排除している。その落語というものは、少なくとも国民に愛され続けています。三枝が司会を

やって墮落したという人もいるし、寄席が繁盛しなくてピンチという人もいるけれど、テレビもラジオも一定の視聴率を確保するものとして、落語を取り上げている。

こういうことを考えても、戦後四十年は無駄に過ぎたんじゃない。そして、今言いたみたい、ただ大衆の中にあつた大衆芸術だから滅びていつ悲しいというわけのものではないのです。明治末期に、「娘義大夫」という大衆芸能があつて、女の義大夫語りがうめき声を上げて、眉にシワをよせて、何かのクライマックスみたいな時の顔をして、声をしぼつてみせた。

白樺派の作家達、志賀直哉や有島武郎なんてのは、それを見て、今のロックバンドを観に行く若者のように掛け声かけたりして、若者はいつの時代も変らないところもありますね。後の白樺派の作家だつて、娘義大夫は大好きだった。眉にシワ寄せて、セックス寸前の様な顔をする志賀直哉なんかもしびれた。もちろん、「暗夜行路」を書く前の話です。(笑)

その当時、そんなことが流行ったんですが、女義大夫語りが娘義大夫をやつて大衆の人気を集める時代は完全に終わった。文化庁が保護

しようが、金を出そうがつぶれるのは当り前だし、復活のしようがない。浪花節を多少郷愁を持っている老人がいたとしても、今時、国立劇場で娘義大夫を復活させるなんて人はまずいないでしょう。

(5) 「寅さん」から学ぶもの

高度経済成長が一応一段落して、八十年代に入つて、大平ブレイクが「文化の時代」と言いだしたその十数年間にいったい国民の文化要求の中にどんな変化が起こり、国民がどういう国民になつていて、その要求に積極的に対応する要素は何なのか。もちろん弱点もある。その点については、叱咤激励しておこつたりしないでいいわけで、文化要求をもっともっと大事に育てていっそう豊かにすることです。

それを山田洋次は「寅さん」でやりました。平和についても、民主主義や憲法についても寅は演説をやりませんでした。寅がいろんな形で国民に伝えてきたことは、その精神にもふさわしい人間的なものでした。価値観の多様化の時代にうけとめられる寅みたいな人物を設定した。

寅はもちろんフィクションで、とらやの隣に印刷工場なんてありません。労働者諸君なんていません。山田洋次は最初の第一作から、とらやの隣に労働者諸君が働いているこの場面を設定して、寅に「やあ、労働者諸君君達は賃しいね」とか「今日も元気でやってるかい？」とか「今日もちゃんと仕事やってるかい？」と言わせ続けているのです。十数年、それがちっとも演説にならないで、観客は聞いて笑います。そして、いろんなつらい思いをしている理由の人物を登場させました。寡言化法則の証明は決してしませんでした。

よく僕は「寅さん」しかほめないと文句を言われますが、本当に意識的にそうしたことがあります。つまり、今日の日本で芸術創作活動をやっている人達に、国民の方を見てほしいから、あえて、皮肉たっぶりの言い方をすれば、大衆に追いつく能力をもてほしいから、やれるもんなら迎合してみろ！と言いたかったから。誰が成功しましたか？迎合するのはラクじゃないんです。なぜかという、資本主義が発展すると賢い民衆ができるので、あまり見えすいた迎合をやるとしらけるんです。「寅さん」も二・三回やるのは簡単かもしれないが、十数年もっているのはなぜかを

考えねばならない。山田洋次は毎回映画館へ行って自分の作品を見ている。どこで観客が笑い、わかってくれたり、また、泣いてくれるか、ちゃんと研究している。その山田洋次の映画論や大衆論、観客論の全てを動員したのが今回の「キネマの天地」です。解説しなくても観ていただければわかります。

日本で例えば、日本映画が危機になってつぶれるのが心配だといながら、松竹がつぶれても差しかえないという人を僕はバカと言います。松竹がつぶれる時は、日本映画のつぶれる時です。

日活ロマンポルノというのがあります。それは、日活労働組合管理の下で日活映画会社を作っている。つぶれかかっているのを労働組合の委員長が重役になって再建したんです。それが製作の側に能力がないから日活はポルノしか作れないのです。僕もポルノだって好きです。でも毎回見なくてもいいです。(笑い)年ですすね。「寅」じゃなくても、チャペラでも恋愛でもいいから、僕が娘と一緒に観て行けるような映画を作ってくれて、日活が再建されるといっています。教えるも就職してるし、僕もかたずを呑んで見ているのですが。時々もうポルノ路線をや

めようかと言われるんです。またもどる。

どちらにしても物事の批評はあまり荒っぽくない方がいい。自分のやっていること以外は、みな、資本主義の手先であるとか、人はみな騙されているみたいに思うのは、国民を愚弄することです。それは企業の文化戦略をたてている博覧堂や電通の分析家たちに劣る。

そういうことを見て思うのは、中曽根内閣のむきだしの軍国主義が何を言っているのかを批判するのは割合に簡単です。

軍国主義イデオロギーや靖国参拝の意義については私たちに批判の実績もある。今度それは国際的な批判の下で少くとも中曽根は下りた。教科書問題も、中国の批判の下で、あまり露骨なものは手直しをした。

が、日本の国をどうするかという勝負は、国家の政治のレベルで行われていることを否定はしませんが、他方たえず市民社会の中で行われている。市民社会の領域は、資本主義経済が満開になって、あらゆるものが商品として交換されて。そうでしょう。生協にしても商品を売っている自主的な団体です。それを質をよりよくということに国民がよってたかってやっている。劇団はぐるまの作った劇場も、資本主義の原則を守らなければつぶれ

ていたでしょう。

日常茶飯事のごとく行われている勝負が、政治だけでなく経済の領域でも毎日行われている。しかもそれは経済学者が理屈をこねる領域で行われているのではなく、人が何を買い買わないかという勝負です。商品を買う時に、人間はだれでも対等平等になります。金をいくら出すから、それに見合った商品を出すということです。

ですからもう一度考えた方がいいことは、資本主義が満開となることは、歴史的にどんなに進歩的な現象であるかということです。これを進歩史観と悪口をいわれる唯物史観はカール・マルクス以来全力を尽くして論証しましたが、資本主義以下の社会と比べれば、資本主義社会ははるかに画期的に輝かしい世界です。こんなステキな世の中は無いくらいです。

しかし、御存知の通り、資本主義の社会の中で生きてゆく時に、人間は様々なつらい思いをします。「寅さん」に「つらいことがあつたらとらやへ行つてごらん」と言われる理由の人はいっぱいいるわけです。くらしの領域の中でも、時間が貧乏だということから、やりたいことができないというつらい思いを

している人はたくさんいます。しかし、僕はこの体制が永遠に続くとは思ってないし、乗り越えたいと思っていますが、資本主義以下のことを考えていては、乗り越えられないのは当たり前です。

だいたい今日どんな理論家でもいこうになりましたけれども、いまの社会主義がいいとはいえない。いわんや、できあがったばかりの貧しい社会主義なんてたいへんです。僕はベトナムへ行つたことがあります。戦後二十数年、あのアメリカを追いつつ、戦争ばかりやっていた社会主義の貧しさというのは、戦争直後の日本を思い出します。

僕はあのホーチミン市でも北ベトナムでも旅行して歩いていると、戦争ってのはこんなにひどいものなんだと思う。社会主義といったってですね、国民生活なんか豊かにできないんだねと思います。ポロトビープルで逃げだす人があるのは不思議でない。

タバコなんて数本しか配給がありませんから。戦争直後の日本にそっくりです。それでおかつ、カンボジアに侵入したなんてことがありますが、僕はベトナムの奔襲をします。

人間を虐殺するよりはすつといい。それは自分たちが腹を減らしてでも、あの緊急事態

の中でベトナムの人達が入って行って、貨幣経済を復活させた。そうですよ。カンボジアで無茶なことやって、資本主義以前の状態をやりやうとして、カフェをつぶした、インテリを殺した。資本主義の技術なんかを身につけている人をみんなやってバーにして、白紙にして、なんにもないところから原始的共産主義なんかを創ろうとした。大虐殺が始まった。それをベトナムが入って行って、少くとも貨幣経済を復活させて、目前で商品交換が行なわれるようにした。金の世の中って、ある場合とつても公明正大な世の中ですから。そういうことはベトナム・カンボジアの場合もそうです。

どんなに体制の能書きがどうであらうと、戦争を二十年も三十年もやっていたら、ベトナムの人たちが貧しいのは、驚くにあたらない。貧しくないようなことを言ったらその人は嘘を言っていることになる。

中国でも僕は昔も知っていますし、最近も知っています。上海なんか行つてみると、僕なりに涙がこぼれる。僕が一番テレビを見てすばらしいと思ったのは、上海でファッションショーが復活して、中国の女性たちがみんな人民服を着なくなった。ちょうど戦争直後

の日本の女性たちがモンペを授けずして、スカートをはくようになったと同じように、ちゃんと人民服を授けずして、中国の女性たちがファッションショーをやつて、昔のふともものさけてるあでやかな中国服を着て現われた時、僕はかみさんが隣りにいただけれどもハートが高鳴った。その方がいいに決まっているんです。

だから、たかが服装の世界で何がはやっていかなんてことじゃなくて、一つの国の国民の生活と文化がどういう状態になっているかということをファッションショー一つのあり方によって、僕たちはみてとることができると。

で、誰も今の中国やソ連の方がステキでないと思うことは、僕はマルクス主義の思想から言つたつて当然のことだと思います。ちつともステキでないですよ。第一、僕は、文革の時代の中国なんかに生きていられなかったと思うし、老舎と同じように殺されたかもしれないように思いますし、そんな国にいたいとも思わない。これは当然の話で、日本にいるから僕はこんなことが言える。

(6) 八十年代を生きるには

ソ連も知らないわけじゃありません。ベトナムでもそうです。そういう意味では、日本にとつて模範がなくなったということについては資本家もそう思っているし、僕らだつてそう思っている。もうそろそろ本当に腹をくくった方がいいです。だから僕は栗原さんの文章を見てて感心した。僕は元来ブレヒトは好きです。ずいぶんいろんな事を学ばせてもらったし、千田是也つて人も尊敬している。だけれども本当にブレヒトが一九三十年代の時には先駆的であつたにしても、八十年代の演劇でありうるかどうかということについては、僕はこれを書いた人と同じ程度に懐疑的です。

よつぽと優秀な演出をやつてですね、よつぽと今日の観客達に理解されるように料理したら、僕は千田さんに改めて脱帽しますけど、これは相当に大胆な試みをそして悪戦苦闘してやらないと難しいだろうなあ、僕は思います。

何をそろそろ言おうとしているかということ、こういうことです。だいたい一九七十年代の初め頃に、一九三十年代の財産で飯を食うということは完全に終わった。どの分野でも。

それにいつ気がついて探求をするか。例えば、「男はつらいよ」は六十九年が第一作な

んです。今日までずっと続いているのは、同時代とともに生きたからです。少なくとも「男はつらいよ」という映画の中には、戦前のプロレタリア文化運動の伝統というのは直接にはひきつがれていないんです。違いますか？あの中には松竹映画の伝統があり、かつ、山田洋次の独創があるだけです。それから、落語の伝統の吸収が最大限にあります。山田洋次は落語つづつて芸術祭賞ももらいましたから、ありとあらゆる意味で日本の庶民の勉強のし直しをやつて、そして、七十年代の歴史の激動にたえる仕事をした。

井上ひさしの戯曲つてどういふものでしょうか。いろんな議論があると思いますけれども、たいへん生真面目な新劇をどうやって乗り越えられるかというのは、彼の一つの重要な課題であつた。

もうありとあらゆることをやつてみた。彼は戯作からいろいろな伝統の発掘から、だじやれから笑ひから、言いたいことをつたえるのにいろんなことをやりましたけど、ともかくお客をひきつけています。僕も観に行きます、井上ひさしの芝居というと、何を削っているのかなと思つてひき寄せられる。時々ただで芝居の切符をもらいますけれども、それでも

時間がおしいと思うものは観に行きません。

これは僕のやっている思想の領域でもそうです。戦争が終つた時に、三十九才の真下信一という先生、今から考えれば青年ですね、三十九つていうのは。そういう哲学者に十七才の僕、島田豊君が会つた。当時僕は美少年であつた。(笑)今はもうこういうふうになりましたけども。

大変なものですよ、戦後四十年の歴史というの。その時に会つた恩師真下信一というの、一九三十年代四十年代の、日本知識人のヒューマニズムと反ファシズムと、マルクス主義あるいは唯物論で、自分の身を支えて、じつと特高に監視されて生きていた、そういう先生です。

僕らの先生の世代というのは皆だいたいそういうふうです。いま、七十代になったり、八十年代初期になったり、全分野にいるんじゃないでしょうか。千田是也いくつですか？宇野重吉いくつですか？たぶん僕の恩師たちとだいたい似ている。

そういう人たちはいいことをやつた、戦争の時にそれに屈服しなかったし、よく戦つたし。そういう財産の下で、例えば三十九才の真下信一の十七才の弟子である島田豊君とい

うのは、戦後マルクスを読んだりなんかした。その後も平和とか民主主義とか憲法とか大事だと思つて生きています。

それはありがたいことでしたが、僕は真下さんと共に一つの時代が完全に終わったと思つています。僕は先生の著作集の編集をしましたが、世間の人は僕を愛弟子だと思つてくれるけれども、亡くなって以後、僕は追悼論文はほとんど書けなかった。つまり、何年かたつたら先生の歩みを総括するつもりですけども、亡くなった直後はただほめないわけにはいかないでしょう。だから僕は心をこめて思ひ出話を書いて、先生さようならというのを書いて、「いつでも先生は青年を愛されたが、エビゴリネンをつくることを望まれてはなかった」というふうに結んだ。自分なりにそういうふうを書くことが、僕は先生のいい弟子であることだと思つています。

つまり終つたということは僕の領域でも証明できるんです。一九六七・八八年に、岩波で「哲学講座」というのが出たんです。これは僕らの前の世代、つまり真下先生の世代が作った岩波哲学講座です。この時には、古在由重、栗田賢三、真下信一、あるいは務台理作、いろんな人がいますが、ともかく、平和だとか

民主主義だとか唯物論だとかマルクス主義だとかを支えにして、岩波の「哲学講座」が一九六八年には出来たんです。僕の先生たちは編集委員であつたんです。

で、八十年代の、去年ですか？新しく岩波で「哲学講座」ができた。リアリズムと唯物論では、たぶん親戚筋のところもあるんだろうと思いますが、唯物論哲学者というの、一人も参加しなかった。全部排除されたんです。つまりおもしろい論文を書かないから、ああいふ連中はオミットしようということになって、それで岩波の哲学講座は成立した。べつに岩波という本屋が反動化したというわけでもないでしょう。ほかにいい仕事もしています。

つまりこの十七・八年の間に、かつて六十年代の時にそびえ立っていた先輩たちの陣地というのは、僕ら後輩たちによつてまともに受け継がれなかったというひかえめな言い方をしてもいいし、その財産だけにたよつて、一九六十年代をもう一度くり返すということ、八十年代の今日我々にはできなかったといつてもいい。これから十年か十五年かけて、もう一度自分たちの力で陣地をきつく以外にはないというふうに、今、僕は思っています。

そのくらいたいへんなことなんです、これは。つまり、昔は、一九三〇年代あるいは四十年代をきりひらいた新劇の権威にしても唯物論の権威にしても、たしかに僕たちにとっては今日なお最良の恩師です。古在由重しろ、真下信一しろ、忘れがたい人ひとです。しかし、終った。いつ頃終ったかという、七十年代に入るところで終った。

(7) 私たちは人間でない、修羅だ

真下先生はいつも言われてたんです。「青年は変っていない、理性とヒューマニズムも変っていない」。ちがうなあと思う。僕は先生が亡くなる頃の本についてはときに異和感がありました。「君たちは人間だ」という本を出された。シナイところのない題ですね。僕はそんなこと言われたら、そうでしょうかと思う。先生、こんなに簡単に「君たちは人間だ」なんて言ってもらいたくないというのが僕の哲学的見解です。

その「君たちは人間だ」のいう本の表紙の上には、さすがにこれは本作りを行った新日本出版社の編集部の誰か知らないが、せめてというふうに思うのですが、あの、興福寺、

の阿修羅の写眞が載っかってるんです。

あれで存じでしょう

これは少女だか少年だか、僕はいつでも学生に聞いてみるんですが、女の子に見せると過半数が少年だといひ、男の子に見せると少女に見えるという。采女をモデルにして、つまり少女をモデルにして、阿修羅というのは、けんかをやるのが仕事ですから、たぶん男性に近いでしょう。ま、そういう像だったんですが、阿修羅の像が出てくる。

しかし、阿修羅というのは人間じゃないです。畜生ではないけれど、人間でもなくて、人間以下の阿修羅で修羅なんです。かつて宮沢賢治という詩人がいた。彼は間違っても、俺は人間だとか君たちは人間だなんて詩は一度も書かなかつた。俺はひとりの修羅なのだ、と書いて、「風景は涙にゆすれ」と歌ったんです。

で、興福寺の阿修羅はちゃんと目を見開いて、眉をよせて、じつとこの世を見ています。ああいう作品を作ることのできた古代の芸術家というのはすごいなあと思うし、それをちゃんと許容していた権力者というのは、つまりバカなのか寛容なのかよく知りませんが、たいへんな芸術と権力のつなびきたなあと思います。

ますけれども。

阿修羅なんてのは、あんな美しい顔してはるすはないんですね、仏教伝説のままだったら。

だから、「君たちは人間だ」という本の表紙に阿修羅の像の寫眞がのつていているというのはどういふことなんだろうと思って、これはたいへん逆説的でおもしろいと思いました。宮沢賢治だったら、悲しいけれど、俺は人間じゃないよ、俺は修羅だというでしょうね。で、その方がまだ僕の見解では、カール・マルクスの思想に近い。

僕らなんてのはまだ人間じゃないんですよ、一生懸命人間になろうと努力をしているし、人間になりつつあるかもしれないけれども、やっぱり宮沢賢治のいつていることが本場で、我々はこの世の修羅場に生きている修羅です。僕はさっき見たいに言いましたけど、二・三人の人間ぐらいのことをあんな奴め死んだ方がましだと殺してやりたいとも思っています。僕はそれほどお人好しにもできません。

それから、僕だっていいことずくめのことをやって大学教授になつてるんじゃないくて、何人もの受験競争の敵対者をけおとして、そ

れから力すくすの自己確立をやって、いなかの私立大学の先生ぐらいやって、飯を食つてる訳ですから、そんなにつまり、僕は人間だなんてことをあつさり言えるほど鈍い感性を持ってません。せいぜいのところ修羅です。

人類の歴史の時にはまだ人間でないですよ、我々は。人類の本史というのはいつから始まるかという、人間が人間になるのはですね、わかりやすく言いますけれども、搾取がなくなつて、抑圧がなくなつて、人間たちが本当に自分でみんなが力を合わせて歩き始められることになったら、人類の本史が始まるというふうに、カール・マルクスもフリードリヒ・エンゲルスも書いた、ちゃんと。

今、人間が人間だなんてせいぜい白樺のヒューマニズムです。僕は真下さんの思想の中にあるのは、大正ヒューマニズムとマルクスのとけあつたものと考えていました。だからそういう時代が終つたということなんです。

だから、僕らが平和を訴えたり、民主主義を訴えたりする時に、いったい自分を修羅だと思つてゐるのか人間だと思つてゐるのか、自分達は他人に教えさすことのできるようになまともな人間だと思つてゐるのか、大衆に向かつてね。だから僕は話をおもしろくし

たいから、ちよつと「必殺」のこゝを出したんじゃないんです。

せいぜいのところ、我々が生きていふことは修羅ぐらいのところ、そういうことを間違えまふと、僕は、先程のいくつかのコント（註・ゼミで上演されたコント「地球は青かつた」「わたしいややねん」「国家機密法」「淡墨色の桜たち」のこと）についても敬意を表するのと同時に、批評家として文句をつけたくなつてきます。やっぱりあれを持って巡つたんではだめでしょうね。リアリズム劇団というのは、あんまり大衆から愛されない。

例えば、一番最後にやつて下さつた「淡墨色の桜たち」なんかも、確かにお説教じみてないし、それから、ああいうお婆さんを二人登場させて、戦中体験を淡彩でやつて下さつて、そしてやっぱり僕だって、いくら修羅だつて、修羅の目にも涙ということもあります。片方のお婆ちゃんが、自分の息子の出征を送る時のことを思いだして泣いた時に、僕は戦中の少年ですから、その次に何を言うのかまですぐ想像できたから、想像する瞬間にもう涙がこぼれてました。りっぱな作品です。

ただし、昭和十五年の時に兵隊はばあとい

う人が碑を作るとすると、あのドラマはいつたい何年の想定なんでしょう。何年前なのでしょう。あのドラマの日時の想定というのは、戦後も、もう四十年もたつてるんです。戦後四十年の間に、あのお婆さんの中には何の変化も生じなかつたのでしょうか。昭和十五年のまゝのことをあんなに唯一の誇りにして、あのお婆さんは七十七才まで生きたんでしょ。か。そういうのをリアリズムつていうんでしょ。か。

あのお婆ちゃんというのは、本当の庶民から見れば、中間層に属して、日本の中間層というのは最もやさしい権力の手先をつとめた。国防婦人会の会長だとか、当時の小学校の校長先生だとか、いろんなものを含めてですね。しかし、どつちに属するかというと、あのお婆ちゃんでも、たぶん今日の日本の国民大衆、ないしカッコ付き民衆の中には入つてゐるんです。その民衆は戦後四十年何も変わらなかつたんでしょ。か。

僕はいいアイディアだし、劇の作り方も演技もナチュラルだつたと思いますけれども、僕みたいな人間が観ると、戦後四十年でそんなに無駄な歲月しか流れなかつたのかというふうに思うところがあつて、一度観るのはいい

いでしょけれども、一回みると僕は多分もういやになると思います。こういう工夫までして啓蒙してくれるんですかというふうに言いたくなって。

戦後四十年の歴史はそんなに簡単に流れたわけじゃありません。僕はむしろコントの中で一番感動したサンプルを上げたわけで、一番悪いから上げたんじゃない。逆です。そういうふうには理解して下さい。手もこんでましたし、なかなかすてきな作品でした。お婆ちゃんをやった人たちはほんとによかったです。僕は自分のおふくろまで思い出してみました。しかし、僕はそんなに無理しなくてもいいんだと思います。

(8) 生活の領域の中で何が起っているか

さっき僕は生活の領域で戦いが進行しているとか、生活と文化を結ぶマツザカヤから話を始めましたが、国民大衆というのは本当にいろんなことを考えて生きてるんです。僕が哲学者として最近啓蒙演説をやりたくなかったことの一つには、日本の性風俗について、一定の価値判断に基づいて批評する自信がないんです。

ひとところテレビのピンクドラマとかなんとかということについて、これもPTAが美的基準で、テレビの退廃というのを摘発して歩くことが一時はありました。すぐ止めました。ああいうことをやっていると、国民からみはなされるから。

僕は当時言ったことがあります。いったいあなたはどの番組のことをいっているんですかと。例えば、11PMだったら、僕の親愛なる藤本義一が出てます。僕も彼と同じくらい頭が白くなった、あのくらい品のいい格好で、さりとて語る、ヌードの女性をそばにおいても物が言えるような品のいい哲学者になれないものかと時々みてる。(笑) 誰でもできる芸当じゃないです。藤本義一は長つづきするはずですよ。

で、十一時以降になると、これは大人の時間です。それを子供に教育上影響が悪いというの、見せる親が悪いんです。十一時すぎまで子供にテレビをみせておくとアキレタ話で、八時とか九時の時間帯で、女性が腰ふって出て来たら取り締まれとかいうのもいいですけど、十一時すぎの時間くらい、僕の楽しみもおいてもらいたいです。(笑)

それやこれや、さっきの、つまり今日のマ

スコミ文化とかテレビ文化ということにどのくらいほんとにリアルな分析をやって、何であるものは視聴率が高く、あるものはダメで、「はね駒」はどうで、「いのち」はどうで、そういうのはみんな理由があるわけですし、それをみて感動している国民というのはけっして愚かではないのですから、そこから出発していろんなことを考えていただいたらいいですよ。

ですから、僕は、例えば、みなさん達の議案書がなんか知りませんが、こぼやしさんが送ってくださった、たいへんベスマスチックな、しかし、たいへん思いのたけのこもったあからさまな文章に、僕は心意気として共鳴をします。共鳴はしますが、僕が分析すると、考え方はたいへん異質です。今日の時期に我々がやらなければいけないことは、一九三十年代までに僕達がしよこんだ様々な財産にもう遺産をしないで、同時代のことを考える。つまりそこから今日の時代の国民生活は抜本的に変わったんですから。この十数年の間が一番変わったのであり、とりわけ、この十年間の間に変わったのであり、文化の時代といわれている時代の国民生活の変化や国民の感受性の変化や価値観の変化や、そういう状

況の中で、生活の領域で、我々が平和のとりでを作ったり、民主主義のとりでを作ったり、人権のとりでを作ったりする。そういうことをやる時に宮々として、生活の領域の中で仕事をしなければならぬ。直接に政治の領域じゃありません。生活の領域というのはいろんなことがあるんです。

衣食住の問題があり、男と女がはれる問題があります。僕なんか本当に困っていて、何で性風俗に対して価値基準がたたないのかといえ、たとえば、不倫ドラマというのがあります。僕はこういう見地から言ったらいいか本当に困るんです。僕の大学の学生だった娘が、「お父さん、金妻みたいな？」という、「金妻って何だい」って、僕ははじめは知らなかったんです。キンツバかなんかと思ったら、「金曜日の妻たち」というドラマですね。

で、娘といっしょにみてたんです。「金妻くらいみないとお父さん時代におくれるよ」というから一所懸命みてたんです。何とって批評していいか、僕は今だに困ってるんです。「不倫」というのですから、退廃ドラマとかいうのは、何にも考えなくてもいえるかもしれません。問題はいくつもあつて、あんなにすてきな家に僕は住んでません。そ

れからお互いに隣近所の夫婦がより集まってパーティをやれるような風俗習慣、つきあひ方ができるためには、日本のかなり中流以上の暮らしをしていないとああいうことはできない。

僕みたいな建売住宅のなれの果てみたいなところに住んでいたら、あんなパーティはできません。それから、ガーデンパーティなんかをやる時なんかはステキなことをやってる。しかし、日本人が核家族のわくを超えてパーティをやつてつきあうというのは、いいことですよ。多分、みんなやりたいと思うでしょう。それに、今日の不倫ドラマの最大の特徴はやっているのが妻たちであることです。女たちです。

昔から一夫多妻制で男がいろんな女性に手を出したということはむしろ何ともないし、男がやるのは何十年の長い歴史がある。これは女性の地位がそれだけ高まったのかな、と思ったりします。ただ僕もうちのかみさんがああいうことをやってくれると困るなあと思いはしますが。(笑) だけれども、あの妻たちをけしからんというためには、どういう仕掛装置がいるかなというふうに思うと、もしかしら、過渡期かもしれないと思った

り、日本の妻たちはやっと思分て夫以外の男性と恋愛をする勇氣を持つようになって、それが、当り前の格好でテレビの世界に登場するようになったのかなとも思います。

それから、全世界的にみて、世界で一番離婚率の高いのはソ連で、次がアメリカですね。離婚できる条件もあるんですね。日本という国はまだいろんなしがらみがあるから、離婚率は高くありません。そのかわり「不倫」率が高くなっているんでしょう。それから家庭内離婚という言葉もあります。

それでいっさい、それをつきぬけてどうするかということについては、僕の友人達の中でもいろんな議論があります。つまり、セックスなんてのは、惚れたらやったらいいじゃないかという開き直った意見から、もう少し品行方正術優等というような意見にいたるまでずいぶんいろいろあるんですが、いったいどういうものを退廃といい、どういうものが望ましい日本における自由な性愛のあり方で、そして、男と女が一緒に暮してかかえていく様々な問題の試練の中でこれからどうするのか、と。

世間体をつくらうということだけじゃないです。儒教や教育勅語を基準にして論じると

いうことじゃないですよ。日本はすぐそれをやりますけれど。いったい何が人間のプライバシーで、何が公的責任に属する問題かなんてことを丁寧に分析していくと、ちょっと僕は簡単にものを言いにくいんです。テレビの退廃番組ということについてもですね。

今日我々が太変わりにくいと思っていることについて言いますと、将来社会の体制がどうなるかということだけでなく、現に我々がそこで生きているかつてないほど満開な資本主義社会の生活をどう見るのか。日本はやっと資本主義社会らしくなった、はじめて。ほんとになつたんですよ。

そしてそういうことの中で、資本主義というのはたえず動く社会ですから、前進的なこともダイナミックに起っているのと同時に、ああほんとに人情紙風船みたいなことや、悲しいことやいろいろあります。それはつらいことなんかも、そっちはあまり今日は言いませんでしたけど、それはたくさんあります。だから二・三人救済したいと思ってるんですし、血の涙をかみこころして生きている人がたくさんいるぐらいのこともわかっていきます。そういう社会です。で、問題は人々の生活の領域の中でたくさんあります。

山田太一なんて人は、少くともテレビドラマの中で一所懸命それを追いかけている。テレビドラマなんていうジャンルの中で言えることには限度があるでしょう。しかし、少くとも何を彼は求めているかということはつたわってきます。

それから「寅さん」の場合でも僕は言わなければならない。人によっては、あれは現代人が高度経済成長で滅びさつたものに対するノスタルジアを感じるのでもててるといいます。これは分析でも何でもありません。そういうあはなことを言う人がいる。だから「寅さん」は反動的だといった人もあります。ファシズムを地ならしするものだといった映画評論家もいます。つまり、共同体的なグループみたいなものに個人をつみこむからという。進みますね。葛飾柴又の帝釈天の参道には断じて印刷工場はないんです。労働者諸君は働いていないんです。あれはフィクションです。それから一人で旅する「寅さん」のふるさとというのは共同体ではありません。とらやっていうのは開かれているんです、徹頭徹尾。誰でも行けるんです。

で、山田洋次が描き続けたのは、今日の時代の国民たちのあそこが人の人間関係のあり方

だったので、高度経済成長で失われたものの復活を主張したような、そんなもんじゃありません。そんなものは一・三回やれますけど、十六年続かないんですよ。

高度経済成長で失われたものをなんとかして復活するなんて価値基準でやったんでは七〇年代の試練にたえられなかったでしょう。高度経済成長で失われたものの中にはいいものもありますが、粉砕してよかったものもたくさんあります。僕なんかの見解でも、地域社会のくだらないしがらみなんてのは、まったくその一つです。

僕は名古屋人です。名古屋に本籍地を移しています。名古屋で大学生活が始まってから、もうかれこれ三十数年になります。僕が育った東京に比べて、名古屋の暮しの方が長いんです。だけど、僕は土着名古屋人ではありません。もう一つ言います。名古屋というのは、高度経済成長で、名古屋市民の圧倒的多数はよそものなんです、過半数が。それが名古屋という土地です。

過半数がよそから流入した、高度経済成長で名古屋に働きにきた人口で、ある種の新しい区なんかはその九割までがよそものなんです。僕のいる名東区、あるいはその少し南にある

天白区。そして住民運動が活発だったりするのは、土着名古屋人がいっぱいいるところじゃなくて、流れ者たちがたくさん土地に入ってきて自分たちの暮している場所をなんとかしたいと思って、それで生協をやったり、おやこ劇場をやったり、新婦人の会なんてやったりしている。そういう人たちのところは住民運動は活発ですけど、古い共同体の残存物を復活させたら人がつながらだろーうなんていうのは、幻想に等しいと思います。

だからよくタモリが名古屋に来て名古屋人の悪口を言うときみんな笑って、名古屋人は変だとか何とか思う人がいますが、共感して笑ってるんですよ。自分達もやっぱりあれはおかしいなと思っていることをタモリが悪口としていうから、過半数の名古屋人にとっては、それでおかしいんです。だから、名古屋市民がたいへん卑屈なマゾ的人間だから、悪口を言われて喜ぶでるなんて思ったら、大間違いです。

(9) 満開の資本主義の下で

そういうことから言えば、高度経済成長以後の日本というのは、一人ひとりの人間が自

前のところから出発して、自分の身のたけで、どうやってお互いの関係を作り出すかということで悪戦苦闘している修羅の世界です。

よく今日では新聞でも誰でも言いますけれども、失われたものの復活はかり言っていると、いつでもなんか物事を変えて、革新的に、ふるまうのは保守党の側で、進歩的側は、何かを守り、何かに反対する。ということしかやらないという。これはずいぶん大ざっぱすぎる言い方で、まったく不正確ですけど。しばしばそういう言い方で、からかわれたり、あるいは中曽根にしてやられたりするようになるんです。

中曽根というのはある意味から言うと、少くとも社会党よりは優秀なことは確かです。どこが優秀かという、彼は国民の支持に依拠して自民党をふり回した、彼は選挙を国民の前でやってのけて、俺は国民に支持されているから自民党の反対派は言うことを聞けとやってみせる。

一つの政党の中だけの宮廷革命劇をやったり、陰謀劇をやったりすることととにかく見せかけだけでも終らせた。たいへんなジェスチャーまで含めてやりました。だから明るい感じがするんじゃないでしょうか、国民にとっ

ては。

しかし、そういうことをやってみせる男、野党といってもいいし、もっと拮抗してみてもいいと思いますが、国民が俺を支持しているから、俺の属している集団も俺を支持しろといういい方で、自分の所属集団を引きずっているリーダーというのはめったにいません。自分達の所属している小集団の中でボスだから、国民の方に向つてもでかいつらをすると、関係をあまり越えていない。これは、劇団だろうと、小説の世界だろうと、政党だろうと、学術団体だろうと。ところが、資本主義社会のおもしろいところは、国民にもてさえすればいいじゃないかと言えるところなんです。

これがこの社会の歴史的にもたらした画期的に進歩的な役割で、それを通過して——僕は今だに信じてます——将来社会で人類は次のステップへ進んでいくと思います。そういう意味では、今日の時代というのは見えにくい時代ともいえますけれども、歴史の歩みは確実なんです。見えやすい反動というのは政治の領域ではみえるが、見えにくい方は生活と経済の領域の中で、しょっちゅう勝負が行われているからです。そこで勝てるようにや

らないと、事態が前へ向かって進んで行かないという意味では大変な時代です。他の面から言うと、僕も昔勉強したカール・マルクスの理論というのは今日もちやんと貫徹しています。こんなこと言ってみても負けおしみにしかならないから、言う気はあまりないんですけれど、本当は。しかし、僕は博報堂の本を読んだり、電通の本を読んだりしていると、マルクスが言った通りの現実になっているなあといつても思います。

資本主義が発達すると資本の文明化作用によって国民の文化レベルが上がる。上がるって言うてるんです、マルクスは。下がるなんて言ったことがありません。洗練されてくる、その通りです。若い人たちは楽器がひける、それから音楽聞く能力だって高くなったし、そうじゃないですか。それに教育水準なんかべらぼうに高い国民です、日本の国民というのは。おかげで教育制度でみんな苦労してますけど。

にもかかわらず、日本は優秀な労働力人口を持っている国というのはめったにありません。たいへんな資本主義です、我々が生きているこの資本主義というのは。そういうことは別に資本論に反しないので、資本論にちゃ

んと書いてあります。そういうふうにして高度経済成長以後、この十数年に日本の中で起った変化と、我々が味わっている苦痛の性質というのをちゃんと分析して、そこから出発したと思います。何故ですかねえ、僕はあいかわらず正しいと思っているカールマルクスの思想が、こんなに歪んだ格好で世界に普及したのは、スターリニズムという言葉があります。それから大変変形された、どう考えてもステキでない社会主義がですぎたということもあります。

日本は戦前の天皇制の下で非常に遅れた社会でした。そうです。僕は生まれた時には役にもたない士族という看板をしょってました。生まれながらに差別者、だったわけです、身分制のしっぽをまだ八月十五日までしょってるわけですから。

だけど資本主義が発達すると国民は生まれながらの差別者じゃなくなります。資本主義が発達すると身分的差別というのはだんだん消えていくのです。当たり前です。日常茶飯事のごとく、対等平等に商品交換をやるんですから。

戦前の天皇制の下ではたしかに僕は生まれながらに差別者です。ひところ解放同盟の

人が言ったことは、戦前については正しい。戦前に正しかったことが高度経済成長を通じて正しくなくなっただけです。商品は生れながらの平等論者です。現実を正しくリアルにみる人とそうでない人に分解した。だから現実とアンバランスなことで力むと様々な緊張が起けると、そういうふうにあります。

僕の時間はもうなくなっていますが、もうちょっと言わせて下さい。みなさんも、日本文化について本気で考えて下さい。プレヒトにしても、シェイクスピアでもモリエールでも、外国の芝居をやったがたがという時期はもう過ぎました。あんまり僕は観に行きたいと思わない。ロカだろーと何だろーと。それは時々やったらおけいこになるだろうし、演劇青年のあこがれだったらやって下さっても結構ですけれども、見る側の僕らが喜んで観るだろうというのは、もうあてにしないで下さい。僕は外国の芝居のまねごとはもう観たくないです。それはウェスカーだろーと何だろーと観たくないです。そんなものどうしてもう日本人が創れないかと思うのです。日本の進歩陣営が何かいいことないかという時、カタカナの名前にたよっているうちはダメです。だから、シェイクスピアでもモ

リエールでも同じことです。チェホフだってそうです。時々やってもいいです、記念祭なんかの時には。

しかし、日本の現実をちゃんと描く努力を、やっぱり、なけなしの財布の底をはたいてでも、やった方がいい、大きくても小さくても。そういう意味では創作劇が流行りはじめたということを僕は歓迎します。

あらゆる人が天才じゃないから、上手なものも下手くそなものもあるかもしれないし、お客が呼べるものも呼べないものもあるかもしれないけど、みんながよってたかって創造の苦勞をすることの中から日本の演劇を生み出す他はない。

00 改めて日本文化論を

日本文化というのは素晴らしいものなんですから。これもそうです。日本文化というのをしょっちゅうカッコに入れるんです。そして、僕は必ず皮肉を言う。日本の政治があり、日本の経済があるんだから、日本の文化だってあるだろうと。日本の文化があるんだしたら、日本文化論というのをやらなきゃしょうがないじゃないか、と。

最近、日本文化の国際センターなんか作ろうとしてますね。僕は井上ひさしとの対談の時に、天皇制文化と日本文化は違ふんだから、日本文化の過去・現在・未来のあり方を研究する学術団体を作りたい、と言った。僕はもう五・六年前から言ってるんです、日本文化学会を作りたいというふうに。

しかし日本の左翼理論家というのは乗ってこない。日本文化というのは反動の専売特許だと思ってる。日本文化を論じると必ず天皇制にやられると思ってる。だから日本文化をどうするか正面きって論じようとしな。

今から十年位前に「日本文化の民主的發展」というスローガンをかけたことがあります。これは大平ブレンより先見の明がある。僕はとてつもないスローガンだと思っはめたことがあります。日本文化の民主的發展でなければならぬので、日本の民主的文化の発展なんてことを言うていうのはダメなんだというの、僕の主張だったんですけど、その真意に気がついてくれない人も少なからずいたようです。僕のくやしかった思い出で言うと、その時に大まじめで、君は反動に屈服する危険があるといった奴も、殺してやりたい。くらいに思った人の一人でしたけれども。

忘れることにしています。

それはそれとして、日本文化というのはあるんです。日本の文化というのを皆さんたちは演劇なさってる方だから考えていただきたい。能の中に天皇制を美化した能がいくつありますか。室町時代以来の伝統芸能の一つですが、狂言の中に一つでもありますか。西田幾多郎が「日本文化の問題」なんか書いた時に、日本文化にいつでも皇室が中心にいたみたいなのを書きました。

けれども、能の中に天皇制を美化した能というのはほとんどないはずなんです。僕が知っている限りでは、天照大神がちょろっと顔を出すのはありますが。これはむしろ民間信仰みたいな格好で出てくるだけで、天皇の祖先という格好で美化されるんじゃないやありません。

能で天皇制は美化されていない、狂言でも美化されていない。歌舞伎であるでしょうか。演劇の伝統の中で歌舞伎で天皇制を美化した歌舞伎はあるでしょうか。それは「仮名手本忠臣蔵」から「東海道四谷怪談」までいろんなこと全部おもうかべて、「助六」から何からお考えただいて結構なんですけど、たぶん、みつめるのは非常に困難なはずなんです。

さっき僕は浪花節や講談はふつとんだとい

いましたけれども、落語の伝統中にも天皇制美化というのはありません。僕の戦中体験からいっても。僕は東京のおまねな中学生で新宿の末広亭にしょっちゅう通って落語を聞いてたんです。おかげで僕は修身教育から解放されたんです。

人間というのを見る時に、修身がおしえてくれるようなお仕着せの見方や、優等生的価値観でみるのではなくて、つまり、与太郎が出てきたり、八さん熊さんがいたり。志ん生、鄭語なんていうのはわからなかったですよ、中学生では。なんであんなややこしい手続きで女性のところへ出かけていって腹なきやなんないかってのは。すいぶん難しかったんですけど、志ん生うまかったから、聞いてると僕でも楽しめたんです。

そういうものを戦争中の中学生でみている時に、軍国主義に反対する思想まで持てたかどうかは別にして、そういう時でも人間の姿を生の格好でありのままに見るということ、修身は僕の目を隠したけれども、落語は目を開いて、リアルな人間の見方というのを様々な教えてくれたように思います。

ですから僕は意地で言ってるんじゃないで、日本文化の伝統というのをちゃんと明らかに

したら、天皇制を美化する文化なんていうものは、つまり天皇制文化というのは、ほんのかぎられたものだということがわかる。だから僕はそんなのは天皇制文化というんです。中曾根が言ったり、靖国神社につながったり、いろんなのがありますけれども、そんなのは明治維新以後であつたり、せいぜい幕末ぐらいからなのです。

今こそ日本の文化を我々がどうするのかということを本気でみんな考えなくてはならないと思います。これは哲学者も、演劇やつてる人も、小説を書いている人も、映画を作っている人も。そしてやっぱり、「日本文化の民衆的発展」というのをちゃんと堂々とやる仕事を前に進めることによって、つまり靖国神社参拝というのを別に中国が応援してくれなくても、押しかえすことができる。靖国の母や軍国の母なんてものは芝居にもならないし、落語にもならないんですから。

もっと国民の日常生活のところで、日本国民がいったい何を好きだと思ひ、何に共感し、何をかっこいいと思ひ、そういうことをいろんな仕方、自分たちの積極的につくる生活の次元で価値観を生みだしていくことが、文化活動というものの仕事じゃないでしょうか。

そういう意味では僕は政治の優位性なんてことについても近視眼でないほうがいいと思う。戦前の場合の政治の有効性というのは非常に短期的な尺度だったと思います。しかし、我々が生きてる二十世紀末の日本が、二十一世紀にどうなっていくかという場合の政治の有効性ををはかる尺度というのは、少なくとも最低十年単位です。それくらい考えていないと、文化運動の独自の守備範囲なんかわからない。十年たつてみたら、結着がつきますよ。そういう仕事をやっていることが一番有効だったか。

僕は用心のために言っておきますが、政治的テーマを回避せよなんていつてません。そんなものじゃないんです。今日の我々の生きている時代の政治というのは、文化の領域でもただかわれており、市民生活の日常のあり方をどうするのかということの中でも宮々として勝負が行なわれており、その中で多数を結集できていったら、そしたら、政治の頂上を変えられることができる。そういう勝負が行なわれているんだと思いますから。僕は反核平和もやりまし、中曾根批判だって、それは演説をやれと言われれば、いくらでもできます。

けれども、こと文化のことを論じる時はもっと腰をすえた方がいいと思いますし、国民の文化要求を第一義的に探究して、それに本当に答えられる作品ができたなら、それは迎合や追従どころの話じゃないと思います。やはり今日の時代の新しい現実を未来に向かって切り拓いていく。そういう日本をつくることになるはずなんです。

その場合には、僕は、外国人のやったことからいくら学んでもいいけれども、我々の先祖の財産だって、あんまりそう軽蔑しない方がいいんじゃないでしょうか。いろいろステキなものがあるんじゃないでしょうか。

だから、僕は原太郎さんなんか会って、言います。たとえば、日本の百姓は、もっと生活をたのしむことも知っていたし、もっとすけべだったんじゃないですか？って。少くとも都会で子だった僕よりは、昔の農村で暮している人間たちというのは、もっとお祭りなんかのとき、女性の尻なんか平気でなでたりしたんじゃないですか？って。だから、原さんの描いている農民は、僕から見るとまだきれいでありますように見える。僕は彼、芸術家だと思いますよ。彼の世阿弥論なんて傑作だと思いますし。能や狂言の世界の

人たちの応援を求めて、つまり、自分たちの芝居のレベルを上げる努力もされている。それでも、いろんな民衆の生活はもっと多様にえがかれていい僕は思う。

僕はあまりせつからじゃないんです。今から本気になって十年かけて、九十年代の半ばぐらいになった頃に、いや、世の中変わるといつてませんよ、その頃に自分の守備範囲でちゃんとしたことができるかどうか。例えば、僕はあと十年たつてもまだたぶん現役の哲学者です。これが最後です。あと十年後が。その時に日本の哲学者たち全体の中で、能書きとしてじゃなく、俺を排除しないでくれるってつまらないことを言わないで、こういうふうな考うようではないかということが言えるかどうか、それを十年かかってやらないとダメだと思う。それは今のところ僕の決意です。そんなにえらくありませんから。

III 理性でなく、感性で勝負しよう

だけど、そのためには本気で、思い切つていま大衆追従をやらなくてはならないと思う。その大衆追従の一例をあげましょうか。例え

ば、もう十数年に渡って、日本国民は感性が好きなんです。違いませんか？ 日本の進歩派は年がら年中理性が好きなんです。おかしいんじゃないですか？僕はマルクス学者の一人として断言しますけれど、「フョイエルバッハに関するテーゼ」という有名な、マルクスがフョイエルバッハを乗り越えていった時の、新しい世界観の確立宣言があります。そこでは、理性なんて言葉をマルクスは一つも使っていない人です。もし、あつたら僕に教えていただきたい。

マルクスは理性なんて言葉を使ってものをとを論じたことはめったにないんですよ、人間、感性、活動とか、そういう言葉で論じらるんです。理性という言葉を使わなくても、マルクスの思想は語れます。理性というのはだいたいヘーゲルの影響です。

理性という言葉にたよらずに、文化だとか、感性の形成だとか、人間のセンスだとか、いろんなことを論じています。そのくらい、つまり、普通、これがマルクスの思想だと思われているものは、世界的にも日本の中でも歪んでるんです。

ですから、例えば、今日の時代を考えてみたらいいです。「感性の覚醒」なんていう本

を中村雄二郎は書く。これは非合理主義です。だけど、中村雄二郎と論争する時に、あなたの書いているその感性のあつかい方で、本当に感性の覚醒になってますか?と。

つまり、こういうふうに理解しないと人間の感性というのは、本当に覚醒も回復もしないんじゃないですかというふうに主題をとって『感性の復讐』という本を書いた方が、今日の時代の若者たちにははるかによくわかります。

だって、感受性がひからびたり、笑う能力を失ったり、受験体制の中で本当に硬直したりしているんですね。で、タモリみたいに、こうパフォーマンスかなにかやっただじやれをとほしたり、「(輪)ワッ!」とやってみせたり。そんなことやらないと笑わない。昔の学生は講義を聞いてても笑ってくれたんです。

今日のみなさんかなりの知的レベルがあるから、僕がこのへんで笑うかなと思うと、ちゃんと笑ってくれます。ほくは安心します。つまり、笑いというのは、多少わからないと笑ってくれないんで、僕はこの壇上で漫才をやってるわけでも、落語やってるわけでもないし、「ワッ!」をやってるわけでもないか

ら、そういう仕方で皆さんを笑わせようと思わない。僕は語ってるだけです。その語りの前後関係の中で、ある種のユーモアを感じれば、皆さんたち笑ってくれる。大学の学生が講義を聞いて笑うというのは、そういう笑いでなければならぬのに。テレビの笑いの番組というのは、だめです。やっぱりこれは弾劾もしますよ、かなり次元が低いから、落語を除くと。

つまり、「ワッ!」とやったり、僕なんかおかしきも何ともない仕方でふざけないと笑わないとかです、それから人間の言葉のニュアンスで笑えないとか、ものすごく貧しくなっています。そういう時に人間の感性というものはとても大事なので、それをどうやって豊かにふくらますとか、センスはい方がいとか、フィーリングは大事ですとか、かっこいいというのは最大のほめ言葉なんだとか、そういう大げさな事を正面きって話さないと、僕もいくらか、遠慮してま

せん。感性も大事かもしれない、けれども、理性が大事です、というふうだから説教になるんです。感性と理性と両方均衡をとらなければいけません。君は好きだとか嫌いだとかいうけ

れど、それは非科学的だ。好きとか嫌いだとかいってもしようがないとかいう。ほんとうでしょうか。これは僕は誇りを持って言うんですが、僕が、「ピース・サンデー・イン名古屋」の実行委員長をやった時に、朝日新聞が一ページ大の意見広告を載せると言ってきたんです。朝日新聞といえども、それくらいのことはいくらもやります。これが中日と競争して読者を獲得するためであらうと何だろうとそれはかまわない。

ともかく「反核平和の広告を一ページ載けるから、やりませんか」という。人びとから金を集めて意見広告を出せっていうんですね。みんなに討論をさせていただいたんです。実行委員長の僕が決めたんじゃないやありません。ちゃんといろんな芸術にたずさわっている人達が議論してくれて、「平和だいきらい、核兵器だいきらい」という大見出しをつけたんです。

この場合の大好き大嫌いというのは、価値観の表現なんです。人間たちというのは価値観というのをふつうは感情の言葉でいい表わすんです。しばしば子供というのは、親の背中を見ながら育ちますよね。親が子供に価値観を教える時には、長々とお説教をしないん

です。あまりごちゃごちゃ説明すると、修身教育みたいなことになって、説教がましくなると効果半減になるんです。

例えば、僕が「おとうさんそんなこと嫌いだ」とか、それから「おかあさんはそれとてもステキだと思うよ」とか何とかいう。そういう時の嫌いだとかステキだとかいう言葉は何を語っているかと言え、瞬間的な感情的表現をやっているだけじゃなくて、価値観がいいとか悪いとかいつてるんです。

平和だいきらい核兵器だいきらいという言葉の好きとか嫌いとかを他の言葉に直しようがありませんか。平和正しい核兵器はあやまってるといったら、科学的になりますか。認識にかんすることは、平和だいきらい核兵器だいきらいの下にいろいろつけ加えて、状況分析でも何でも入れればいだけの話です。人間たちにとって普通ちゃんと生きてく時には、何が好きで何が嫌いとかいうことは一番根本的なことです。

そういうことを全部カッコに入れて、理性が大事だとか科学的に物を考えろとかいうものだから、つまり、とってもダサくなる。マルクスの本なんかにはそういうのはないんですよ。

資本論の中に理性なんかめったに出て来ません。どうぞお調べになって下さい。こういうことに関しては文献学者というのは自信がある。ですから、理性ということをもっとも結構ですけれども、感性は理性の低い段階だなんてことは考えない方がいいです。

あの芝居をみて考えさせられた、というのは、ほめたことになるのか、けなしたことになるのか、どうなんでしょう。芝居というのは、観客である。我々に、考えさせる。ためにやるのかどうか。我々は感動している時の方が下等で考えてる時の方が上等だなんていうことはないんです。そんなことは、感性的認識から理性的認識へという毛沢東の弟子かなんかが言うことで、それに近いことをブレヒトが言う場合のブレヒトは肯定できません。

感性というのは認識だけの話ではないんです。芝居をみて感動する能力を国民が失っているかどうかということがまず基本問題で、国民が感動してくれるような芝居ができるかどうかというのが、まず問題で、考えなければ後から考えればいいんですよ。で、考えることの方が上等だなんてことは別にありません。本当に深く感動する能力というのがどん

なにすばらしいかというのは、「寅さん」が立証しました。

最後に一つだけ言いたい。「寅さん」の映画の中には、大衆的な文化活動をやっている人たちがいっぱい出てくるんです。無名の人たちがいっぱい出て来ます。旅芸人も出て来ます。しかし、また、日本を代表する一流の芸術家も学者もたくさん出て来ます。違いますか? 画家が出て来まして、一流の陶芸家が出て来たり、それからアリストン大学にまねかれてる物理学者が出て来たり、考古学の東大の教授が出てくる。その分野で日本を代表できる人たちです。寅さんというのはそういう一流の文化人と友達になれるんです。

これはとても重要な意味を含んでいる。寅さんと彼らは友達になります。だから寅というのはけっして一流の専門家とか知識人とかをバカにしません、ちゃんとその人達が一所懸命やっていることは理解する。にもかかわらず、重大な真実を持っていることを批判する。寅さんというのはいろんなこと知らなかったりできなかったりするけれども、大変深く物事を感じる能力を持っていて、彼が感情の言葉で表現することの中にはとてもステキな人間的価値観みたいなものがにじみ出ている。

だから大衆に愛される。そして、一流の文化人や科学者が、専門家達が、寅といろいろ話して、寅の言っていることの中にどういうステキな、ピカリと光るものがあるかというものがわかれば、それに感動して、友達になれる。そういうことを山田洋次はこの十数年描き続けた。

僕はそれをみていると山田洋次の持っている寅さんの背景にある思想水準というのはすごいものだと思えます。ちゃんと知識人と働く人の同盟についても彼は描き続けだし、それから最高級の専門文化人と日本の落ちこぼれ寸前だった寅みたいな民衆とが、どこで友達になれるかということも描き続けた。それから世間的には無名であるかもしれないけれども、自分のやっтерることをつらい思いをしながら愛し続けている、歌を歌ったり、絵を書いたり、旅芸人として芝居をやったり、そういう人もやっぱり愛情を込めて描き続けた。だから日本文化の総体をみてるんですよ、寅さんをつうじて。

僕はただ低い大衆追従階級主義みたいなことだけで寅はステキだといっているんじゃないんです。寅を描くことをつうじて、日本のトップレベルの文化のあり方についても山田洋次

は真正面から論じました。こういうことは、考えさせられていいことです。

どうも勝手なことをしゃべらせていただきましたけれど、僕は今日は言いたいことを言わせていただける機会だと思って講演をひきうけたわけですから、あしからず。『今日と』は、ということの中のいくつかの説明くらいにはなってるかもしれませんが。

これで終わります。(ながい拍手)

(附記・これはタイトルの示す通り、一九八六年八月二三日の東会議・「雨畑」演劇ゼミナールでの島田豊氏の講演です。テープおこしは劇団はぐるまの加納豊美、土田玲子さんのお二人の手を煩わし、若干の省略と小見出しをつけての整理はこばやしさんがやってくれました。もちろん最終的には島田先生の校閲を経ております。活字・紙面上の割付け、体裁の責任は萩坂にあります。)

△講演について、声の収録△

・島田さんの話がとてもよかった。いまでもリアリズム演劇にもっていたわたかまりが消えて、新しい土壌をつくってゆく指標があたえられた。(岡崎演集・男)

・おはなしとてもよかった。(だいこん座・高橋)

・みごとにひと皮むいてくられて爽快な感動をおぼえました。(支木・藤原)

・お話、大変良かった。古い作品に固執することなく新しい作品を創り出して行かなければならないと思った。(岡崎演集・柴田悦郎)

・島田先生の「今日」の見方についての角度の当て方は、多くの皆さんに目を開かせる話だったと思う。(京浜・内田勉)

・お話は多分に排他的でしたが、現状把握の方法論として大変教えられた。(桃)

・硬直した自分自身の殻を強くゆさぶられたような気がしました。そこを一つの切口として自分を見つめ直したいと思います。(静芸・小島真木)

・とても喋りやすい聴衆で、フルスピードで喋りました。美人が多いね(島田豊)

特集・東会議総会議案書について

「今日」をめぐる活発な討論

—東会議・総会のメモ—

はじめに

全り演東会議の第二十四回総会は八月二十二日、二十三日の両日、山梨県早川町の町宮施設「ヴィラ雨畑」で開かれ、二十六集団四十四名の参加で十時間にわたって活発な討論が行われた。

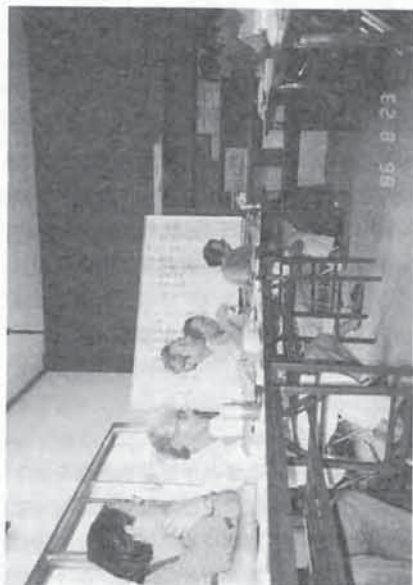
総会では議案の(1)の部分——言うなれば「今日」をどう見るか、に相当する部分にかつてないほどの意見が集中した。そして、それは議案に対する反論が多かった。そのため、それらの意見を反映する意味で、従来は個人名でまとめていた総会報告を今回は運営委員会名で行うことになった。そして、その執筆を私城谷が担当することになった。

しかし、いざ書いてみると、運営委員会名で出すには総会そのものについての総括がや

られていないわけだし、個人名で出すには主観が入っていないため味もそっけないものになってしまった。前提が運営委員会の名で出すということだったので、どうしてもそれにこだわってしまう。書いたものを議長、運営委員各位に郵送し意見をもらったのだが、寄せられた意見の一つにまとめるにはムリがある。そこで、最終的に私の判断で無署名とし、総会メモという形で掲載させてもらうことにした。まずはじめにそのことを了解していただきたい。

なお、総会について一言私見を述べさせていただくなら、議案が提起したのは創造者としての問題意識を深めようということだったのだが、発言は情勢分析の可否をめぐるものが多く、かみ合わないまま終ったと思う。今後は、「議案」としては各集団や全り演の活動報告と今後の活動方針にしばることとし、創造者としての認識や創造への思いなどはやはり個人名で議案の付属資料として出した方がいいと思う。そうしなければ、思っていることを自由に書くことができなくなるし、書き手もいなくなってしまうし、また読んでもつまらないものになってしまう。

創造集団の総会は、どれだけカッコいい議



案にまとめるかということより、参加した各人が自分の認識をどれだけ深めることができたか、どれだけ創造的な刺激を得ることができたかにこそ意味があるのだと思うからである。(城谷 護)

(1) どうやって展望を……

総会は議長団に加藤武夫(すがお)と林中直樹(さつぼろ)を選出し、丸子礼二議長(名古屋演集)の開会あいさつで始まった。

こばやしひろし議長・事務局長(はぐるま)が議案について説明、「保守政権がどうしてこんなに永く続くのか、どうしてこうなったのか、どうやって展望を見い出せるかを論議しよう。」と問いかけた。

(2) 議案に対する意見

討論では、「議案を読んで劇団ではかつてなく活発な論議になった。」(東京芸術座、弘演)として議案に対するストレートな意見が相次いで出された。

その主なものは、①自民党圧勝の評価 ②

若者論 ③進歩史観と「出口なし」論 ④平和、民主的運動、などをめぐっての意見だった。

議案は、自民党の圧勝について、「『生活保守主義』の現れ、若者が現実変革の理想を失っていると述べている。これに対し、「うちでは演出者も研究所長も二十代後半の若者だ。」(名芸)、「ちゃんと前を向いて歩いている青年がいることを見て欲しい。」(青年劇場)、「大宮市では高校生が必死になって反核セミをやっている。」(埼玉)、「劇団に入っただけの新人たちが、ここに来ると一番濃密な時間を持てると言っており、若者に対する見方を変えねば。」(京英)、「若者が変革の理想を失ったとの規定はちがう。」(弘演)などの意見が出された。

また、「歴史の必然とか発展とかいう進歩史観は(中略)色あせた」と述べ、その史観に乗っかってきたわれわれの苦悩は大きい、と述べた議案の部分についても異論が出た。

「唯物史観について否定的にしか読めとれない。見方を統一できないまま書くのはどうかと思う。」(東京芸術座)、「こばやしさんは政治状況を書いたのではないと言うが、議案に書かれているのは政治状況だ。社会主

義の理念が色あせたと言うが、もっとが、必要ではないか。」(青年劇場)、「展望がないと言ってもそれを考え続けるしかない。」(石るつ)

こうした発言を受けて、こばやし議長は、「真実を書こうとしてこの議案を書いた。政治情勢なら書ける。しかし、創造にとって、根っ子のところでどういう悩みがあるのかをさぐりたかった。切り抜ける力、それを発見したいのだ。」と述べ、他の議長にも発言を求めた。

丸子礼二議長(名古屋演集)は、「私は今皆さんから出ている意見とほぼ同じだが……」、後藤陽吉議長(青年劇場)は「議案のトーンは、逆説的なものを含め問題を強く投げかけて刺激していこうというこばやし氏なりの思いからきたものだろう。しかし、傘下四十数団体という今日ではそれだけでは十分とは言えない。民主主義のあり方にもわれわれはもっと習熟していく必要があろう。」中沢研郎議長(京英)は「感覚的にはこばやしさんと同じで、『出口なし』だと思っている。創造者としてわれわれなりの進歩史観をどう育てていくかにかかっている。」とそれぞれ発言した。

また、荻坂鳩彦編集長は、大橋喜一氏から寄せられた議案に対する意見(別項参照)として、「個人のエッセイならこれでいいが、全り演の議案となると、現象追迫的で進歩史観への失望など気になる。」という意見を紹介したうえで、「ぼくはこの議案は劇作家のパロディだと思っている。だから、それに嘲みついてしょうがない。」と述べた。

(3) 各集団の活動から

議案を補足する意味での発言も多く、それは自らの具体的な活動を報告するという形で表現された。

「議案には核兵器反対運動が触れられていない。東京では新劇人会議の七集団、五十一名が参加して反核ミニフェスティバルをやった。」(青年劇場)、「青春と平和の集いを十五回も続けてきた。」「昨年、全り演でも反核アピールを出したが、その後の活動についても総括すべきだ。」(東京芸術座)、「『ある日突然に……』という国家機密法を題材にした芝居を弁護士をはじめいろんな人たちが集まって一緒にやった。一回やったが観客もそれぞれ八百人、五百人も集まった。」

(すがお)など明るい話題が報告された。

(4) 自立と連帯

「今の若者は、個が確立している。そして集団の中で思想的に目覚めていく。」(名芸)、「若い人が意見を出しても古い人に押さえられてしまう。」(上野市民劇場)

「個と集団」「自立と連帯」については、若者との対比から対論の口火が切られたが、実はこのテーマは年代間の差というものではない。常に集団にとつても一人ひとりにとつても問われ続けるテーマだ。

「議案には連帯を訴える前に個の自立をと言っているが、個が自立できないから連帯が必要であり、個は連帯を余儀なく求める。」『東り演のしおり』に書いてあるのも「連帯」だ。(青年劇場)という意見に対し、こばやし議長は「観客が新国家主義にとりこまれていく中で、我々が自立する個を持たなければとりこまれてしまう。連帯と個とは対立するものではない。」と反論した。

城谷事務局長は労働運動、争議の体験を話しながら、「いつのまにか決まってしまう、ということがしばしばあるが、もた

れ合いではだめだ。運動に弾みがつくかどうかは自分の気持、自分の意思で決めるかどうかにかかっている。」と述べて個と集団の関係を論じた。

議案修正箇所

論議の結果、「議案の字句を修正したらどうか。」(展望)との提案があり、「連帯を訴える前に、その基礎となる自立する個を、いかに強めるか」という部分の、「前に」という字句を「と共に」と修正することになった。

(5) 職場と演劇活動

全り演の中で最近あまり論議されなくなったことの一つに職場活動と演劇活動との関係があるが、総会ではこのことがとり上げられた。「活動家差別と四人に一人という人減らして私自身休職せざるを得なくなった。」(城谷)、「配転に応じなければクビという厳しい状況に劇団員がさらされている。」(石るつ)などである。

「うちにも国鉄の労働者も日教組の組合員もいる。国鉄の次は日教組だといわれている。私は『教員室』を上演する中で、教員として

の自分の脱部を痛感した。何にどう立ち向かっていくのか、その原点が見えた感じがする。」(はぐるま)との発言は「働きながら老居をやる」ということの意味を改めて問うものだった。

(6) プロデュース公演

プロデュース公演についてもいろんな経験と意見が出された。「地人会のプロデュース公演『教員室』を見たが、終ってから出演者がみんな泣いていた。プロの世界では個々にやっているからかえってこうしたプロデュース公演でみんなでやったという感動があるのだろう。」(こばやし)、「われわれは『この指とまれ』方式でやっている。」(展望)、「外部から出演者を募集してやったが高校生が大勢応募してきて実にイキイキやっている。」(たいこん座)など、プラス面の報告があった。

しかし、一方では、「劇への大衆参加やプロデュース公演が名古屋では非常に多い。しかし、劇団活動を片すみにおいやる形で、人氣をおつめ、さらっていくだけで、まともに文化をそだてる運動になっていない。」(演

集)という実態の報告もあり、「大衆参加といってもしっかりした集団がベースにならないといけない。」(京浜)、「開かれた集団にしていく必要があるし、地域をまきこんでいくようなやり方は大いにやっていい。しかし、集団の意義を問いたださないと集団運営にエネルギーを出せなくなってしまう。総タレント、目立ちたがり屋という状況の中で、集団としての力をつける努力をなくしてしまったら、地域や観客を組織していく力にはならない。」(こばやし)という警戒論が出された。

(7) 文化行政について

公立の会館使用料が高すぎる問題、自治体の助成、文化庁の姿勢、文化振興基金などの問題には仙台小、京浜、はぐるま、青年劇場、埼芸などから意見が集中した。

なかでも文化庁の文化予算に民活導入を図ろうとする危険な狙いについて批判が強かった。「文化予算をふやせという要求は、軍事費を削れという運動だ。」、「文化基金の問題は『演劇会議』で特集してほしい。」など。討論の結果、全り演(東)として次のこと

をとりくむことになった。

①公立の会館使用料及び地方自治体の助成の実態を引き続き調査し、それらの改善にとりくむ。

②各地で急速に制定されつつある自治体の文化基金の実態を各劇団にアンケート調査を行い、『演劇会議』に掲載する。

③文化庁に対しても、演劇フェスティバルへの助成を含め文化予算等についての要請活動をやっていく。

(8) 『演劇会議』について

『演劇会議』誌のことでは増誌運動、誌面の充実、編集体制などで十人から意見が出された。

昨年の総会で決まった増誌運動では減誌分を差し引いても数十部の増誌となったが、これには西会議の貢献が大きかった。演集やまなみからは劇団外に広げてふやした経験が報告され、弘演からは団友(三十人)にもよびかけてふやすつもりだとの発言があった。

誌面の充実については、「毎号、メインテーマを決めて特集記事を組むようにしたらどうか。」(城谷)との提案があり、これを受け

て萩坂編集長は「編集委員会がそのテーマを打ち出すべきだ。となると編集委員会の再編が必要だ。」と発言。結局、各ブロックが交替で編集してみるという実験を含め、各ブロックで可能性を探っていくことになった。もし、これが実現できるとなると、萩坂編集長のたいへんな仕事をいくらかでも継承できることになり、ぜひ課題としたいものだ。

(9) 新年度の活動方針

①全り演の組織拡大

明るいニュースは、西会議で今年三集団が加盟したこと、東でも三名を総会とゼミに送り出した土くれ(東京)が全り演への加盟を検討しているとのことだった。

今年度は各ブロックで拡大の可能性を追求することになり、特に静岡、仙台、名古屋、三重などの名前があがったが、各ブロックで検討することになった。

②演劇フェスティバル

来年二月十四日(日)、十五日(月)に劇団大阪の稽古場でひらかれることになった東・西合同の演劇フェスティバルについて、収容力百人の会場では一集団から一人位しか参加できな

いとして再検討を求める声が強かった。しかし、今回はもうどうしようもないとして、今回は課題として残すよう要望意見が出された。

(注)この件は西会議の努力でその後二〇〇～二三〇〇人の収容の会場が可能になった。

また、上演する劇団からも参加費(宿泊費は別)をとるのはおかしいとの意見もあり、西会議と調整することになった。

なお、このフェスティバルに出演する劇団を東から二劇団募ることになり、各ブロックで検討することを申し合わせた。

③文化庁助成について

演劇フェスティバルに文化庁の助成を求める運動は今後も続けることになり、事務局で具体化することになった。

また、文化庁の助成が縮小されたり、民活導入(企業から金を出させる)問題が文化集団や地域文化に及ぼす影響は大きいとの指摘がなされた。さらに、文化庁が資金を出してアマチュアを中心とした「文化国体」といふべき行事「国民文化祭」を各地でやろうと計画している点について、民主的な運営が保障されるかどうかという問題もあり、全り演として慎重な対応をしていくことにし、各集団に参加のよびかけがあった場合、直ちに事

務局へ情報を寄せることを申し合わせた。これは、昨年の秋の「地域劇団東京演劇祭」(於三百人劇場)への参加についての反省から出た方針である。

④北海道演劇フェスティバル

再来年(一九八八年)八月初旬に予定される北海道演劇フェスティバルに、道演集の申し入れを受けて、全り演(東)としても取り組むことが決まった。北海道では一九七三年にやっており、十五年ぶりのこととなる。地元から四集団、全り演(東)からも一・二集団の出演がよびかけられている。

⑤ブロック・ゼミナール

今年度のゼミナールは各ブロック毎にやることの提案が承認された。

⑥国際交流について

議長団会議では中国との交流が話題となっていたが、総会に先だつ運営委員会で検討した結果、機が熟していないし、西会議との話し合いもしていないので今年度は見送り、今後の研究課題にするとの説明がなされ、了承された。

いくつかの集団が加盟費を長期にわたって滞納していることが問題になり、検討した結果、「二年以上未納の劇団は今後休会扱いとする」ことになった。

さし当たって、酒田演研、おけら、さっぱの三集団については当該ブロックでその集団に最終確認を行なったうえ、休会集団として取扱うこととなった。

III 役員改選

黒沢議長が亡くなったあと過渡的な措置として複数(四人)の議長団を構成してきたが、その総括をやっていないのでこの一年間で総括をやったうえで新しい役員体制をとることになった。

したがって、今年度は役員を留任することになった。役員は次のとおり。

議長 こばやしひろし(はぐるま)

同 九子礼二(名古屋演集)

同 後藤陽吉(青年劇場)

同 中沢研郎(京浜)

編集長 荻坂桃彦

事務局長 こばやしひろし(はぐるま)

事務局次長 城谷護(京浜)

なお、運営委員は各ブロックから一名(関東のみ二名)を選出することになった。

IV その他

「非核の政府を求める会」への参加が提案されたが、「参加するのはいいが、討議しないで決めても意味がない。各集団に持ち帰って討議してから決めるべきだ。」(やまなみ)との意見を受けて、運営委員会として各集団によびかけ文を送って討議してもらい、西会議とも相談して決めることになった。

閉会あいさつは中沢議長が行ない、「今回の総会は展望という点では煮詰めることができなかったが、各集団で今後の課題について真剣に論議されてきたなと感じた。どこの集団もそれぞれ自分の『基地』を持っているわけで、そこで一つ一つ果敢にとりくんで欲しい。」と結んだ。

以上



△雨畑ゼミ・かわら版再見号の中から▽

☆雨畑、初めて来ましたが、町の人たちがとてもやさしくて感激でした。大交流会は皆さんの大鼓など、大変すばらしく、楽しく過しました。ほう・どうもおいしかった。

メークの分科会も大変楽しく講義していただいてとっても勉強になりました。

(からっかぜ・安芸あゆみ)

☆場所が良かった。あの南アルプスのふとところで。島田先生の講演は金ツチで頭をガンー発想を変えること、ここ二十年來の歴史を体制側が何をやって来たか、もう一度勉強しなおすこと。小公演も大変面白かった。特に静芸。(埼玉・中山浩光)

☆ゼミの受入れブロックとして、小形式のドラマを上演できたことは、ゼミの活性化に役立てることができたように思う。演劇フェスティバルだけではなく、ゼミにも創造発表の場を積極的・活発にすすめることが必要だと思う。実行委員の皆さん、ご苦勞様でした。(静芸・西 横太)

☆島田先生の講演で心を揺り動かされ、夜動明けの体にもかかわらず、しばらく寝つけない夜でした。(岡崎演・鶴田道博)

特集・東会議総会議案書について

総会で通らなかった議案書をふりかえって

こばやし・ひろし

(一)

「私たちは若いんです。私たちは未来に向けて胸をふくらまして生きているんです。それを未来がないなんていわないで下さい」

雨畑ゼミの各分科会での「今日とは」の分科会に参加した人の報告だったと思う。それが会場からさかんな共感の拍手を受けていた。

これはきつと総会の議案書の私の現状分析に対しての不信なのでしょうが、これ位私は情けない思いをしたことはなかったといっている。

この組織は、一体リアリズム演劇会議なのか、リアリズムというのを、この人はどう理解しているのか、社会科学に対しての無知だけでなく、私たちが三十年やってきたリアリズム演劇運動の成果がこれだったのかと改めて

問われる思いがしたからである。

むろん、この人に限らず、若い人の生物学的未来は、これから、なお五十年六十年とあろう。私の(私は五九才)未来はせいぜいあつて、十年か二十年である。

私が今日の未来にいろんな壁を感ずるのは、何も生物学的未来ではないことは私も百も承知なのである。二十才の人にどうしてあなたの余命は十年二十年しかないなんていえるだろうか。

木下順二が「リアリズム演劇とは歴史の進歩発展の上に素材を見出すことである」といったが、その進歩発展する素材が見出せない苦惱を私は訴えているのである。

それをリアリズム演劇運動の年一回のゼミナールで、生物学的未来とこっちゃんにされては、全く次元が合わないというか、開いた口

がふさがらないといっている。いわんや、それに共感する人がいるとしたら、この人たちは、この組織に入って何を学んで来たのか、それを思うと私は慚然たる思いである。

私がここでいう進歩史観とは、といわねばならないことは情けないが、封建時代から資本主義時代を迎えて、民主主義が発展し、発展の花開いた上に、平和的であれ、暴力的であれ、社会主義革命が成立し、社会主義からさらに共産主義へと進み、万国の民衆・人民は政治的・経済的・社会的に完全な平等を獲得し、自由を享受する、という。それがわれわれが学んで来た進歩史観なのである。

それを今日一〇〇%信ずるほど楽天的にない私はいつているのである。

だから、かつては歴史の進歩発展の方向に素材を求めれば、共感の拍手が得られたかも知れないが、今日では、それを望むことは極めて難しくなってきたのである。なぜ難しくなってきたか、それはいうまでもなく進歩発展する未来が見えなくなってきたからに他ならない。

(二)

の場を、残念ながら生産現場でなく、それ以外の凡ゆる場に求めているのだ。

それが演劇であり、音楽であり、歌であり、踊りであり、民謡であり、詩吟であり、カルテュアセンターであり、それ以外の多くのサークル運動である。そして温泉ブームであり、海外旅行ブームなのである。

何百種類の雑誌を書店で見ればいい。雑誌ブームといわれるが、その殆んど遊びであり、レジャーであり、食べ物であり、旅である。即ち消費である。

それだけが生きがいであり、未来とすると、進歩史観の社会科学はどうなるのか。

「未来がないなんていわないで下さい」と訴えた若い人も歌って踊って演技する未来はあるだろうが、それをリアリズム演劇の理論的根拠とは絶対にいえないのである。

それどころか、マネーブームに夢中になる未来もあるのである。新聞は三月末で投資人口はついに二〇四七万円に達したという。二千万人をこえた異常なマネーブーム。

そして野村証券はついにトヨタをぬき、利益日本一の座を獲得したのだ。これも生活保守主義の一つの現れといわなくてはなんだろう。生産企業でない、金、カネの動きだけで利益

日本一になることが、日本社会の健康を示すことといっているだろうか。

もう私はこんな調子で書き出せばキリがない。

(五)

ただ、この文章は私の個人的なエッセーであり、こばやしひろしの雑文であることは間違いない。である以上思ったことを吐き出していいはずである。

私は全リ演東会議の総会では、私の今日の状況分析ではそうとうな批判を受けた。安保体制がぬけている。反核がぬけている。それは何も今年だけではない。この数年かいたことではないのだ。わかっていることだからである。

日教組の反主流派の岐阜県高教組の組合大会議案書でも、この十年最初から教育現場をめぐる具体的な矛盾である。それまでは安保体制から始ってアメリカへの従属体制がもたらす今日の現実をめぐる、国際情勢、国内情勢、県内情勢と続き、三、四ページでようやく、戦場に入るのだった。それを毎年くり返し、ようやく改まり、教育現場をめぐる矛

盾を大切にしようになったのである。

いわんや、創造団体である全リ演が、創造をめぐる矛盾に直接入って何の不思議もない。島田先生に「いや、もう昨日からつるし上げで参りました」といったら、

「どうして」といわれたので、

「議案書にこれこれがぬけているということ」といったら、

「そういうお守りがまだ必要なんだねえ。」

それがないと不安な人がいるんだよ」

総会での批判に対して、私はわりに平静に受けとめていたつもりである。それを劇団名芸の栗木豊子さんが(栗木英章氏夫人)「こばやしさんという人はできた人だねえ」といわれたそうだ。

私は私に対する批判は、多くが科学的根拠のない批判だったから、抵抗するだけ無駄と、思っていたからに他ならない。反論してもわかってもらえないということはわかっていて、ガリレオではないが「それでも地球は回っている」というのと同じである。

大橋豊一氏が「個人的エッセーならいいが、全リ演の議案書じゃ困るでしょう」といわれたそうだが、これにも驚いた。創造団体が建前と本音と分けるなんてとんでもないことで

ある。

われわれの芝居は作者の本音に観客の共感を与えることであるはずだ。それなしにリアリズム演劇は成立しない。その創造団体の組織で、本音をのべなくて討議が深まるというのだろうか。

いずれにしても、私は生物学的に未来がないといっているのではない。若者に今日、こんな社会的無知が通るのは、文部省の歴史教育の成否なのか、社会科教育の空疎化なのか。

だが、今日、未来を衆化し、パロディ化し、右傾化し、保守化し、回顧的な歴史主義が進展し、怪奇物が流行し、破壊が喜ばれ、古いや神がのさばりはじめている今日をリアルに見る力だけは、少くともリアリズム演劇を志向する者はたねばならないということはいえるのである。

この私の文章は全く個人的なエッセーであり、雑文なのである。今年の議案書はあのままでは総会を通らなかった議案書で、意味のない、徹回してもいい議案書であるが、心ある人はもう一度目を通してもらいたい。納得できる人もいるはずだと思う。

何しろ、あのままでは通らなかった議案書だから、城谷氏に補足していただけることに

なっている。これによって私は来年からは総会が近づくと度々憂うつになる議案書は書かなくすむようになったことだけはありがたい。ただ、未来の豊かな、胸一ぱいにはじけ、若さあふれる楽天的な議案書を来年から期待するだけである。

今日の暗さからはふっ切れない私は書く資格がないからである。



△雨畑セミ・かわら版再見号の中から△

☆今日についての分科会、いろいろためになりました。しかし小生及び「展望」の問題意識とはかなり差があつて(これは私運の方が変わっているのでしょうか)すぐにセイリはつきません。劇団等というものは簡単には潰れないですな。(展望・大沢郁夫) ☆今日をどうとらえるかという点で、島田さんの話は一つのフンギリをつけてくれたような気がします。何よりの収穫でした。

若い頃から弁証法的なものの見方をしなければいけないと教えられ、自分もそう思っていただけに、この現代の中で、そういう立場から真にものを見ることができなくなっていた自分がくやまれます。楽しいゼミでした。(甲府演劇集団・三井俊之)

☆総会は若い人を含めて傍聴の人員で討論した方がい、劇団に戻ってからの討論がふかまる。それにしてもこれだけの討論ができるのは全リ演の連帯だ。小上演、講演とも、とてもいい。野外の交流会は、照明はもっと広い方がいいと思う。一これだけの準備をしてくれた中部Bの諸氏に感謝。

(京浜・佐藤張二)

戯曲書きの妄想 ふたつ

—こばやし議案書について—

大橋 喜一

A こばやし議案書なるものへの意見

東会議総会でこばやし議案書が問題になったとききました。私もこれを読んだとき、「こばやし君個人のエッセイならよいが、議案書だとすると問題がでる」との予見をもちました。とはいえ、こばやし君の現実把握について、その主な点では私もほぼ同調していました。議案書は巾ひろく全体の状況をまとめて、かなりの苦心の作だと思います。問題点は、運動の議案書としては方向線が見えないということです。運動の姿勢、提案としてはこれでは不十分ということです。すると問題は全体状況のつかみ方にあるようです。では、それはどういう点にあるのか？ 私はあらためてまた検討してみました。

第一の点は、「進歩史観」という概念の用い方にあると思います。このこばやしは、名辞としてはなかなか面白く傑作とさえ思いました。（だれの造語か知りません）私の感じ方では、進歩史観とは、マルクス主義の唯物史観にはじまり、したがって人類の歴史を階級闘争の観点でとらえ、その未来形を社会主義社会におくものと思います。もし、そうであるならば、こばやし君の用いる進歩史観では、これが今日の高度資本主義社会——物質万能、ハイテクの生産流通社会を作り出している現実に至り、ストレートに延長解釈されているように思います。文脈をたどると、労働者階級の世界観としての唯物史観が、今日色あせたものとなって見える——この点は私も賛成です。しかし、進歩史観を支えてきた科学主義（これは科学的社会主義の意味のはずで

が）が、今日の科学的な産業技術を、大量生産、消費社会の形成をもたらしているという文脈になっていて、今日の物質万能的社会は社会主義的意識の産物となってしまう。進歩史観とはイデオロギイであり、歴史を解釈する人間の意識形態です。議案書で述べる今日の経済発展は、米日の資本主義経済がもたらした現実の記述で、進歩史観によって導かれたものではありません。つまりマルクス主義的世界観が、今日の資本主義国の物質万能社会の形成につながってしまっているのです。こばやし君が現実をそのように解釈しているとは思いません。「進歩史観」なる概念の規定をしつかりおさえることなく、文章をすすめて行った結果こうなったので、それが議案書を読んでゆくと、進歩史観の行きづまりが、今日の社会現象をひきおこしているような印象をもたらすのだと思います。

たしかに進歩史観は、社会主義社会の未来像に楽観的であって、今日色あせて感じられます。しかし資本主義的な今日の経済万能社会の到来とは、資本主義と社会主義の共存の歴史の新しい過程であって、それをもって進歩史観の行きづまりと考えるのは早計です。私は進歩史観の原理は、今日の社会現象の解

釈にはまだ有効だと考えております。それには進歩史観を教条的にではなく、創造的に発展的に解釈しなければなりません。私は哲学や経済学についてなにも専門的に学んではない大衆の一人ですが、その点私たちの周囲には、古くさい教条的な進歩史観が、新しい時代に即して検討されることなく横行しているように思えてなりません。しかし、いまここでその問題を論じることは、私の到底ないことであるし、演劇の議案書の本題としては大きすぎることでやめよう。要は、議案書の現状記述の表現が、救いようのない行き詰りを感じさせる理由の一つに、この進歩史観を、つまり階級闘争を歴史解釈の芯とした思想体系を、今日の資本主義経済の発展の結果に、その否定的側面にまで延長拡大していること、これは文脈的な錯誤だと思います。それを第一の原因として指摘したいと思います。

第二の問題点は、第一の「進歩史観」とも深く関連しますが、今日の日本、そして世界の状況を解釈するのに、歴史の必然——とはを応用して、あたかもそれが自然科学的な意味での必然であつたかのように表現され

ている点です。自然現象の必然と社会現象の必然は、混同できない差異があります。社会現象の必然には、人間の意識的な参加——階級闘争の結果が段階的な現象としてあらわれるということ。だから私は、今日の日本の政治経済状況を、自然科学的な意味での必然とみることは誤りだと思っています。それは大きな世界的な階級闘争の一つの過程としての現象とみたいのです。卒直に書けば、日本の労働者階級の後退の、あるいは革新とよばれる民衆側の政治勢力が、つねに分裂をしていて統一ができない結果の、より卒直にいうならば、革新の敗北ともいって一つの現実像ではないでしょうか。

戦後四〇年間、民主的な革新勢力はつねにその政治主張を阻まれ、形の上では後退をすづけてきました。四九年の行政整理、全面講和の運動、六〇年安保、三池闘争、全共闘運動……そして今日では国鉄の分割民営など、現在の産業経済体制をつくりだすために、絶え間ない労働組合の分裂政策や、労働条件の切り下げ、あらゆる民主的運動の抑圧、演劇をはじめとする民主的文化運動の企業からの閉め出し、マスコミ操作、教育の反動化など。労働者の間にゴルフは流行しても、職

場で芝居をやる自由はほとんどありません。今日の経済繁栄の姿を謳歌する世相の裏には、おびただしい数の民主的運動をやった意識的な労働者や、教育者や、学生や、市民たちの、怨みや怒りや絶望や諦めが、静かに蓄積され、いつかはそれが、現実の変革のエネルギーに転化してゆく、私はそういう期待をもっています。しかし、こう述べることに私は少しばかり息苦しさを感じます。まるで議案書を書いたこばやし君が、そうしたことの見落しをして、そのあら探しをしているように思えて……。書くことがつらいのです。こばやし君は多分、限られたスペースに今日の全体状況をもちこむために、これらのことは言うまでもない前提として省略したのだと思います。これらはすべてリアリズム演劇運動にたずさわるわれわれの合意事項のこととして。しかし、支配権力の抑圧を省略して、進歩の必然に文を結びつけると、今日の日本の状況は、何党がやろうと解決しようのない一つの必然に、出口のない必然に見えてくるのではないのでしょうか。議案書に表現された現実の行き詰まりの状況は、じつは資本主義的高度成長の行き詰りであって、民主主義的な運動がもたらした行き詰りではないはずです。議案書

は資本主義的物質文明の否定的な現象を、その歴史過程を抽象して表現したため、逃れがたい進歩の必然として表現されているのではないでしようか。

現実を科学的な進歩の必然とみるのではなく

て、世界的な階級闘争の過程とみるならば、(つまり階級社会に生きている自己の階級的立場を意識するならば)今日の日本の状況は、日米の支配勢力によって日本の国民が変革されてきた結果であって、支配勢力はさう

は、当面のリアリズムは彼らが企んでくる現状変革への防衛のただかいてなければならぬと思います。このように述べてくると、議案書の問題は「演劇」をどこかへとして、政治運動や労働運動の議案のようにさえなてきます。じつを言うとして私はそれを好みません。こばやし君も多分好まれないと思います。しかし、この問題は、私たちがリアリズムを口にする限り、避けては通れないことでもあると思います。しかし、これらの問題は、議案書の解釈では重要であつても、私がつとも大きく感じ

秋さんの感想によれば、議案書をめぐると

B 政治と芸術についての繰り言

1 (註・このような書き方では、かなりのスペースを使つても、なかなか要点を述べられないとわかつたので、これを一応打ち切り、次の断片的なフラグメントになします。筆者の不手際をお許しください。)

うこととはどういうことか? という疑問に通じます。それらはこの議案書の問題の底流と

ていたつものことか、近ごろだんだんわかつていくてきているのです。それは演劇が人間生活にとつてどういう意味をもっているのか?

相もかわらず、十年一日のように「政治と芸術」の問題だ。四〇年前の東島協(東京自立劇団協議会)の頃から、今日の全り演じてきたまで、演劇を政治的効果の視点に置きおいて考える運動論と、なにをどのように描くのかというところから発する創造論とが、噛み合うこともなく対立したままである。出た、という。この観察は充分盲背できる。

2

労働者演劇では、(それから新劇人一般に)あつても)いつも創造の論議は苦手。なにをどのように考えるかよくわからない。専門演劇人もこの点多くは無力である。それは演劇芸術というものの自体が、美学的な点では曖昧模範としていたからだ。スタニスラフスキの演技論、アリストテレスの詩学、アレヒオの演劇論、世阿弥の花傳書などがあつても、現実の運動とそれとは、結びつけようと努力しなければ結びつかない。

4

秋さんの感想によれば、議案書をめぐると

5

演劇は他の芸術に比べて、もっとも美学的な解明がむずかしい。芝居の公演には非芸術的な現実の条件が、たくさん絡んでいる現実的な芸術だから。それだけに政治とはじつに結合し易い。芸術家のなかでもっとも政治的な行動をとり易いのも演劇人である。その頭

告席にあるのはこばやし君で、私の思うところでは、彼は芸術を主張し、同時に劇作家の立場に立っているようだ。これに対する批判あはき立てている、……でも、運動の展望は、つまり検事の立場は、演劇家とか劇団代表であつて、政治状況に主点を置いた運動の点から、議案書がペンシタイクで、運動としての展望が見出せない、主張したのでは

7

あるまいか。

8

これらの問題の根元には、政治と芸術の問題が哲学的に、美学的にまで、大胆に明らか

い。そこで、私がこばやし君の立場におかれ

9

たらどうするだろうか?

「議案書なんか書いて、自分の思想の政治的

6

今回の議案書論争に想像をめぐらせれば、被

その私がつとも、事もあらうに、こばやし

8

今回の議案書論争に想像をめぐらせれば、被

今回の議案書論争に想像をめぐらせれば、被

9

今回の議案書論争に想像をめぐらせれば、被

今回の議案書論争に想像をめぐらせれば、被

10

今回の議案書論争に想像をめぐらせれば、被

今回の議案書論争に想像をめぐらせれば、被

かも知れない。

劇作家は、おれが書けるものしか書けな
い。そして強情であり、孤独であり、その本
質はひとりであり、孤独の世界に住ん
でいる。そういうなかから生み出されるもの
が戯曲ではあるまいか。

10

たしかに劇作家は演劇人の一種である。
も、その本質は文学者である。ひとりで孤独
にものを生み出す。集団の行動や作業によ
つて、芝居という現実を生み出すところの、演
出家とか俳優とか制作者とは異なる。

劇作家は演劇人の主要な一員でありながら、
その本質上演劇人からはみ出している。劇作
家の本質は集団からはみ出して、ひとりほ
つて、このひとりばかりの孤独な仕事を通して
生れるのだ。イブセンでも、ストリンベリ
でも、チェホフでも、アレヒトでも、そうで
はあるまいか。

11

演劇家も俳優も、戯曲があつた上で仕事を
する。土台としての世界——戯曲は作らない。
彼らはリアリズム演劇観があるならば、いか
なる芝居をやるべきか？ という現実の状況

12

まれてこない——と無りをもち。

は肌で感じる。しかしそれに通した戯曲はな
の事柄を並べてもつないでも『リアリズム』
あるいは『リアリズム』な形象にはなら
ない。聞かせるのは演出家や俳優たちの嘆息
ばかり。「戯曲がないから」「劇作家がい
ないから」……

13

その上に、真に戯曲書きたんとする者の

多くは、この豊かな国とよばれる日本では、
腹を空かせている。動きまわる交通費にも事
欠いて、物質的な繁栄といつたものとは、お
そろしく遠い存在。そしてきこえる声は「戯
曲がない」「劇作家がいらない」といつても
だれかが苦心惨澹、戯曲を書いたとしても、
ほとんど読んで読んでももらえない、発表の場所す
らないのだ。——こんな話、議案書とは関係が
ない。しかし、根底にあつては深い関係が
ある、はずだ。

14

リアリズム演劇を求める人々は、『現実の
リアリズム』な反映を戯曲に求め、それ
にはまず現実の状況の、変革すべき方向に
いか。ここでは、それが『演劇』であること
は自明のことであつて、『演劇』はリアリス
ムのよつて立つ土台——下部構造なのだ、

意識をつねに占めているのは、『リアリズム』
——政治的方向線をふくむ現実認識である。

15

劇作家は——戯曲のおずかしさが身にしみ
てわかつた劇作家は、自明のことである『演
劇』を、なんとか組み伏せることなしには、
『リアリズム』は所詮空語であつて、いくら
意識の上で意気はつても、自分に書けるもの
以外に書けないことがわかる。そして戯曲の
本質は、なにがなんでも『リアリズム』である
こと、おもしろいこと。その上に芸術性をも
つこと、演劇芸術の美的条件を備えているこ
とを知る。（古典劇の世界では娯楽と芸術性
は統一されていたが、近代はとくに演劇の商
業主義化によつて、娯楽と芸術の分裂がひど
くなる。）

では、『リアリズム』は？ それは『娯楽
性』あるいは『芸術性』のさらにその上に咲
く、『よりよき人間生活への方向性』とい
うものではあるまいか？

16

演劇の土台は『娯楽』だ。おもしろいこと
だ。昔もいまも将来も。その『娯楽』が人間
の社会的現実や、人間の奥深い行動の表現、つ
まり『芸術性』を備えて普遍性をもつ。『リ
アリズム』の二つは、日本国民の意識の軍事化——

17

このように、議案書の問題は、なかなか結
論にゆけない。そこで飛躍して、私が意識し
ている結論だけ書きます。

(一九八六年一〇月)

私はそれを論理をもつてつなげることがで
きない。だから所収れソノボの文章を二つ書
いた。読者諸賢によつて、その間をつないで
いただきたい。
こばやし・ひろし氏、その批判者、その他
論争の参加者のエノルギに、深い敬意と共
感をもつてこの文を書きました。

「サマー・フェスティバル・イン・雨畑」

を終えて

河野 司

(劇団やまなみ)

を終了して」の一文にかかりたいと思います。まずは皆さんに大変に喜んで頂けたことに大満足しています。

この「成功」にはいくつかの要因があります。思いつくままプログラムにのりついて、第一に事務局をつとめた山静三劇団の団結です。とりわけ、山国の『井の中の蛙』で

ある我々やまなみを終始たてながら、温かくリードして頂いた静雲の皆さんや、シコミからバラスまで、黙々と(?)任務を全うした各集団のスタッフの皆さんには感謝しています。祭が終わって、私たち三劇団は以前より

これを機会に更にプログラムとして交流を深め、団結を固めていきたいと思っています。第二に、地元雨畑の皆さんの、辻早川町長

を先頭に町(部落)を上げてのご協力です。参加された皆さんが本心に心を聞きあい、感動を共有できたのは、地元の方々特に会場となつたグライラ雨畑の皆さんの、まさに饗食を忘れたご協力の賜物でした。

第三に、参加者の皆さんの、不慣れた事務局への配慮充分な、自らせみを成功させようという熱気です。感想文集にも表れたような

夢のように過ぎた三日間。総会準備から始合同公演「うすこころ あのを渡った」(甲州釜無河原血乱舞を改題)の稽古に突入し、山梨県青年平和フェスティバルへ出演し、新人公演「補田行進曲」にもとりかかり、と、又々、目先も見えない多忙さにきりぎりしています。

劇団員の意識疎通の場である「例会」もそのけで、唯々、芝居づくりのみに明け暮れる毎日です。皆さんの劇団は、あの燃えた日々の後、ガツ

チリと団結し、希望に燃え、逞しく前進を始めておられるでしょうか? そうであれば、と、心から念ずるものです。

我々の集団は、平常の一年か三年分もの精力を注ぎ込み、とにかく大役を果たした満足感で、事後幾日は過しました。その後、決まっていた日程に従い、秋の山梨演劇協会

いくつかのシスを、皆さんの同志的な援助でカバーして頂きました。そして、「ゼミナールとフェスティバルの混合された」今度のゼミの主旨を逸早く飲み込んで、成功の為に尽力して頂きました。

第四に、全体集会や交流会、分科会に、出演して頂いた講師や劇団、チャーターの方々は終りました。

祭のあと、それは何か虚しい響きを持った言葉です。現実に戻り、興奮から醒め、また日常の「生活」が始まるからです。しかし、「生活」は次の祭の為に、頭をグツと高く上げていききたいものです。見かけの困難に戸惑わず、真実を見つけて、歩みを進めたいものです。

第五に、運営委員劇団の皆さんの、大きな力添えです。多分私たちは皆さんを相当ハラハラさせていたことと思います。最終盤に至ってはまるで、運営委員劇団が今回のゼミの事務局のように、各劇団への働きかけなどをし

て下さいました。そのご好意に大いに甘えさせて頂いたお詫びもこめながら、改めて感謝の意を表します。

第六に、全り演の歴史と伝統です。これがあってこそ、私たちのような非力な事務局であっても、どうか責任を果たし切れたのだと思っています。

そして第七に、何よりも、各集団の持つ緊張した現状認識だったのでないでしょうか。

それぞれの劇団が、大なり小なり、現状に満ちています。

そして、あの日、心から共感した「島田講演」に、あの日、心から共感した方々が多勢居たはずで。一方、鼻白んで聞いておいでの方も居たようです。そういう声

が、いつの間にか消えてしまい、時が過ぎ、又、今度は「北海道で」又、似たような、そして又全く新しい(今年と無関係な)感動が繰り返されるのでしょうか。それでは、ただのお祭になってしまっています。

一回こっきりの、その場限りの、そんなゼミにはしたくない、なってもらいたくない。そう思いつつ、私たちが毎日の演劇活動の歩

み、折角テーマを沢山タビシグしたのに、殆ど反響がなく、拍手抜けがしています。多分次の演劇会議に期待しているのだらうとは思

陰時代全時間を投入したのに感動がなかっ
た。
今、パート主婦。仕事があつたから芝居は染
しかつたし、芝居やつてたから会社が染し
かつたといふくらい思ひます。
看護婦三交替。キリキリの稽古場通ひ。辛
いことだらけが生きている充実感あり。
職場の仲間は皆観客対象。やめたらどうし
よう。
職場・劇団両立のため自分の身を粉にする。
そして仲間の信頼、支援を得る。これこそ
両立だと思つてゐる。
〈家庭と劇団〉
将来結婚して子供を生んだら手許で育てた
い。ウチの劇団はむずかしいから。
仕事の手で悩まないけど、結婚したら劇
団に籍を置くだけになってしまうのかな？
ウチの劇団は。
結婚して子供を育てる普通の人間が芝居を続
げること、人間の中を広げ、役者の中を
広げるという劇団の考えがある。持ちの
劇団員に芝居を続けようとする劇団側
の強い意志の前では、簡単にヒヨクせん。
子供を生んで一度引こんでしまふと出て
来れなくなる。

俺は芝居やっていると人と結婚したくない。子供の頃、親にかまってもうえなかつたか。自分は子供に淋しい思いをさせたくない。うちも母子家庭。淋しがらせてごめんね。でも今は娘も切符を売ってくれるのよ。男だって結婚した途端で来なくなつた。恋人が出来るとやめてしまう。出産後早目に復帰したのが続いている。出ていけないとたちまちお客さんになる。子供は芝居をやっている親を誇りに思っているみたい。

そんなの親の自己満足だよ。
／＼稽古は時間通りに始まるか
七時が七時半になり今や八時半だ。
私のところも原則は六時半、実應は七時すぎ。でも原則を崩すすると延びるので頑として六時半を主張する。
結局は一人一人が職場で奮闘して時間をかちとるしかないんじゃないか。

——もう」といふいろいろな出ました。高校入試の内申書に影響する、べしだら職場をクビになるなど悩みはつきません。

。このご時勢に動きながら好きなことをや。てるせいたくを思つて苦にしない。

③「生活と演劇」

(家庭・仕事・職場)

室 野 定 子

(京旗協同劇団)

た。苦勞とか悩みの共通項はあつても、置かれ
る環境は千差万別ですから、ある人の体験が
必ずしも別の人の処方箋にならないといふ、
云わば人生そのものの話し合いですから、発
言した本人が自分の言つたことを反省しつ
つ人の話を聞くことになります。

世間の人様並の人生、つまり就職、結婚、
子育てと演劇人生の二者択一を迫られる時、
どうしたら良いのかといった漠然とした不安
は、自分の頭の中だけで考へていると次第に
大きくなり、困難にぶつかる度に逃げの姿勢
になつてしまふのはマアあることです。

誰も芝居が好きで初めてのですから、出来
ることなややり通したい、これも又共通項で
す。そのはざまにおこるさまざまな困難は古
くて新しい課題であり、今年この分科会が復
権したいわれでしょうか。以下発言要旨。

△劇団と職場について
。仕事の関係で忙しい時は稽古時間に間に合
わず冷たい視線を感じます。

。自由な学生時代を終り、就職して営業マン

。自分で選んだのだから止めるのも自由と思
えは気が楽。……etc……
又、元氣な顔を見たいですね。

④劇団の活性化

——ふやすこと・新人のこと——
福北 井
(劇団上野市民劇場)

深く大きな自然に包まれた雨畑のゼミは
地元の方々の熱い歓迎と、実行委員の皆さん
の盛り沢山なプログラムで、参加者を満喫さ
せてくれました。例の如く大交流会は文句な
しにゼミのクライマックスで若いも若きも、
心も体も引き込まれてメンバーしたよう
でした。この高揚と魅力は何故劇団に作れない
のだ——こんな事を考えつつ、沈滞、マンネ
リ、模索etc……様々な課題を背負って只
管、自己と集団の活力を求めて分科会へと望
んだのである。

分科会の参加者は十五集団、十九人、男性
十二人、女性七人で、馴じみの顔あり、初め

る。創造的にも信頼される接点を工夫してい

る。古い人たちの苦労や思いが若い人に伝

わり憎く、押しつけと捉えられ勝ちである。

古い人も、世代別会議を用いたりして、若

い人から学ばうとする姿勢が積極的である。

古い団員と若い団員との断層が見受けられ

る。募集する時は開放的だが、レバ決定に

なると普段は云わないのに劇団の存在意義
等を出して幹部の暗黙の圧力がかかる。
。現代は集団のカラーよりも演出のカラー
を出す時ではないか。劇団の枠の中でやれ
なかつたことを劇団の外で新人の気持ちで
取り組んでいる。
。時間が少い中にも、ゆとりを持って、
仲間との連帯を深める工夫を集団で持つと
共に、公演回数よりも、如何に観客に責任
をもてる舞台をつくるかを徹底して話し合
いその上での信頼関係を確立しなければな
らないのではないか。
。自立した個々の活性化が集団の活性化
につながると思う。しんどい思いをしてい
る中堅が新人（若者）の息吹きを吸収して

ついでである。
新人の確保について、新人教育、新人との
連帯と報告が続く。
。新人が増えないと集団が疲れる心配が
あるので新人確保を前面に打ち立てている。
。研究所が自主的な活動をしかけても、
悪く云えば干渉、良く云えば心配してくれ
るようで何となく制約を受ける。
。新人教育はしない（出来ない）で即、
実践を共にしてゆく中で学ぶ。研究
。研究所を何でも定着しない。
。一通りの自己紹介の中から出された報告の
代表的なものを列記したが、劇団活性化は新
人を増やせば解決すると言う単純なことでは
なさそうである。
。一息入れて、後半は、さらに討論を深める
ことで、出された問題別にと司会者の方向
づけもなされたが、実際は順調に進べなかつ
たのを良い事にして、未整理のまま報告させ
て戴くことにする。
。新人をもち上るやり方、新人即、活性
化にと考えるのは古い体質だ。むしろ先輩
が蓄積したものは固守すべきである。
。新人に対して、古い人がデモンストレー
ションを起し（基礎訓練やダンス等）新人

状況は
。職場の状況が厳しく残業等で遅くなり、
充分な稽古時間がとれない。
。殊に若い人をリードしなければならな
い中堅が職場や家庭の都合で結果し憎い。
。遊んでいるわけではないが連絡等もし
ないし、不信が起る。
。以上が結集し憎い状況の主な内容で、次に
。平均年齢が四十才位で、安定はしてい
るが家庭や職場で闘っている先輩たちと、
若い研究生が創造の場で共同していけるか
不安である。
。先輩の側から、新人の必要性を強く打
ち出してほしい。
。古い団員と新人との共同、連帯について
ある。そして、演劇を活々と創るには
劇団の在り方について考える時だ。
。素人を集めて二回の公演を打ったが成功し
た。劇団の枠に捉われないで演劇を楽しむ
創れないものか。
。私のような古い者には大胆だが考えさせら
れる意見である。続いて愈々、新人のことに

ゆくことも大切。
。古い人も、新人も基本は芝居づくりの
楽しさや苦しさを通じて連帯し合うことだ。
。古い人も改めて、芝居づくりの発見の楽し
さを発見しなければいけない。
。とであります。
。発見のない稽古場はつまらないし、活々
しい。先に稽古場にきた人が、後から来
た人が損したような気になるような活々し
た稽古場をつくる。それが先に來た人の
努めではないか。
。討論は幕詰まったようである。結局は各々
苦勞を重ねるなら演劇活動を続けているのだ。
古いと云われる人も、若者も、好きでやりか
けた人も、運動がや入った人も、職場や家庭、
集団を切り離す訳にはいかないのだ。曖昧で
なく連帯して多に葛藤し悩み抜こうではな
いか、演劇創造の場。それが個と集団の活
性化の根源ではなからうか。……老化に近づい
た頭でまとめる中でいまさらのように思っ
たのである。

。古い人も、新人も基本は芝居づくりの

楽しさや苦しさを通じて連帯し合うことだ。

。古い人も改めて、芝居づくりの発見の楽し

さを発見しなければいけない。

。とであります。

。発見のない稽古場はつまらないし、活々

しい。先に稽古場にきた人が、後から来

た人が損したような気になるような活々し
た稽古場をつくる。それが先に來た人の
努めではないか。
。討論は幕詰まったようである。結局は各々
苦勞を重ねるなら演劇活動を続けているのだ。
古いと云われる人も、若者も、好きでやりか
けた人も、運動がや入った人も、職場や家庭、
集団を切り離す訳にはいかないのだ。曖昧で
なく連帯して多に葛藤し悩み抜こうではな
いか、演劇創造の場。それが個と集団の活
性化の根源ではなからうか。……老化に近づい
た頭でまとめる中でいまさらのように思っ
たのである。

△小型式上演の反響△

「國家機密法」(青年劇場)
。すぐおもしろかつたけど、笑いが中
途半端になつたね。(はぐるま・女性)
。ソデベセリヲ聞きに行つたのが面白
かつた。マサキ青年劇場が！(埼玉・男)
。「地球は青かつた」(はぐるま)
。最後は面白かつたけれど前半が少しか
たまるかつた。詩のつながりが良くない。地
球がもつときれいに出てくれれば……でも
力強くよかつた。(青年劇場・女)
「わたしやねん」(埼玉)
。歌が印象的、言っていることをすなお
に受けとらなければいけないと思つた。
(東京芸術座・男)
「漆黒色の桜たち」(静芸)
。面白かつた。一人のおばさんがわざ
とらしく感じがよかつた。でもうら悲しか
つた。視点がよかつた。(名古屋・女)
。こんな芝居、はじめて。おもしろか
つた。わたしは兵隊、兵隊で苦労したの
でよくわかる。同じような経験をしたんだ
よ。(地元のおばさん・望月さん・64歳)
(以上、雨畑かわら版2号より拝借)

内田 薫 小型式上演への一つの感想 (劇団はぐるま)

一つめは、青年劇場の「国家機密法」。

題名はものものしく、これをどう料理するか興味を持って見てたけど、正直言っても面白くない。まあいいけど、おもしろいという感じではないし、パロディにしても弱えなかった。青年劇場にはもっとかんばってほしいかった。

二つめは、埼玉の「うち、いやねん」。題名だけ聞くと何のことやらわからないですが、スライドを映しながら、車椅子の少女がキターをバックに詩を語り、それを横で手話通訳する、というもので、一番心をひかれました。ちょっと哀しいギターの音色に、女性のハミング、淡々と語っていく車椅子の少女に、バックに映るスライド(車イスのアッブだったり、作者であるだろう少女の、ベッドでの姿だったり、何か意味不明のものだったり……)そして、手話通訳者。(僕は)次が出番のため、効果席から、斜めに観てたけ

楽天性に満ち満ちて

——第25回西会議・総会の記録——

堀 野 稔 武 史 稔 (こじか座) (四紀会)

その魅力ある内容にするため、各集団の智恵を集める必要がある。

レバの多様化現象のなかで、今年もまた地域の観客と密着して独自の活動を展開しているいくつかの集団があり、それぞれに成果を上げていく。創作劇では、地域の歴史を素材にした、トラム「白河踊り考」、こじか座

に、「海の渡来」「伊予路はる・あき」「やぎ」「幕末民謡物語」、わだち「炎の街から」、和歌山「情け無用荒川太鼓」、動労市民の暮らに切り込んだ四紀会「仙女たちのシンフォニー」、関雲「西成山王ホナル」などが注目

を集め、新加盟劇団も、あしがえ「落ちこぼれ」の神様、かすが「戦争とトシツツ」が成功して集団の自信となっている。

また一方では、レバについての悩みは依然として深刻だが、どのようなレバであれ、その集団なりの創造課題を設け、上演後には十分総括することが大切だ。

集団の活性化については、劇団への結集の悪さにいらだちたり世代のズレや価値感の相違に戸惑うことなく、要は指導部が日々新たな創造に立ち向かう姿勢を貫くことが現状を切り開く道だ。

切である。

一年の活動をとおしてみると演劇フェスティバルの中止が波紋を投じたが、演劇フェスティバルは全行演行事の重要な柱であり、来年の大阪開催の成功をめざすとともに、今後いっ

先の選挙での自民党圧勝に象徴されるように報告の要旨はおおむね次のとおりである。

討議は理事務局長の報告からすすめられた。

なかで紹介された。

ぶえ」(松江)が、全員の熱い視線と拍手の山陰地区からはじめての加盟となった「あし戦劇研」(大阪)、「かすがい」(尼崎)、「じか座」を選び、ついで新加盟の「大阪府まず総会議長団に合田(どろ)、堀野(こ

歌で知られた大原三院に程近い京都市八瀬・藤福寺会館で、8月23日・24日の両日に開催された。今年の総会は久しぶりに3劇団もの新しい仲間を迎えて昨年をはるかに上回る計22集団36名が参加、ここ例年になく新鮮で活

気にあふれたものとなった。

全行演第25回西会議総会は、古くから詩や

その他、改革路線がすすむ自治体の文化行政への対応、劇団間での創造交流など、活動の課題が提起された。

- 事務局報告に引き続いてアロックス別に各劇団の活動報告を行い、特別報告として、①「淡の街から」の創造過程（わたし）、②職業劇団の諸問題（2月コロ）、③京都西陣文化センター設立の運動、④劇団きつかわの林田氏の不当解雇撤回裁判の勝利の経緯、を加え、それらを受けて四つの柱を設定して討論をすすめた。
- ①劇団の活性化……指導部が意欲を減退させている現実をどう克服するか。創造理念が硬直化していないか。指導部と若者との接点をどう求めるか。
- ②創造理念の再構築……レバの多様化がいわれているが、かつて集団が持っていたはずの理念を今日にふさわしく再構築するにはどうすればいいか。
- ③連帯の強化……西会議が加盟集団の力になっているか。アロックス活動を活発にするには何か必要か。
- ④地方自治体への対応……改革地方版、文化の商品化の状況にどう対処するか。

和歌山 地域の歴史を描いた「荒川太鼓」が成功した。裏切り者が主人公だが、観客は自分のなかにある矛盾や苦悩を重ねて観ている。寅さんの世界に共通している。

あしぶえ 「落ちこぼれの神様」では夜間中学を描き、音楽は「めだかの学校」だ。登場人物の行動が現代の人間関係を際立たせ、教育問題にも切りこめた。

京芸 解り易いことを通俗的だとして馬鹿にしているのか。観客はたえず新しい視点を持待している。創作劇に歴史劇が多いが、歴史劇にしろ現代劇にしろ、現代をとらえる眼が大切。また観客の欲求との接点を探り出す方法をもっと勉強すること。

かすがい 観客にとって本当に面白いのは未来を見通せる作品だ。そんな舞台をがむしゃらにつくりたい。

クルル 劇団は観客を運り好みしていないか。リアリズムの発展のためにも幅広い観客を意識したレベルと活動が必要だ。

四記念 いままで社会科学上のテーマを芸術に押し付けてリアリズムを狭くしてきたという反省がある。芝居を面白くするためにストーリーを練ることに熟達したい。劇団ではいま、過去や現在を描くだけでなく、

討論の主な発言は次のとおりである。

まず劇団の活性化については、

月曜会 劇団の再生をめざして、精神的な生活基盤を演劇にすえる人が自選で幹事会を構成した。レバも従来の劇団では考えられなかった「楽屋」「寿歌」などを上演、当初は抵抗もあったが、現在ではそれらの作品から何を学ぶかを考えようとしている。

大阪 構成員の半数が創立メンバー、若い人が育たない。それぞれが主体的に創造にかかわる姿勢をどうつくるかが問題。劇団内アロックス公演はその活力になっている。

クラル 人形を扱う特殊な労働条件を考慮し、職業劇団として55才定年制（退団を意味しない）をつくって中堅の創造エネルギを発揮しやすい環境にした。だが若い人は会議が苦手だ。特に運動面は敬遠する。

四記念 来生30周年を迎えるが指導部が老齢化し、その世代は指導部への依存度が依然として強い。また若い世代は30年の歴史を価値あるものとして受けとめない。劇団一

代論は実感だ。

京芸 劇団や創造というのは自分自身だ。自分を譲るなんてことはできない。自分の仕事を生き生きと続ける、その信念に共鳴するものと一緒に創るといふことだ。自分に魅力がなければ集団から見放される。集団が魅力さえあれば解散だ。

あしぶえ 山陰にある稽古場に瀬戸内から数時間もかけて休日でとに通っている劇団員が複数いて、わたし（劇団代表の岡山）も20年間通動している。他地域への転勤者も劇団に残るのが常識化している。劇団と創造への魅力がそうさせている。

（参加者全員一瞬声なし）

月曜会 劇団内で最も生き生きしているのは土屋氏だ。作家としてたえず現代にきりこんでいるからだ。

関芸 集団の活性化はつまるところ自分自身の活性化だ。それは舞台と観客との緊張関係から生まれる。基本はアヒトのよう

レバと観客については、

特に自治体へは、事務局が行ったアンケート調査の結果を参考に、各劇団間で情報を交換し、自主的な文化活動への補助金や貸しホールの使用条件や料金などについて、地域の文化団体との連帯行動で改善させる運動の必要が話合われた。

また企業の演劇公演への進出、今年から始まる国民文化祭などの状況については、各劇団の創造の主体性をもつてのぞむこと、そのために集団で論議を尽くすことが確認された。

「演劇会議」はこの一年で西会議は33部増やしたが、今後も増誌活動を続けるとともに「わかももの頁」など懸案となっている編集の改善が要望された。

また規約を現状にあわせて改正した。総会や交流会の模様を克明に伝えられないのは残念だが、議長団をはじめとする高年齢の人たちの強靱な精神がうかがえ、新加盟劇団の意気軒昂な発言もあって、終始明るい楽天性に満ち満ちた二日間であった。

●活動方針

・アロックス活動を強化し、劇団交流を積極的にしよう

強い関心が寄せられた。

職業劇団の経営、自治体の公演活動への財政援助の状況も話題になった。

・未結集・未加盟劇団を結集し、組織を強

めよう
・「演劇会議」の内容を充実し広げよう
・西リ演史を深めよう
・戯曲研究会・フエナイバル・ゼミナールを成功させよう

●新役員

議長団 仲 武司(関芸)

事務局長 堀 武史(四紀会)

次長 熊本 一(大阪)

田中 実(息吹)

運営委員団

(京都) 京芸

(大阪) 関芸、未来、大阪、息吹

(兵庫) 四紀会、やぎ

(中国) 月曜会、草の実

(四国) こじか座

(九州)

西会議・第三回演劇講座

「狂言」分科会に参加して

池田 真代

(神戸職演連)

八月二十三日の夕刻、目的地である京都の洛北、八瀬の養福寺に到着しました。量敷きの大広間に案内されると、そこにはもう顔見知りの他劇団の人たちが思い思いに休憩していて、二日間にわたる講座や交流会への期待にいつそ胸がふくらみました。

間もなく京都の演劇サークル瞬による狂言のモデル上演「神鳴」が始まりました。「神鳴」とは「雷」という意味で、登場人物は雷と薬師。衣装は本式。まず薬師が名のりを始める。口調がなんとも愉快で、そのうえ声の響きがいい。雷は面をつけていて、音を台詞で表現しながら動き回る。この動きもコースがきっちり決まっている。地上に落ちた雷が薬師に治療を頼むくだりがおもしろい。また治療用の針の大きいこと、その針を植で打ち込む音表現する台詞、それに反応する雷のしぐさ。大きな表現のなかに何かしら

- 1 この会は、全国リアリズム演劇会議西会合(略称「全リ演西会議」)と称します。
 - 2 この会は、リアリズム演劇の発展をめざして西日本(滋賀県以西)で活動をすすめている劇団(サークルを含む、以下同じ)及び個人の協議体です。
 - 3 この会への加入は、加盟二劇団の推薦により、運営委員会が承認することとします。
 - 4 この会は、ゼミナール、研究会、講習会などの開催、劇作家など演劇関係者との交流のほか、必要な事業を行います。
 - 5 この会は、全日本リアリズム演劇会議機関誌「演劇会議」の発行のほか、前項の事業を、必要に応じて東会議と共同で行います。
 - 6 この会は、一年に一回、定期総会を開きます。また運営委員会が必要と認めるときは臨時に開催します。総会の議決は、
- 全国リアリズム演劇会議西会合
出席劇団の単独多数決とします。
7 この会は、次の役員をおき、役員は総会で選出します。
- 議長、事務局長、運営委員、会計
監査
8 運営委員会は、議長、事務局長、運営委員で構成し、事務局など活動に必要な機関を設置することができます。
- 9 この会の会計は、会費その他によってまかないます。
- 10 この申し合せは、総会で出席者の三分の二以上の賛成により変更できます。
- 11 この申し合せは、一九八六年八月三日に発効します。
- 会費(年額)
劇団員・一〇名以下……一、五〇〇円
・一名以上……一、〇〇〇円
・二名以上……一、五〇〇円
・四名以上……二、〇〇〇円
個人会員………三、〇〇〇円

と虚構を真実にみせるものであり、舞台装置などは虚構を真実にみせるための工夫である。だが狂言では虚構を隠蔽せずむしろあつていかんと見せていく。そのため人間の真実、俳優の生理的なリアリティが必要不可欠なものとなる。このようにして創られた舞台は生き生きとする。また狂言には台本がなく、口書きで即興的に演じられ継承されてきた。そのため出発点では数千数百もあった言葉が次第に洗練されて、本当に生きた言葉になってきた……。

「雷」はいまから五百年も前に生まれたそうですが、狂言が昔のままの機式で上演して今日なおすばらしいリアリティを感じることの意味はこれなんだと感じました。一時間の講演があつた。充実した内容、しかも話ぶりの見事さです。かなり圧倒されてしまいました。そして、様式的であれ写実的であれ、よりリアルな舞台をめざす俳優としての勉強の目的がはつきりしてきた気がしました。

翌日はいよいよ狂言の実習。生理状態を表現する型とはどんなものかと、期待でわくわくしながら部屋を移動する。「猿蓑(しび

特に『音楽』分科会に関わって

山田 一己
(劇団きづがわ)

でした。事務局のみなさん、ありがとうございました。

いました。全リ演のみなさん、また来年お目

り)「という台本が渡されました。

まずは言葉のリズム。アクセントは強弱テ

クセントで単語の二音目が強。勿論例外もあ

る。言葉のリズムは対話になっても変わらな

い。相手のリズムをくすすに受ける。どん

な言葉にも効果が計算されている。考えたり

当惑したりするときはテンポを遅くし、考え

ついたり思い直したときは元のテンポに戻す

ような技も必要だ。そして音程の極端な高低

もリズムを生み出す一要素だ。俳優のリズム

は観客のリズムを計算しているのだ。強弱、

緩急、狂言の台詞は観客の心をゆさぶる音楽

そのものだ。だが頭で理解するほどにわたし

たちの声は自由になつてくれない。夜山氏の

朗々たる声で、ユーモラスな指導に生徒たち

の笑い声が八潮の山林に響きわたる。

二日間の講座の締めくくりに、狂言分科会

から月曜会の高尾さん、きづかわの山本さん

が「療病」の一部を披露して、ふたたび会場

は大爆笑。そして拍手の渦巻き……。

古典芸能の模式のなかにリズムの原形

がひそんでいることを、わたしたちはもつと

もつと字はければならないと思います。

夏の二日間は、わたしにとつて貴重な体験

今回の講座の柱が「狂言」と「音楽」と聞
いて、「何だアこれは！何と僕に縁遠いテ
アばかり連んだもんや……。」と、実はし
ぶの参加でした。しかし、さすがに全リ演
ですね。参加してみてもそれなりの発見もあり、
充実した二日間を過ごすことができました。
音楽分科会を担当していただいた、作曲家
の安達元彦先生については、お名前を演劇会
で拝見するくらいで、殆ど予備知識なしで
の出会いでした。一日目の講座で安達先生は、
「自分と音楽との出会い、や、音楽家として
の自分自分のテーマ、等について、自分のお
いたちに軸れながら話をすすめていかれまし
た。美空ひばりに魅かれていた少年時代、担
任の青年教師の影響で、コロッとクランジッ
ク狂に発節(?)してしまつたこと。そして、
作曲家として出発してからは、『京浜協同劇
芝居づくり(少くとも我が劇団では)——だ
芝居づくり(少くとも我が劇団では)——だ
うな、お粗末な創造水準でしかない僕たちの
ろくか?」とても「イエス」とは言えないよ
その、発展的な人間関係をつくつてきただ
で、また、本番の舞台と観客との交流の中に、
ました。僕たちの芝居づくりの創造過程の中
言葉でありながら、とても新鮮な発見があり
をつくるのが創造だ、——でく当り前の
はしめくられました。「発展的な人間関係
「創造、だと思ふ。」そんな言葉で、一日目
な人間関係をつくること、こそが、本当の
曲でできるのであり、その過程の中で、発展的
はあつても、創造、ではありません。その
「作業、に至るまでの過程があつて初めて作
作曲する」というのは、僕にとつて「作業、で
機になったという。「自分の部屋にこもつて
今この講座の柱が「狂言」と「音楽」と聞

から、安達先生がこの言葉は、グサリと僕の
胸にさざりました。

さて二日目の音楽分科会では、その安達先

生の信念を裏つける具体的な作曲の有り様が

語られました。「できあがった詩を送つても

らい、それにただ曲をつけるというような事

はしたくない……作曲家は自動販売機ではな

いんです。「僕は、詩が生みだされるスター

トの時から関わつてこないと曲を生みだせな

いのです。……人間が見えないとだめなん

す。人と人との関係の中からメロヂアが聞こ

え出すんです。だから曲は、僕がつくるので

はないんです。「……分科会はその後、発声

練習、歌の練習と続き、歌つことの楽しさを

久しぶりに味わつて終わりました。たつた二

日間でしたが、ユニークで中味の濃い「音楽

分科会、だつたと思います。安達先生のあの

人なつてい笑顔に出会えたことが、僕には

何よりの収穫でした。

☆

☆

△西会議・演劇講座・アンケートから△

☆「狂言」の分科会

「良かったです。はじめ声を出すのがは

ずかしかったです。後半は楽しかったです」

(息吹・女性)「狂言独特の言い方が、ひ

とつとつアクセントのことやリズムのこと

とかわかつて、コッがわかつて言つてみた

らたのしかつたです。」(京芸・女性)

☆「音楽」の分科会

「とにかくみなで歌えたことが楽しか

たです。おもしろい発声法……「イエー、

というのです。素晴らしい曲をいっぱい教

えて頂き、有難うございました」(未来・

女性)「歌うのがにがてな私でも自然に声

が出ました。大へん楽しい講座でした」

(わたち・女性)

☆全体の感想

「今、サークルの団結、意志疎通がうま

く、いつてなくて色々な個人的なやみ、サー

クルのなやみをきいて下さつた、月曜会

の方、京芸の方、深夜三時頃まで廊下で話を

していた皆々様、本当にありがとうございました

ました。たくさん熱いものを感じ、これから

もがんばろうと思います」(神戸・深川)

☆狂言「神鳴」を観ての感想

「見るのは初めて、すごく新鮮。とても

大きな表現の言回し、その中のリアリテ

に感激」(未来・女性)「上演してくれた

どきの皆さん、素晴らしい狂言で感動して

います。これで西会議に入つてもらえるだ

らうな」(かすがい・男性)

「せまいスペース、畳の上、一所懸命や

られたと思う。ああ狂言ってこんなに面白

いものかと思いました」(神戸・女性)

☆講演についての感想

「安達先生——じつくりと聞かせて頂くう

ちに、だんだんと先生の素直らしさがわか

てきました。茂山先生——お話がとても上手

で、ひき込まれました。もつとお話を聞き

たいです。」(未来・女性)

「茂山先生のお話では、新劇と狂言が全

く別のものではないということを感じまし

た。安達先生のお話では、音楽は専門家だ

けのものではなく、皆の中でできていくも

のだと思いました。」(府際劇研・女性)

「芝居は「生理、で、という茂山先生の

お話がよかったです。」(未来・男性)

劇団通信

演劇集団わたち

あつーい、熱い、炎の街から、が終りまし

た。63号の小松徹さんの劇評と又川の報告が

異り、取り組んだ人たちが劇団内にいろいろ

意見がとび交いました。が、そのこととは別

に、炎の街から、に取り組んだ人たちが（塚を

中心にして）で劇団が生まれようとしています。

準劇団員も含めて、一五名くらいのものです。

何年かして全り演に加盟してくれるように

なれば、と、つい嬉しくなります。

劇団第三期スクール生も、今回は初めて2

ケタ、10名の参加者があり、これも劇団を熱

くしております。そして、新春一月中旬に、

ケイコ場公演として、別役実・作、又川邦義

演出で「マツチ売りの少女」を上演します。

さて、どうなりますか、お楽しみに。

563 大阪市福島区福島六―二一七

川村ビル 4F

また新しい仲間を迎えて、いい舞台をつく

るために努力していきたいと思っています。

「演劇会議」、もつと劇団の中で話し合っ

ていこうと、中部プロダクションで4部拡大し

めしましたが、とりあえず名実内で4部拡大し

たことを報告します。

急ぎので連絡は左記へよろしく

457 名古屋市中区日町平針向田

〇五二―八〇三―二九二

栗木方

劇団四日市

当劇団も何となく五周年、しかし一部劇団

員とタモトをわかつ羽目もあり、小林ひろし

さんはより指摘をうけましたが、この件に関し

ては沈黙しました。

単なる一現象で生じた私の怒りではなか

たのです。彼らが「フリー」(FRE)な

る劇団をつくりましたので、この地に根づく

よう、私は願っています。思いっきり若さを

表現する劇団となりますように。

「リトルの涙」は市外、県外より公演

要請があります。

〇六一四五八一四四五

テートル・ハカタ

「夏休みファミリー劇場」の名づけて二本

の作品を上演。まず七月は、園山士謙の書き

おろし「落ちこぼれの神様」。

ある夜間中学校を舞台に、教育の原点をま

さぐって、好評のうち、23スティー、一〇〇

八月は、井上ひさし「十一びきのネコ」、

体長ハメトルの魚と客席上空を飛ぶ飛行機

にやんやの喝采。肝心の役者はいづれも、個

人芸の必要さを痛感しての27スティー。観客

総数三八八名様。

十二月十五日初日。ケンセルリング作「毒

薬と老健」、地方小都市に舞台を築いてのサ

スベンスドラマは31スティー。

今年一月十五日、新劇場の柿落しから、と

にかく、劇場の存在を世に問うべく、手を疲

え品を築いて、一湾千里。

一月の「綴方教室」が24スティー、九一

名様。「ミュージカル・シリーズ」四本の作

品で、85スティー、二九二四名様。「毒薬と

老健」31スティー、二五〇〇名様を目標にお

いて製作中。

来年は、新人教育が新しいテーマとして登

場するので、こまめな発表会と、菊田一夫、

北条秀司、井上ひさし、岡部耕大書き下ろし

作品の四本柱を中心に、春・夏・クリスマス

に「ファミリー劇場」が続いての公演。

さて私共の小劇場、果して二年目も健在の

灯を点す事が出来るか。挑戦あるのみです。

(812) 福岡市博多区奈良屋町二一九

〇九二二七一一五〇九〇

劇団名義

雨畑ゼミナールでは色々お世話になり、ど

うもありがとうございます。婦名後、子供

劇場「雪んて物語」(脚本/栗木、演出/糸

井重喜)の後半分を無事終え、客数も二千五

百人に達しました。

現在、秋の第30回本公演「米泣く村に、

米降る街に……」(作/栗木、演出/柘植洋)

に取り組んでいます。

11月22(土)・24(日)名実平針小劇場

萩坂編集長からも、久しぶりの力作、と言

われた創作を是非成功させようとして張り切っ

ていますので、ご観劇いただければ幸いです。

その後は、第24期研究生の卒業公演として、

「送り火——ふさと消えず」(作/栗木、

演出/小野義明)を上演します。

12月20(土)21(日) 平針小劇場

だが、おおらかなおなよりを頂きまして安心

しました。新しい劇団「FRE」もどうか

がんばって下さい。)

秋本書をむかえ、劇団は連日公演・稽古と

あわただししい日が続いています。

〇一般公演——「またときめぐりて」J、

V・テッルーチン「私はカメラだ、より、梶

本溪翻案・道井直次演出。11月7・8日郵便

貯金ホール。大阪新劇フェスティバル・大阪

文化祭参加公演。

〇全国中・高校〇こども・おやこ劇場例会——

「奇蹟の人」W・ギンソソ作・小津次郎訳・

富田悦史演出。87年春まで公演。

〇同じく「翔べーその翼で」(空を飛んだ鶴

と銀色の松ボックリ)可能あらた作・仲武司

演出。88年春まで公演。

〇全国こども・おやこ劇場、小学校——「ラ

ン子ちゃん、がんばれー」(いじめられっ子も

のがたり)道井直次作・演出。88年春まで巡

演。

劇団は来年創立30周年を迎え、記念誌の

編集、祝賀会、記念公演などの企画など、劇

団あけての取組みをはかっています。

(545) 大阪市阿倍野区文の里四一―一八一六

見えず、劇団四日市大異変か?と心配しまし

せました。総会にも、セミにも森さんの姿が

が、森さんの諒解を得て、劇団通信として載

(編集部より。これは萩坂あての私信です

〇五九三―五一一九四二六

510 四日市市北浜町九一〇

書いて、期待に応えます。(森 賢郎)

御健康でがんばって下さい。私も書いて、

は二十部へと増部につとめます。

だが、今まで通り、十五部頂きます。来年に

「演劇会議」減数しなくてはと憂慮しまし

り、それ以上の体制となりました。

一部劇団員が退団しました穴はすぐ元へ戻

演に向けて、大車輪の毎日です。

劇団新芸

「86年度作品」ジエムス三木作「愛さずにはいられない」を無事に打ち上げました。

初演出の平山は入団三年目、初舞台監督の中村和枝は再入団四年目。この二人を中心に、鹿角、景安、工藤、池上等の必死の働き、新入連野の太健闘などが呼び水となって、キャスト16名、スタッフ25名の人間が集り、観客数二六八名の舞台を造りあげました。

小屋が小さいため、立って見ていただいた方も何人かおられました。一週間前の稽古では、このままではお客様に喜んでもらえる舞台になるかどうか、不安から、舞台と観客に引き合う流れが生れ、ラストは熱い拍手にとまどいながら、カーテンコールを受けました。

まさにとこれこそ観客と共に造り上げた舞台でした。観客の中には笑いながら泣いていた方も何人かおられました。

主役の二人はうまいとは言えませんが、捲身で役に取り組み、そのひたむきが、まさしく役が自分か解らないところで観客の心をつかむし、四方八方からさらわれて来た生

徒役の若い人達が伸び伸びと楽しんで舞台に登場し、そこが本場の学校のように見えま

したし、装置や小道具にも岡部や広光や助人の金谷さんの猛奮闘がラス水産高校を始めとする高校生諸君の応援、新聞で呼びかけて来てくれたスチキナき若い女性二名の応援等で、きれいに転換できました。スチキ風の入る寒

い会館で、使い捨てカイロで暖を取りながらスチキと受付をやって下さった方、泣きやまない赤ちゃんと保護を下さった保護母さん、国鉄の人材活用センターへ配転され、厳しい闘いをしてる機関士さんが、パンフレット

や看板を書いて下さいました。そのすべての流れの中に、お客様に親で良かった、来てよかったという気持ちで帰ってもらった舞台が作れたのです。私たちは一人一人の力を信じ

て、もっと自信を持つのも良いようですね。最後に、このお芝居の土台を造って下さったジエムス三木さんと上演許可をくださった青年劇場の皆さんに厚く御礼申し上げます。

(文責・宮津泰子)

〇四一〇二 小樽市銭函町三一三・一六二 鹿角優一

〇三四一六二一三三五四 伊丹市民劇場・やき

劇団・伊丹市民劇場・やき

〇三七・八一・一六五五〇

伊丹市立親幼稚園 2F

伊丹市立親幼稚園 2F

伊丹市立親幼稚園 2F

伊丹市立親幼稚園 2F

劇団創立一五周年記念公演のご案内。

「奇蹟の人」作／W・ギブソン 訳／小津次郎 演出／田中孝志

日時 一月二九日(土) PM六・一五
三月三日(日) PM一・三〇
会場 伊丹市立文化会館

入場料 一般一五〇〇円 大学生一〇〇〇円
小・中学生八〇〇円

右記の様に、劇団や創立一五周年記念公演にむけて、連日猛練習を続けております。是非とも御観劇下さいませ。練習案内申し上げます。

のクイコ場が、今年の四月から左記に変更になりまして、お知らせ致します。

新稽古場は、(火・木・金 夜のみ)

伊丹市大鹿五・一六七

伊丹市立親幼稚園 2F

伊丹市立親幼稚園 2F

伊丹市立親幼稚園 2F

伊丹市立親幼稚園 2F

伊丹市立親幼稚園 2F

また、前記の「やけあとのアレーメン楽団」

(中村欽一・ふじたあさや演出)も例年通り、一月五・六・七日、県民会館小ホールで

「新春子ども劇場」として五ステージ上演致します。その他、今、私たちの進めている劇

場建設運動のひとつとして、未来スタジオ建設のための企画公演「劇版・日本国憲法・今

日私はりんごの木を植える」(ふじたあさや作・演出)を四月に上演致します。中芸の劇

演劇集団石ころ

秋公演に向けてスパークしています。

一人団員が増えました。三十歳です。それ

でも若い方です。石ころもいつのまにか、停

年令集団です。二十代は今、一人ですから。

集団を若くするには、若々しく舞台を、と

「カレドニア号出帆す」に決定しました。

おこなうことになりました。作品は、多田徹

とあります。次期公演体制に入。たという

劇団息吹

すっかり秋本番、芝居つくしの季節をむか

え、他劇団の方には公演準備に忙しいことで

私たちの次の公演は、八七年一月に、大

阪八尾市の八尾おやこ劇場の二月例会として

ところで、

ところで、このところ劇団では朗報続きで、今年にはいり、団員が二名も結婚しました。いづれも劇団を通じて知り合い、ゴールインしたのです。二人共、劇団と関わりのあるバーナーを得て、私たちの喜びもひとしおです。また十月一日には待望の、近鉄・東大阪線が開通、大阪市営地下鉄と相互乗入になり、大阪市内から10分余り、駅からも徒歩3分という便利さになりました。これからはケイコ場の地の利を活かして創造の輪をひろげてみたいと思っております。

また10月より、第二回研究生講座を開講、九名の研究生をむかえました。久しぶりの若いエネルギーが劇団の活性化につながれば、そして半年後には、全員が劇団員になってくれれば……の思いです。

(578) 東大阪市 中野 三二四 一四〇
〇七二九一六四一四四四一

劇団からつかせ

いまだんと秋も深まり、いよいよ、秋公演も近づいてきました。子供劇場「ベっかんこの鬼」は11月6日が初日で、そのあと来年3月まで6公演以上を予定しております。

久しぶりの本格的移動公演ということで、

とまどう事も多いと思います。

さて、前回公演「きつねとどろ」終了後、稽古場建設も再開され、10月26日にはいよいよ建て替えをする予定です。来年の秋公演は「新稽古場公演」が出来る機、急ピッチで建設していくつもりです。

今年は新人も教名人団し、団内は増々活気なかな。活発な活動の集団のようにいきまて励まされ、頑張らねばと思っておりますが、なかなか活発な活動の集団のようにいきません。自分達のだしかな地盤を小さくとも持っている確信を持ちたいものです。

(190) 東京都立川市曙町三二四一七
〇四二五二四一〇八八一

劇団阿波つ子

たぶんもう届いたと存じますが、「演劇会議」誌代、これもあろうに二回分も滞納してしまつて誠に申し訳ありません。仕事をみんな分担してゆこうという方針が夏目に出てしまった結果です。何とか事態を整理して、再出発しますようしく。

今年、団員の結婚のおめでたラッシュで、公演活動の方が停滞気味です。でも、その間をぬって「彦市ばなし」(木下順二)の県内ドサ廻り公演は、市内昭和町、育成会公演、福祉施設「おきぎ学園」公演、阿南市甘公民館とすでに三回を終え、11月8日と16日には徳島市民劇場交流会と、杉の子保育所公演

が予定されております。また、地元新聞社より、12月21日「クリスマス子供大会」、2スチージの公演依頼があったりで、結構ひまはあります。11月23日には、また団員同志の結婚を祝う会もあり、嬉しい悲鳴も……。みんな頑張っておりますので、これから、よろしく。

追伸。申訳ありませんが、次号「演劇会議」の部数10部にして下さい。(ざいとう)

(771-12) 徳島県板野郡藍住町
乾瑞穂団地一八一二 斎藤方
〇八八六一九二一八七三六

名古屋演劇集団

六月公演「釈迦内極限」は劇団内外より好評を頂き、次の公演のレパートリーも好調さを保持できるようなものと決定したのが数年前に映画化され、好評だったアーネスト・キヌテンインクはごくぐススムスに決まりました。演出も、久々に高齢化の若尾正世でありきっています。公演は来年の一月ですが稽古も進み始めました。

劇団演集の創立は昭和三年一月です。創立四〇年をむかえることになり、来年から

再来年にかけて四〇周年記念として、いくつかの事業を予定しています。公演も四〇周年記念公演としてふさわしい作品をと、団内で検討を努めています。

〇次回公演
アーネスト・トンプソン作
若尾正世演出
「黄昏」

・八七年一月二日・五日 6 St
於 名演会館小劇場
名古屋市中区庄内通四一六二三
〇五二一五二四一五九七五

☆ 夏のはじめでは皆様に苦勞様でした。その後のやまなみの活動を、かいつまんでご紹介いたします。

8・28 早川町へお礼に伺う。
8・31 山梨県母親大会に代表参加。
9・13・14 山静プロダクション会議及びゼミ総括と事務局打ち上げ(於・サイラ雨煙)。

10・4 山梨青年平和フェスティバルにて「コント国家機密法」上演。(ゼミ見た、あきやまさゆりの創作)

☆ 今後の予定

11・13・14 山梨演劇協会合同公演・水木亮作「うすにこる あのを渡」
た策たちよ(甲州釜無河原血蜚乱舞を改題)「公演。県民文化小ホール。

11・22・23 「フナナ……」「蒲田……」
合宿稽古(於・御岳文芸座)

12・12 新人公演・つかこうへい作「蒲田行進曲」。県民文化小ホール。
12・13 新人公演打ち上げ兼忘年会。
12・14 稽古場大掃除。
1・1・24・25 劇団総会。

2・22 都留市子供まつり「フナナよ木から下りてこい」公演・ニズナイ

☆ その他二月中に、「フナナ……」の地方公演数カ所交渉中。(河野 司)

(400) 甲府市青沼一丁目五十八 梅津方

〇五五二一三一九五五五六

劇団静芸

◆雨畑セミでの「淡墨色の桜たち」(小島真

木作)の上演から帰って、秋の公演に劇団は

悩めぬいた。座付作者の小島真木の温めてい

た、狐物語——静岡の民話に素材を求めた民

話劇——をどうしてやろうと作者を苦しめ

書きあげてもらった、創作劇「駒ヶ原狐嫁芝

居」は、作者小島真木の最も楽しみが躍動

する世界でもあった。稽古は弾み、役者が楽

しみ、踊りはじめた。民話の中にかくされて

いる民衆の知恵や夢がはちきれんほどつま

た作品は、劇団を明るくした。劇団火の鳥の

人達にも協力していただき、一人の役者が三

役四役の早変わりしててんてんてんの舞台である

のにとまどいながら、一人一人の役者の楽し

みが思い切り出来る作品に心ときめかしてい

る。十月二十三日での公演が楽しみである。理

屈ぬきに観客も共に楽しんでもらえればこん

なにうれしい事はない。◆雨畑セミ、大成功で本当によかった。実行

委員団体の一員として、はつとすると共に、

二百名をこえる東会議の仲間と出会えてまた

がんばると云うか、芝居づくりの楽しさが、

わいて来る。創作「淡墨色の桜たち」をもっ

て参加して、劇団も生々として来た、本当に

よかったと思う。

(420) 静岡市昭陽町二八九一

〇五四二一七三三〇六〇四

だいこん座

。九月二日(土)、鶴岡市中央公民館ホー

ルにて、大橋喜一「あお野麦峠」を上演し

ました。たくさんの方たちを劇団外の人に

協力してもらい、群集劇として若い工女たち

のエナジーは出せたのではないかと思いま

す。なによりも、劇団の雰囲気若返ったの

が収穫です。その分、演技や舞台転換での未

熟さがあらわれましたが、そのことよりも今

回の「活気」を大切にしたいものです。観客

四三名、久しぶりに増勢に転じました。

。来春の公演にむけて作品選定に入ってい

ます。一事物二公演の予定で、一本は、い

とおけいめい作「灰スクリル・レポート」に

決まりましたが、もう一本が未定です。

(997) 鶴岡市本町三丁目一九一 一高橋方

〇三三五二四一六八八

青年劇場

総会・セミ、お疲れ様でした。

「国鉄改革」に名を借り、国民の共有財産

の大収奪を狙う戦後最大の悪政、国鉄の民営、

分刻にすり寄る本部方針に対し、国労大会が

大差で「NO」を示したあの劇的な報道に、

きつと全国いたる所で「ヤッター」の歓声が

あけられたことでしょう。

引き続き困難な闘いではありますが、自民

「圧勝」に勢いついた橋本組は戦後政治総決算

路線に、国民は決してやられっぱなしではな

いし、反撃の条件は低がっているといえるの

ではないでしょうか。私達も七月の支援集会、

十月の国鉄まつり等への協力をしてきました

が、今後とも支援し、要請に応じていく決意

です。

さて、劇団は九月に、教科書編集現場を舞

台にした「書かれなかつた頁」(日本の教育一

九八〇)(ふじたあさや作・千田是也演出)

を上演し、お陰様で成功を収めることができました。

入場者六千余名で、ほぼ連日満員、

この「検定問題」への関心の深さを、改めて

伺い知ることができました。既に関西等上演

の問い合わせもあり、更に練り上げた上での

地方公演を実現させたいものです。

現在劇団は三本の公演班に分かれ、「青春

の巻」「少年とラグダ」「シシとササの伝

説」(夫々学校公演を主とした公演を行なっ

ており、十一月中旬から一週間「結婚という

冒険」(ジエームス三木作・演出)で、東海・

北陸地方の労演、市民劇場公演へと移行しま

す。この間、岐阜の「夜明け」「はぐるま」

の皆さんに協力していただいたり、交流した

りしていますが、近場での公演の折は、是非

お越し下さい。

東京では年末から来年にむけての準備、養

成所中間発表、全金日産連帯の夕べ、引き続

き国労集会等々のとりくみ中です。

年内の東京公演は次の通り。

12月21日22日 「結婚という冒険」再演

(朝日生命ホール)

11月28日30日 養成所中間発表

「十一匹のネコ」ケイ古場

(葛西和雄)

(160) 東京都新宿区新宿二一九一〇

間川ビル 6F

〇三三三三二七〇五四

劇団夜明け

30周年記念公演No.2、十一年振りの稽古場

公演、9日間10スナージを前にして、必死の

毎日が続いています。9日間10スナージは、

劇団にとって全く未知の新しい世界への挑戦

です。10スナージを気をめくことなく集中し、

毎回、毎回、新鮮な気持ちで舞台を創ること

が出来るか、そして観客動員はうまくいくか、

多くの課題を前にして、日一日と劇団内は緊

張感が増しています。

この公演後、11月25日には、青年劇場の

「青春の巻」中津川公演再演があります。両

方のチケットを持ち歩き、両方の成功を何と

しても実現したいと思っています。

第6回稽古場公演(No.21公演)

岡安伸治・作、鈴木弘文・演出

「太平洋ペルトライン」

11月10・11・12・14・15・16・18・19・20

日。(PM7・15 16日はPM1・30)

(508) 中津川市北野丸山

〇五七三三六五九四九三七

劇団2月・コロ

夏の演劇講座には20代が3人参加しました。

茂山先生はおもしろおかしく声帯模写のよう

な語りで狂言を教えて下さった。テキストは

「しりとり」芝居の発声との共通点はあると言

えども先生の声はびくくするほど素晴らしい

かった。まわりの人達は何か吸収しにやっ

きた人達で、キラキラ輝いてすばらしい眼を

していた。そこでは大笑いもくり返されたが、

みんなが一つのものに打ち込んでいる集中力

とひたむきな姿勢で思わず自分も熱くなっ

いた。井の中の蛙にならぬよう、いつも外の

世界の空気を感じて生きていかなければと思っ

た。役者をやるならおのこ。

今、劇団の方は小学校・高校を巡回中。

上演作品。カエルとおでんとささま 作か

たおかしろう 演出村上嘉利。跳んで跳ん

で魔女 作土勝弘之 演出さねとあきら

。さるむでとん 作さねとあきら 演出三

沢和子。きいろいはけつ 原作もりやまみ

やと 構成演出三沢和子。雪女房・おこん

じょうるり 作さねとあきら 演出坪井敦

巴。終りに見た街 原作山田太一 脚本か

たおかしろう 演出坪井敦。

(546) 大阪市東住吉区中野一四一五

〇六二七〇五二八〇五

劇団名古屋

今日は、劇団名古屋です。山静アロッタの

皆さん、雨畑の総会、セミでは大変お世話に

なりました。ありがとうございます。

帰って劇団で雨畑の事を報告し、今回の参

加は3名でしたが、次回ももっと多数参加し

ていきたいと話しあいました。

052-581-747

Autumnal
Conquest
31st

劇団は、研究所の卒業公演「幽霊哀話」をおえて、新しい仲間が名をえしました。その仲間と今、十二月の公演にむけてケイコにとりくんでいます。

来年は三〇周年を迎える我が劇団名古屋です。これを一つのステップにして、一人でも多くの皆さんに、もっと大きな感動を伝えていきたい、そう考えて、これから、いっしょに芝居づくりに取組んでいきます。(矢の弘次)

(456) 名古屋市中区新栄町2-2-19
〇五二一六八二一六〇一四

(附記・肝心なものが書き忘れられてあるので、お紹介ですがお知らせしておきます。十二月公演は、ケンキージ作「カッコーの上で」八演出・久保田明彦、12月5日より、名演小劇場の予定です。矢のさんは締切におくれまいとあわてたのかもしれないね。秋坂より)

劇団はぐるま
夏休み親子の劇場が終了しました。前回の劇団通信で紹介した、竜や屋合くすしも大成功で、今年もまた、たくさんの子供たちに楽しい思い出をつくってあげることができました。

現在11月1日に、京都で公演する、いぶ

さて、十一月十九日は、榎谷伸夫作、佐々木洋二演出「美濃屋の因りわが命、露のこときし」の公演です。演出の大胆なテキストに対して作者の悲鳴。大幅なカットと書き直し。演出を中心に、がちりまとまってい

る感のある稽古。栗谷川洋一さんから、今回もまた素敵な装置図も届きました。

かつらや衣裳など、江戸時代へのタイムスリッパに若手の問題を残しながらも、愛に立に女の男に対する強烈な愛を、男の俳句に立ち向かう真摯な姿を表現すべく、毎晩、稽古に励んでいます。がんばります。(風張)

〇31 八戸市紋町無島町14 榎谷方
〇一七八一三三一九三

劇団展望
▲「展望の雑誌『足手』」号ができました。大橋喜一さんの「ショート・ショート」集(大橋喜一の芽と種がいてはいし)／展望集、因創作戯曲「鳥のこえ」／樋口千鶴子・渡辺谷子「ア・カバジャガソ体験記」／今野陽子さんに聞く「ピースホートでジェ・トナム旅行」／他に八重山民話「豚の婿さん」、「西表炭坑の生残り・大井兼雄さんのこと」など。1号に比べ倍増二四〇頁。ご希望の方にはすみませんがカンパとして六〇〇円。1. スタッフとして劇団全員で協力。石垣島から

きこの合同公演「安寿と野土主」の稽古に入っています。安寿役が変わり、それにつれて厨子王の声も変わりましたが、前回以上の舞台にしように、今、熱の入った稽古が続いています。

これが終われば、休む間もなく、11びきのネコが待っています。親子の劇場のあと、新メンバーに変ったこともあり、一ヶ月程タシスの練習をしましたが、「安寿」の稽古と平行して、ダンスも続けています。本格的な稽古に入るのは十一月になつてからですが、すでに十二月三日の追加公演も決まり、新しい11びきのネコ、にもぜひ、御期待下さい。

(内田 薫)
〇五八二一六五一一八五二

330 大宮市染谷一七一一四
〇四八六八四一三〇八二

劇団やませ
夏が過ぎて、すぐ冬になりました。今年の灯油代・暖房用電気代がどれくらいになるか戦々兢兢といつたところです。

十月二十六日は榎谷の母校中学校の文化祭に招かれ、「海村」を公演しました。何百人が入った体育館、殆どが中学生。榎谷のそれらに対する意識調査が若干見られましたが、力強い？老かじき役でした。

2号いっしょですとエイとアケ一〇〇〇円。 (送料は別に実費で二五〇円です)

▲芝居もヤリマス。第27回東京働くものの演劇参加で、集団創作・大沢郁夫演出「猫足の墓」戸籍を死んで」を11月29・30、12月5・8日。展望阿佐谷小劇場で上演します。

満州から引揚げ途中、親兄弟とはぐれ韓国で育ったひとりの女性が戦後三〇年たつて帰国、東京の焼肉屋に住み込んで働いていたがある日、自分の戸籍が「死にニヨリ」抹消されていくことを知る、というところからはじまる展望流アンチ・ドラマ。(つまりドラマが舞台上のみで完結しないように劇的進行を力をおてにする……と同居がおろせばいいがおろさなかつたら虫がいだけでなく自殺行為になるという危険な方法で、今度は仮面も使い、報告劇のスタイルをとります。)この三年間、もみにもんでしわくちやになつたカ「足手」に載せます。演劇集団土の会から佐藤正博、小早川淳子さんのお二人が出演。

▲「八重山の島唄を聴く会」(東京ジラバガ会主催・於武蔵野芸術劇場・9月28日)にスタッフとして劇団全員で協力。石垣島から

いという、埼玉会館の企画に依るもので、埼玉がこれを引き受けたわけだ。

「県民劇場81」ということで、十二月七日(日)PM2時、一回公演です。場所は埼玉会館大ホール(浦和)。埼玉にとつては丁度五十回目の公演となります。

現在、仕事や家庭の事情で全員結果することが非常に困難になっていますが、そんな中でも二三人、新しい仲間がふえました。

私たちは今度の公演を、今までより多勢の県民の人達に、埼玉というのを知ってもらい、舞台を楽しんでもらえる場に、そして今後新しい観客層を拡げていくための一つの機会にしたいと思っています。

(500) 岐阜市西野町一丁目
〇五八二一六五一一八五二

330 大宮市染谷一七一一四
〇四八六八四一三〇八二

劇団やませ
夏が過ぎて、すぐ冬になりました。今年の灯油代・暖房用電気代がどれくらいになるか戦々兢兢といつたところです。

十月二十六日は榎谷の母校中学校の文化祭に招かれ、「海村」を公演しました。何百人が入った体育館、殆どが中学生。榎谷のそれらに対する意識調査が若干見られましたが、力強い？老かじき役でした。

前盛正吉さんを招いて古い島唄や大正・昭和の八重山調流行歌など、とても面白かった。

▲関東大震災時に、千葉・陸軍習志野收容所に強制収容された約三二〇〇人の朝鮮人の行方を、元自衛団員の証言を手掛りに追う16ミリカラー映画「払い下げられた朝鮮人」(製作・監督呉光功。題名は村々に「払い下げて殺された」という意)に、朗読者として小島政男が協力。フィルムレンタル連絡先は荒川区西日暮里六四一六シネマショー〇〇三・電話〇三二八〇一八九五 オー・チョンゴンさんへ。このシリーズ第一作「隠された爪跡」と併映の企画をおすすめします。

一歩一歩手前におさえ、観客の想像力や創造力をあてにする……と同居がおろせばいいおろさなかつたら虫がいだけでなく自殺行為になるという危険な方法で、今度は仮面も使い、報告劇のスタイルをとります。)この三年間、もみにもんでしわくちやになつたカ「足手」に載せます。演劇集団土の会から佐藤正博、小早川淳子さんのお二人が出演。

▲「八重山の島唄を聴く会」(東京ジラバガ会主催・於武蔵野芸術劇場・9月28日)にスタッフとして劇団全員で協力。石垣島から

隊）広島公演を行いました。これは、昨秋、鳥巢県内で4回上演したのですが、更に、龍古を重ね、広島後援会の協力をうけたものです。広島市青少年センターホールは、立見もでて八三〇名の大入り満員。子供たちは大喜びで、舞台と客席とがひとつになって、燃えた舞台でした。しかし、同じ作品を上演された月曜会の土屋清氏からは、演出の違いから、手厳しい劇評をいただいたき、学ぶところ大の広島公演でした。

帰松してから、大道具を全部処分したあとに、あちこちから、再演、再来の依頼がきたのは、本当に残念なことでした。これも大きな倉庫さえあれば……と思つたことでした。

夏、夏盛りの8月16日は、市内のむらうも会館において、劇団あしがえ創立20周年パーティを開きました。70数名の集いとなり、東京、大阪、奈良、京都、広島、博多と、お世話になった方々が集まつて下さり、楽しいひとときを過しました。二次会は、改装中の稽古場、2客内し、50数名の方々と、劇団員の作つた、そうめん、冷やっこ、盛り合せなどで、深夜まで語り合いました。

さて、改装中の稽古場ですが、11月中旬、「劇団あしがえ50人劇場」に生まれ変わります。

制因同是

人もいたかも知れませんが、それらの人々が集まってくれました。炭礦マン、国鉄マン、市職員、保母、主婦、福祉事業団職員、会社員等、十名足らずの劇団が、出演者二十六名、スタッフを含めると三十名もの芝居創りに取り組みてこになったのです。この力強さという、今、このカナシーをこれからの活動にどうつなげるか、具体策が浮かばないまま後始末に追われています。

線香花火にならないよう集められた力を、ふる里再建に役立たせなければと思っ

ています。

来年は、湖、の二十五周年、こんな状況の中で記念公演が出来るのかどうかもわかりません。でも頑張るしかありませんね。では又。

(068) 21 三笠市幌内住吉町九 加藤方

〇一二六七一一三〇四四

（客席6坪、舞台6坪の小さな劇場ですが、外から一步、中に入れば、感動的な劇空間とならうよ、改装中です。

柿落しは、来春2月21日・22日。創作劇「落ちこぼれの神様」です。大雪が降らないことを祈りつつ、稽古に励んでいます。

山陰の冬の味覚は格別。温泉もまた結構。どうぞ、遊びがてら、芝居見物にお出掛け下さい。

感動、のおみやげを用意して、お待ちしております。

（園山士肇）

（690）松江市砂子町二〇九ノ三

〇八五二一二七三〇五〇

お急ぎの場合は左記をお願いします。

（755）山口県宇部市上宇部中尾三〇四ノ一

園山士肇方

〇八三六・三一一・二〇一五

演劇集団土くれ

いつも通信を載せていただきありがとうございます。

一日遅くなりましたがよろしくお願ひします。

①第33回公演「奇跡の人」

11月28日（6・30）29日（2・30）

勤労福祉会館ホール（八丁堀）

女性陣が奮闘しています。後一ヶ月を切りました。11月8日には青年劇場の小竹さんを

(07-13 旭川市末広四条八丁目 富澤方
○一六六・五七・三八六)
劇団四日市(再伸・住所は省きます)
やつと二十五周年をという思いで、10月25
日、26日に四日市文化会館で、2ステージの
公演をもち、延べ九六〇人の観客を前に、
「リットルの涙」を成功させました。
劇評その他は、丸子礼二氏の筆になると思
いますので割愛して、この二十五周年記念公
演が、劇団活動の多様な変化へのステップに
なつたと思つています。
仲間は十月三十日現在十五名。モリケンひ
とり芝居「怒髪天」、そして「リットルの
涙」の移動公演は区分づくものと思ひます。
来年は、六月、十月に、それぞれ創作劇での
本公演を実施。二十五周年を期して、でき得
る限り、本公演は創作劇と考えていますが、
さて。(緑けんろう)
劇団あしふえ
今年六月に、仲間入りさせていただきました。今年
だ。この欄に書くのも初めてですので、今年
一年間の活動を報告いたします。
まず、年明けから準備していたプロデュウ
ズ公演を3月3日に行ないました。20年来の
お付き合いのある人形劇団アークの「エルマ

古墳へ迎え様占をつけてもらいます。
 ◎10月25、26日の倉橋樗古（水元青年の家）
 へ岐阜はぐるまの小林さんを招いて、現在の文化状況、現状をどう見るかなどについて、2時間にわたって講演をいただきました。新しく加入した新人四人を含め、小林さんの迫力ある話を、夜遅くまで、アルコール入りのお茶などをくみ交し、楽しく聞かせていただきました。

◎第24回東京劇人者の演劇祭がすでに始まっております。全り演の仲間のみなさんの御観劇をおねがいします。

(120) 東京都足立区五一一二七
 東和フアインスペース 石塚方
 ○三一六一九一三三八六

演劇サークル麦の会
 全り演の皆様、連日奮闘、御苦勞様です。私達も10月15、16日に、飯沢匡作「階の42号室」を上演しました。六年前に上演したものを再演したのですが、やはり脚本がしりしりの喜劇でしたが、多少時期的にズレているのかどの心配もふっとび、客席は笑いのウズで楽しく見て頂きホッとしました。お陰様で好評を頂きました。勿論、キャストも六年前とガラッと変えてやってみました。こう

いて上演したのです。

このプロデュース公演の目的は、「よい人形劇を子供たちに、ということの他に、①劇団員全員が、制作の仕事を体験する。②従来固定客以外の観客にも、アッピールする。③プロ劇団の仕込み・パシンのうまさを学ぶ。」

④人形についての理解を深める、などが、あげられます。

山陰の二月の寒さはひとしおです。いつも自主公演ならは、ノルマ枚数を確保したあとは役づくりに専念している劇団員でも、ただひたすらチケット売りに奔走。飛び込み。夕方、職場を飛び出すと、あちこち売り歩き、夜り時に稽古場に集合。売れた枚数を集計して励まし合ったり、あたたかい「おでん」をつついたり。また、ビエロ姿で街中をねり歩くなど、初体験がもたらした教訓は沢山でした。

結局、観客動員、1,000名。作品が幼児向けの人形劇ですから、今までのあしぶえの観客は少なく、新たに六〇〇名、お母さん方、子供たちの観客が増えました。これは、今後子供向け作品を創るよい経験となりました。

次に、4月28日には、「アレキサンダーの音楽

10



前年、劇団創立にあたって、とにかく劇団員の意志統一をつくることが最大の課題であると考えられていた。その結果、その一年間の公演によって、新しい創造体系をたてられ見通しが持てたのである。創造方向の線として、一つはリアリズム路線の追求であり、ヨーロッパ演劇の内的リアリズム系列の線として、古典（オストロフスキ）近代（ハイムランズ）そして現代（ゴールキイ）へと順番は入り組んでいるが、この一年の一つの方向として認められるだろう。もう一つは今の路線の上で、表現上の異なる近現代世相を基盤として、新しい軽妙な喜劇表現のジャンルとして、ムラシムル・ジヤから出てきた「新喜劇派」の出現も、時代の新しい方向に

大岡欽治

たろうとして、先づ選ばれたのは「女中良井に潤色してローカルカラーを出して他の作

【文】であつた。また創造上の問題として「エール」と「天祐丸」の演出に豊岡が當ることになつたのは、劇団代表として参加して貰つたことに対する儀礼的なものも考慮して、演出助手以下スタッフは三劇団から選んで協力体制を作りあげることにした。そして第三回公演から、新喜劇の作品の導入と共に、その演出を、従前から喜劇的方向を志向してきた豊岡に、リアリズム路線の演出に大岡を起用した。そのあとに、朝日会館の企画として、東京の新協・新築地、地元から大協という三劇団の協同公演が、新協のバツクアツアによって実現することになつて、関西新劇界に珍らしい試みが成立した。三劇団同時上演という条件から上演作品の厚みはなかったが、このように、大協は結成第一年に、四回もの四回目に、注目されるものになつた。作者久板栄二郎がプロット時代の最後の戯曲「烟る安治川」以後、労働者を描くテーマから離れて、視野を広めて資本家階級を描く作品、「断屠」を書いた。その創作過程で岸田国士に見せて意見を求めたエピソードもあつた、新協としても意欲的な作品だが、大岡は昭和初期に久板が大阪に文化オクルグとして来た時分から演劇関係があつたので、新協もこの作品の大阪での上演を意図があつたのを断念して上演権を大協に譲つてくれた。これに應えて、本格的創作劇第一陣でもあり、緊張した舞台を創ることが出来た。

たが、直ちに別に追悼公演を行うことを決定。

協同劇団では、その直後の大阪・京都があつた。

三郎、永田衛吉の追悼記事を特集してある。佐一郎氏追悼特集」に坪内士行、升屋理「新演劇」は昭和二年七月号に「豊岡書」功名」がある。また東京の演劇雑誌著者に、戯曲集「郊外生活者の朝」追悼大阪協同劇団という経過を歩んできた。協会」一七五座、新響劇場、新人劇場―其他、演劇団体「戯曲研究会」―「芸術なり演出にも参加してきた。

る大阪協同劇団結成に際して劇団代表と行い、昭和十一年の大阪新劇団合同による頃には新響劇団、新人劇場などの演出も演劇論文、戯曲作家であつた。昭和十年出に当り、関西大学英文科教授、翻訳、大阪の新劇運動に参加、七月座などの演四十一才。早稲田大学卒。大正年代から昭和十二年五月二十五日病氣のため死去（註・豊岡佐一郎（一八九六一一九三七）

シタが起つた。

代表者豊岡佐一郎が病死するというハッパニ

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

シタが起つた。

十二月二十五・二十六日の年末に、堀江演

の結果は、次の如く決着した。

その決着をすくに見出すことが出来ないま、劇団としては、とにかく年内にもう一回の公演を持つという方針だけが選ばれた。そ

う状況を生んで発展の方向はとられてきた。劇団創立一年半という期間は浅いが、再び創ればならなくなつた。その問題をめぐつて、を如何に立直すのか重大問題が処理されな

豊岡死去の後遺症は大きかつた。劇団活動

劇団創立一年半という期間は浅いが、再び創

ればならなくなつた。その問題をめぐつて、

を如何に立直すのか重大問題が処理されな

豊岡死去の後遺症は大きかつた。劇団活動

劇団創立一年半という期間は浅いが、再び創

ればならなくなつた。その問題をめぐつて、

を如何に立直すのか重大問題が処理されな

豊岡死去の後遺症は大きかつた。劇団活動

劇団創立一年半という期間は浅いが、再び創

ればならなくなつた。その問題をめぐつて、

を如何に立直すのか重大問題が処理されな

豊岡死去の後遺症は大きかつた。劇団活動

劇団創立一年半という期間は浅いが、再び創

ればならなくなつた。その問題をめぐつて、

を如何に立直すのか重大問題が処理されな

豊岡死去の後遺症は大きかつた。劇団活動

劇団創立一年半という期間は浅いが、再び創

ればならなくなつた。その問題をめぐつて、

大阪協同劇団（三年後）

一九三七（昭和三年）

り、十三年の二周年を迎えることになった。こうして、昭和十二年度、劇団一周年を終

なつた。この配分によつて、今後の方向がきまることが大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

大岡新響劇場、大瀬新入劇場、岩田とい

この年になると、いよいよ中国侵略戦争が決定的突入の時となった。一月に支那事変処理根本方針が決定された。四月には国家総動員法が公布され、四月国家総動員法公布、五月徐州占領、近衛内閣改組、七月張鼓峰事件おこる。九月英仏独伊シムヘン会議、十月広東、武漢占領、十一月重慶新秩序建設声明。それに呼應して、二月大内兵衛有沢広己ら機挙(第二次人民戦線事件)唯物論研究会解散、十一月戸坂視ら唯物論研究会関係者機挙と弾圧は強化された。

文化面の動向をみると、二月石川達三小説「生きていく兵隊」掲載の「中央公論」発禁。七月岩波文庫社会科学関係書目二十八点自筆の休刊を強要する。九月内閣情報部従軍作家を中国戦地へ出発させる。十月「岩波新書」刊行開始。秋には新聞統合、府県警察部指導下に開始さる。

四月一日支那事変特別税として入場税一律一割と規定された。

この年、歌謡曲として「愛国行進曲」「雨のアルミス」「支那の夜」流行、映画では「五人の斥候兵」日活・田坂隆監督。「路傍の石」日活・田坂監督。「綴方教室」山本嘉次郎監督。「愛染かつら」松竹・野村浩持

座が解体したのはこの前年であったが、そのあと、文学座という築地小劇場の芸術的傳統を継承するという意図で、友田夫妻は、久保田万太郎、岩田豊雄、岸田國士を幹事を中心田万太郎、岩田豊雄、岸田國士を中心指導者グループとして発足する劇団文学座を一九三七年に結成することになったが、同年の友田の赤紙召集のため、一時延期となつたが、日中戦争の上海のクリーク戦でその友田が戦死した。そのため田村教子の引退もあつて、文学座の創立は延期されていた。二八年になつて、三津田健、宮口精一、中村伸郎、杉村春子と俳優陣をかためて、この年三月末に文学座第一回試演が行われた。そのあと戦前・戦中・戦後から今日まで劇団はしばしば危機にまひながらも継続発展して今日に至つてい

この試演の終つたあと、三月三十日、友田恭助・工兵軍曹伴田五郎の本舞が蒲田の自宅で営まれた。上海クリークにおいて友田恭助戦死のシーンは映画ニャースに写され、上映され、新劇界は勿論一般にも社会的ニャースとしても注目された。

東京の新劇団は、この年、次の如く大阪公演で持った。前年の新協劇団の「夜明け前」の

監督の邦画。「モダン・タイムズ」「舞踏会の手帖」の洋画など上映さる。

○九月二十七日 山中貞雄映画監督戦病死(三〇才)も記録しておかなくてはならない。

東京の新劇界の動きをみると、文学座がやつと結成、初試演会で登場したり、商業演劇に新劇の影響が表面化してきたという特徴が挙げられる。

三月 豊田正子原作「綴方教室」の脚色上演新築地劇団初演。森本薫作「みことな女」文学座創立 初試演に上演。

六月 久保栄作・演出「火山灰地」一部二部連続 新協劇団上演。エノケン一座日劇に出演。

九月 花柳章太郎 柳永二郎 大矢次郎 伊志井寛ら、新生新派結成公演に 川口一郎作「鳥」上演。

十一月 新協劇団公演として、文学座Ⅱ「秋水鏡」Ⅰ「釣堀にて」新築地劇団Ⅱ「ハムレット」新協劇団Ⅲ「千万人と雖も我行かん」を、有楽座において競演。

やつと新劇復興の軌道が展開し出した感覚があり、新劇の前途が明るくなってきたといえるだろう。

ヒットに続いて、新築地劇団は京都南座に、キノドラ公演(舞台とテレビの連続劇)のあと道頓堀中座の十日間興行という異例の活動振りが目についた。

○新協劇団 (十月)。

Ⅰ作 中村雅男訳 村山知義脚案・演出「デッド・エンド」シブニイ・キングスⅡ「土」長塚節原作 伊藤貞助脚色 岡倉士朗演出 (一月)。

「江戸城明渡し」藤森成吉作 青山杉作・山川幸世演出。

キノドラ「嘘手紙」ゲオルク・カイザー原作 衣笠貞之助・千田是也脚色・演出 (三月) 京都南座。

「綴方教室」豊田正子原作 古川良範脚色 岡倉士朗演出 (六月)。

「女人哀詞」山本有三作 山川幸世演出「子もり良寛」高倉テラル作 千田是也演出 (七月一日六日) 道頓堀中座。

「綴方教室」同上。

「微」(かび)真綾豊作 久保田万太郎演

だが、この年で、新劇界の内から、二つの社会的事件が起つて驚きの旋風があつた。一つは、新年早々一月三日に、新協劇団演出者杉本良吉が、女優岡田嘉子と共に樺太国境をこえてソ連にはいったという報道である。前年十一月だっと思つた。杉本は井上正夫一座の演出者として来阪、大阪の新劇その他と会つた。勿論それから一ヶ月後に杉本が起す行動については、全く予知する何物もなかったのだが、それが彼と最後の会見であつた。後、戦後になつて、彼の行動はコミンテルンの連絡という政治的使命をもっていたというのだが、杉本、岡田はソ連に不当逮捕され、杉本は一九三九年(昭和十五)十月二十三日に獄死したと発表されている。岡田はソ連に帰化、演劇大学に入學、演出者として勉強し、ソ連において木下順一の「夕鶴」、森本薫の「女の一生」などの演出に関係したり、やがて戦後二回も日本に来て、舞台や映画にも出演したが、今年ソ連に帰国したことは知らされてい

もう一つの事件というのは、築地小劇場の俳優として特別の風格のあつた友田恭助・田村秋子夫妻を中心とする芸術派的劇団、築地

出 (七月七日一十日) 道頓堀中座。

「武蔵野」梅本重信作 岡倉士朗演出 (十一月)。

○芸術小劇場

「紋章」横光利一原作 松田伊之助脚色 (註1) 芸術小劇場は、築地小劇場の文芸部員だった北村喜八と妻村瀬幸子の二人を中心に結成。昭和十一年十二月築地小劇場で発足。北村は「新劇の本来の使命」というものは、あくまで研究的、あくまで美観的な態度で、新しい演劇を模索し、創造してゆくところにあつた。大部分を旧築地小劇場関係の演劇人を集めているが、この大阪公演から戦時中も解散もされず順次継続してきたのは文学座と同等である。この大阪公演から戦時中も解きたからであらう。戦後村瀬幸子によって「芸術小劇場」という活動の全記録が発表されてお

り、北村は死去したが、村瀬幸子は現役として俳優界に参加している。

(註2) この頃の各劇団の上演会場は特記し

ります。多田俊平君の「氷解期前」、香村菊雄君の「五代友厚」、木村武君の「世紀の路」等何れも御期待に値する大作であります。という部分を含んだ劇団の挨拶文があった。

「白衣の人々」の公演を終えて、私は演出部長として、次の秋の公演の準備を進めることになった。先づレパートリーの選定である。ところが、前記の如く劇団発表の劇団員三名の文芸部員の創作劇は、まだ未完成であった。秋の公演にはとても間に合うまいとのことなので、検討の結果、再び翻訳劇を含めて頭の中に浮んだのはソ連のメイエルホルドの舞台写真によって、シラフの「たくみと恋」が印象づけられていたので、レバ委に提出し創作劇がないのは残念だが、やむを得ないがとりあげることになり、次いでスツップの選衡に入った。しかし、これも現在の劇団では適当な人はいないので、元構成劇場の演出者で、一時プロットに参加もしていたが、プロット解体以後は、児童芸術の研究と児童演劇の劇団において演出している渡辺三郎を交渉することになった。処が新劇と離れてい

「一九三八年の公演は、四、五、一〇月の三回、「白衣の人々」「功名」「たくみと恋」を上演。ラジオは一月、六月、十月、十一月の四回、「熊」「故郷」「村の女」「黄昏の戦線」を放送。その他、四月、五月、六月の三回にわたり、新協劇団（東京）童劇、新築地劇団の大阪公演に援助出演した。また、劇団の職業化を進めるため、当面東宝と提携し「沼津兵学校」撮影に出演した。九月十三日には事務長大岡欽治検査され、これをきかけに従来からの反大岡派である大瀬一派が実権をにぎって対立中であるという。（「社会と状況 昭和13年」）

この年の活動家、幹事多田俊平、大瀬龍夫、海老江寛、岩田直一、香村菊雄らであった。

これは「協同劇団の公演活動」の項の内の一九三八年の公演活動を纏めたものである。大体に於て、彼等の目がどう動いているかわかるだろう。

このような状況下に、この年の大物の公演は一回に止まってしまうた。

へつつく

ところで、この秋の公演の準備を進めて八日のスケジュールを決定した。私はやうと自分の責任を果たしと安心することが出来たと思つた。

ところが突然、九月十三日早朝、私と妻（杉本英子）の二人は大阪の自宅で、もう一人はプロット時代から一緒に、戦旗座、自由舞台、そして協同劇団まで一緒に活動してきた星野一郎（本名北野三郎）は吹田の自宅で、大阪府警察の特高によって検挙された。

この事件は、前年十一月、春日庄次郎、竹中恒三郎、安賀君子らによって昭和十年、日本共産党中央委員会が破壊されて以後、日本帝国主義の満州・中国侵略戦争の発展を阻止するために作られた組織で、十三年四月大衆向け新聞「民衆の声」創刊、五月同機関紙「風をついて」創刊、反戦活動を展開してきたが、この時点で一勢検挙されたのだった。（別の記録によれば、十三日以降春日以下一五八名検挙されたとある。）

どううとは思つたが、どうやら稽古も進行し阪地方裁判所の未決押置場置で世間から隔離された生活が始まった。

従つてこの時以後の社会の動向、劇団の情勢までほとんどと見聞することは出来なくなつてしまった。治安維持法という悪法の下に、特高、検事、判事と次々に調書を作成され、共産主義者として公判にかけられ、執行猶予として出所した時、昭和十五年八月二十五日は、東京の新劇団、新協劇団、新築地劇団が強制解散を発表された三日後、大阪の大阪協同劇団、分裂した劇団制作派、劇団ボアゲキ、大阪人形座が解散させられる五日前だった。

従つて、これから劇団解散まで書く私は、不十分な材料と、僅かに聴取した調書によって、この運動史を綴っていくことを諒承して頂きたい。

ここに一つ、この年の大阪協同劇団の状況を、特高警察がどう観察していたかの記録を見たので、コピーしてみる。（但し、これは原本ではなく、コピーされたものの写しである。内容の内に不明な点もある。）

△豆評△「タミナル」（京浜）

題名の「タミナル」（作・木村快）は

人生の終点という意味のようである。

作者の目に映つた、この街のイメージは

一九五〇年頃の、富士見公園の空地に集つた日雇労働者の群を見てのようである。

だから、舞台は川崎の地で、似てはい

が、あくまでも作者のイメージにすぎない。

リアルに川崎に住むぼくには違つて見える。

このことは多少の差はあつても、黒沢の

作品にも、そして山内久の「わが街・わが

愛」にもあつた。だから今更野暮なことは

言わない。言わないが、このメルヘン的な

イメージを、いかにもどこか本当らしく、

労働者の街の観客に根づかせる作業、これ

までの京浜のリアリズム演劇の糸譜の中で

チヤンと裏打ちしてみせる作業は、それ程

簡単なことではなかつた事を教えてくれた。

舞台となつた、酒も出せばコーヒも出

し、弁当も食えるというナンセンス食堂に出

入りする人物たちは、そのまま物語を背負つ

ている。青森に年老いた母を残して来てい

る青年（渡辺冬雪）、元エリート社員だつ

たらしいが、失敗が失敗かしてひょこり

私は、その出版物に原稿の材料を与えていたという理由で検挙されたのである。

その日から私は二年間警察署拘置場から大

阪地方裁判所の未決押置場で世間から隔

離された生活が始まった。

従つてこの時以後の社会の動向、劇団の情

勢までほとんどと見聞することは出来なくな

つてしまった。治安維持法という悪法の下に、

特高、検事、判事と次々に調書を作成され、

共産主義者として公判にかけられ、執行猶予

として出所した時、昭和十五年八月二十五日は、

東京の新劇団、新協劇団、新築地劇団が強制

解散を発表された三日後、大阪の大阪協同劇

団、分裂した劇団制作派、劇団ボアゲキ、大

阪人形座が解散させられる五日前だった。

従つて、これから劇団解散まで書く私は、

不十分な材料と、僅かに聴取した調書によつ

て、この運動史を綴っていくことを諒承して

頂きたい。

ここに一つ、この年の大阪協同劇団の状況

を、特高警察がどう観察していたかの記録を

見たので、コピーしてみる。（但し、これは

原本ではなく、コピーされたものの写しであ

る。内容の内に不明な点もある。）

現れた男（堤次郎）、彼を迎えて親切に世話をする濃厚で含意深い老自由労働者（細田春郎）、父探しに神戸あたりから現れた娘（小嶋宏子）、かの女が金に困って呼びよせた母親（室野定子）、この母親の夫、父が、この店に出入りの出しし弁当屋（水野哲夫）だったり、トラウマ一台持つて倒産した男（山口あきお）、あたいのトウちゃんいなくなつたよ、とよるめいてはあらわれる飲屋の女（瀬谷やほ子）、それに毒づく娘（和田晴子）、よくわからないが水割りをやたらに飲む女（根倉藤子）、靴をすりへらしている中老の刑事（原科清）という風に、話は万遍なくある。この、次々とある面白そうな話を、ピアノの演奏でつなぎ（ピアノ・鈴木たか子）、序幕、終幕で、全員「この街」のコーラス（作曲・岡田京子）で歌い上げる仕事は、京浜にとつては、実は最も新しいジャンルの苦のものであつた。演出（藤井康雄）がそれに考

えが及んでいて、努力しただけでも果せな

かつたか、どうか、その辺のところはよく

解らない。役柄では食堂のママ（細田とき

子）と老労働者（細田寿郎）がよかつた。

DDR (ドイツ民主共和国) 見聞録

境 野 エリ子

(演劇集団石るつ)

サンの旨さで、ラインの安さを堪能し、袋に、残パンを詰めて、ベルリンに向かう列車の人となりまりました。窓外のおまじにもどかな田園風景を眺嘆してはみるものの、おきえていないと閉じてしまう窓のついたコンパクトメントで、その熱気にシャンの胸もとあたりかきむしり、半袖を入れたかかったのを悔みつ、ソルボンヌ大学の法科らしい、煙嫌いのナーベスな学生と、禁煙の旅を余儀無くされたのです。

悶々たる一夜も、早い夜明けの涼風を受けているうち、なごみ、西ベルリン200(ツォー)駅に到着、ここから、フリードリヒ・シュトラウゼ(七ヶ所の検問の一つ)へ。東ベルリンに入るため、腰痛の山辺氏それに縦には小じんまりした久藤氏、これまた輪を掛けた、ちびの女二人が、馬鹿でかい荷物に振りまわされ、簡易トイレ風の検問所を、パスポート片手にヨロヨロ出た途端、なつかしいジョチータ氏(昨年来日)の顔をみつけ、一行、ホッと、安堵の溜息をついたものです。招待なので、聞いていた、物々しさもなく東側に入れたのです。

東ベルリン市内は、整然と区画整理され、ウンターデリンデン(菩提樹の並木道)の

山部孝秀氏を団長として、東勸演訪独代表団四人が成田を発ったのは、六月も半ば、丁度そろそろ梅雨に入ろうかという十三日(金)正午のアエロフロート機、モスクワ経由、パリ行きで、代表団としては、極めて黒色のトリオと見たのか、山部さんに迷惑をかけるなよーという視線ばかりが、いやに感ぜられた。東勸演の仲間達の、暖くも、煩さき三五三便に搭乗。あこがれの花のバリエ、涙でかすみながらスチームアップしてきたのは、日本を発って延々十八時間後でした。

インド人と覚しきおはさんの、オンボロタクシーで、街へ入った途端、広い通りにシヤンセリゼ、凱旋門、コンコルド広場を見て、

又しても歓声を挙げる我々に、すっかり気を良くしたのか、市内観光とあいなり、倍も高い料金で、ホテルモンタギーに暮き、一泊のバリエ物が初まったのです。市内をメトロで縦横無尽、ルーヴル、印象派、オランジェリー美術館で喉もとまで芸術に埋もれ、クロワッ

ア美人スチャウリエスのロシア語も心地良く身動きもままならぬアエロの機内に、ロシアノビエト大陸の雄大さに、茫然自失の有様。の山並、佐渡ヶ島、あーという間に海を越え、橋の体。離陸するや否や眼下に開けた谷川岳です。ので、恐さ、うれしき相俟って極度の興奮せ、飛行機など生まれて初めてという私縁が切って落とされたのです。

男一人、女一人(今回初めて)の珍道中の

講)久藤(土くれ)匹田、境野(石るつ)、い、維多な送辞を背中に、山部(国民文化会

じられた、東勸演の仲間達の、暖くも、煩さ

けるなよーという視線ばかりが、いやに感

黒色のトリオと見たのか、山部さんに迷惑を

り行きで、代表団としては、極めて

正午のアエロフロート機、モスクワ経由、パ

度そろそろ梅雨に入ろうかという十三日(金)

団四人が成田を発ったのは、六月も半ば、丁

山部孝秀氏を団長として、東勸演訪独代表

DDR (ドイツ民主共和国) 見聞録

境 野 エリ子

(演劇集団石るつ)

サンの旨さで、ラインの安さを堪能し、袋に、

残パンを詰めて、ベルリンに向かう列車の人

となりまりました。窓外のおまじにもどかな田

園風景を眺嘆してはみるものの、おきえてい

ないかと閉じてしまう窓のついたコンパクト

メントで、その熱気にシャンの胸もとあたり

かきむしり、半袖を入れたかかったのを悔み

つ、ソルボンヌ大学の法科らしい、煙嫌いの

ナーベスな学生と、禁煙の旅を余儀無くされ

たのです。

悶々たる一夜も、早い夜明けの涼風を受け

ているうち、なごみ、西ベルリン200(ツ

ォー)駅に到着、ここから、フリードリヒ・

シュトラウゼ(七ヶ所の検問の一つ)へ。東

ベルリンに入るため、腰痛の山辺氏それに

縦には小じんまりした久藤氏、これまた輪を

掛けた、ちびの女二人が、馬鹿でかい荷物に

振りまわされ、簡易トイレ風の検問所を、パ

スポート片手にヨロヨロ出た途端、なつかし

いジョチータ氏(昨年来日)の顔をみつけ、一

行、ホッと、安堵の溜息をついたものです。

招待なので、聞いていた、物々しさもなく東

側に入れたのです。

東ベルリン市内は、整然と区画整理され、

ウンターデリンデン(菩提樹の並木道)の

美術館で喉もとまで芸術に埋もれ、クロワッ

縦横無尽、ルーヴル、印象派、オランジェリー

バリエ物が初まったのです。市内をメトロで

い料金で、ホテルモンタギーに暮き、一泊の

良くしたのか、市内観光とあいなり、倍も高

又しても歓声を挙げる我々に、すっかり気を

ンセリゼ、凱旋門、コンコルド広場を見て、

タクシーで、街へ入った途端、広い通りにシヤ

インド人と覚しきおはさんの、オンボロタ

クシーで、延々十八時間後でした。

日本を発って延々十八時間後でした。

涙でかすみながらスチームアップしてきたのは、

き三五三便に搭乗。あこがれの花のバリエ、

着。時差でもうろうとした頭を抱え、パリ行

うやく、モスクワ・トランジエツト空港へ到

大地に流れる川を飽きもせず見ていると、よ

蛇行しながら行く先を知らない、ロシアの

く食べ、すべてに只、感激していた訳です。

にスバシバの声を掠れ、それでも黙々と良

耳に響き、これでもかと許り出される機内食

境 野 エリ子

(演劇集団石るつ)

サンの旨さで、ラインの安さを堪能し、袋に、

残パンを詰めて、ベルリンに向かう列車の人

となりまりました。窓外のおまじにもどかな田

園風景を眺嘆してはみるものの、おきえてい

ないかと閉じてしまう窓のついたコンパクト

メントで、その熱気にシャンの胸もとあたり

かきむしり、半袖を入れたかかったのを悔み

つ、ソルボンヌ大学の法科らしい、煙嫌いの

ナーベスな学生と、禁煙の旅を余儀無くされ

たのです。

悶々たる一夜も、早い夜明けの涼風を受け

ているうち、なごみ、西ベルリン200(ツ

ォー)駅に到着、ここから、フリードリヒ・

シュトラウゼ(七ヶ所の検問の一つ)へ。東

ベルリンに入るため、腰痛の山辺氏それに

縦には小じんまりした久藤氏、これまた輪を

掛けた、ちびの女二人が、馬鹿でかい荷物に

振りまわされ、簡易トイレ風の検問所を、パ

スポート片手にヨロヨロ出た途端、なつかし

いジョチータ氏(昨年来日)の顔をみつけ、一

行、ホッと、安堵の溜息をついたものです。

招待なので、聞いていた、物々しさもなく東

側に入れたのです。

東ベルリン市内は、整然と区画整理され、

ウンターデリンデン(菩提樹の並木道)の

美術館で喉もとまで芸術に埋もれ、クロワッ

縦横無尽、ルーヴル、印象派、オランジェリー

バリエ物が初まったのです。市内をメトロで

い料金で、ホテルモンタギーに暮き、一泊の

良くしたのか、市内観光とあいなり、倍も高

又しても歓声を挙げる我々に、すっかり気を

ンセリゼ、凱旋門、コンコルド広場を見て、

タクシーで、街へ入った途端、広い通りにシヤ

インド人と覚しきおはさんの、オンボロタ

クシーで、延々十八時間後でした。

日本を発って延々十八時間後でした。

涙でかすみながらスチームアップしてきたのは、

き三五三便に搭乗。あこがれの花のバリエ、

着。時差でもうろうとした頭を抱え、パリ行

うやく、モスクワ・トランジエツト空港へ到

大地に流れる川を飽きもせず見ていると、よ

蛇行しながら行く先を知らない、ロシアの

く食べ、すべてに只、感激していた訳です。

にスバシバの声を掠れ、それでも黙々と良

耳に響き、これでもかと許り出される機内食

境 野 エリ子

(演劇集団石るつ)

サンの旨さで、ラインの安さを堪能し、袋に、

残パンを詰めて、ベルリンに向かう列車の人

となりまりました。窓外のおまじにもどかな田

園風景を眺嘆してはみるものの、おきえてい

ないかと閉じてしまう窓のついたコンパクト

メントで、その熱気にシャンの胸もとあたり

かきむしり、半袖を入れたかかったのを悔み

つ、ソルボンヌ大学の法科らしい、煙嫌いの

ナーベスな学生と、禁煙の旅を余儀無くされ

たのです。

悶々たる一夜も、早い夜明けの涼風を受け

ているうち、なごみ、西ベルリン200(ツ

ォー)駅に到着、ここから、フリードリヒ・

シュトラウゼ(七ヶ所の検問の一つ)へ。東

ベルリンに入るため、腰痛の山辺氏それに

縦には小じんまりした久藤氏、これまた輪を

掛けた、ちびの女二人が、馬鹿でかい荷物に

振りまわされ、簡易トイレ風の検問所を、パ

スポート片手にヨロヨロ出た途端、なつかし

いジョチータ氏(昨年来日)の顔をみつけ、一

行、ホッと、安堵の溜息をついたものです。

招待なので、聞いていた、物々しさもなく東

側に入れたのです。

東ベルリン市内は、整然と区画整理され、

ウンターデリンデン(菩提樹の並木道)の

美術館で喉もとまで芸術に埋もれ、クロワッ

縦横無尽、ルーヴル、印象派、オランジェリー

バリエ物が初まったのです。市内をメトロで

い料金で、ホテルモンタギーに暮き、一泊の

良くしたのか、市内観光とあいなり、倍も高

又しても歓声を挙げる我々に、すっかり気を

ンセリゼ、凱旋門、コンコルド広場を見て、

タクシーで、街へ入った途端、広い通りにシヤ

インド人と覚しきおはさんの、オンボロタ

クシーで、延々十八時間後でした。

日本を発って延々十八時間後でした。

涙でかすみながらスチームアップしてきたのは、

き三五三便に搭乗。あこがれの花のバリエ、

着。時差でもうろうとした頭を抱え、パリ行

うやく、モスクワ・トランジエツト空港へ到

大地に流れる川を飽きもせず見ていると、よ

蛇行しながら行く先を知らない、ロシアの

く食べ、すべてに只、感激していた訳です。

にスバシバの声を掠れ、それでも黙々と良

耳に響き、これでもかと許り出される機内食

境 野 エリ子

(演劇集団石るつ)

サンの旨さで、ラインの安さを堪能し、袋に、

残パンを詰めて、ベルリンに向かう列車の人

となりまりました。窓外のおまじにもどかな田

園風景を眺嘆してはみるものの、おきえてい

ないかと閉じてしまう窓のついたコンパクト

メントで、その熱気にシャンの胸もとあたり

かきむしり、半袖を入れたかかったのを悔み

つ、ソルボンヌ大学の法科らしい、煙嫌いの

ナーベスな学生と、禁煙の旅を余儀無くされ

たのです。

悶々たる一夜も、早い夜明けの涼風を受け

ているうち、なごみ、西ベルリン200(ツ

ォー)駅に到着、ここから、フリードリヒ・

シュトラウゼ(七ヶ所の検問の一つ)へ。東

ベルリンに入るため、腰痛の山辺氏それに

縦には小じんまりした久藤氏、これまた輪を

掛けた、ちびの女二人が、馬鹿でかい荷物に

振りまわされ、簡易トイレ風の検問所を、パ

スポート片手にヨロヨロ出た途端、なつかし

いジョチータ氏(昨年来日)の顔をみつけ、一

行、ホッと、安堵の溜息をついたものです。

招待なので、聞いていた、物々しさもなく東

側に入れたのです。

東ベルリン市内は、整然と区画整理され、

ウンターデリンデン(菩提樹の並木道)の

美術館で喉もとまで芸術に埋もれ、クロワッ

縦横無尽、ルーヴル、印象派、オランジェリー

バリエ物が初まったのです。市内をメトロで

い料金で、ホテルモンタギーに暮き、一泊の

良くしたのか、市内観光とあいなり、倍も高

又しても歓声を挙げる我々に、すっかり気を

ンセリゼ、凱旋門、コンコルド広場を見て、

タクシーで、街へ入った途端、広い通りにシヤ

インド人と覚しきおはさんの、オンボロタ

クシーで、延々十八時間後でした。

日本を発って延々十八時間後でした。

涙でかすみながらスチームアップしてきたのは、

き三五三便に搭乗。あこがれの花のバリエ、

着。時差でもうろうとした頭を抱え、パリ行

うやく、モスクワ・トランジエツト空港へ到

大地に流れる川を飽きもせず見ていると、よ

蛇行しながら行く先を知らない、ロシアの

く食べ、すべてに只、感激していた訳です。

にスバシバの声を掠れ、それでも黙々と良

耳に響き、これでもかと許り出される機内食

境 野 エリ子

(演劇集団石るつ)

サンの旨さで、ラインの安さを堪能し、袋に、

残パンを詰めて、ベルリンに向かう列車の人

となりまりました。窓外のおまじにもどかな田

園風景を眺嘆してはみるものの、おきえてい

ないかと閉じてしまう窓のついたコンパクト

メントで、その熱気にシャンの胸もとあたり

かきむしり、半袖を入れたかかったのを悔み

つ、ソルボンヌ大学の法科らしい、煙嫌いの

ナーベスな学生と、禁煙の旅を余儀無くされ

たのです。

悶々たる一夜も、早い夜明けの涼風を受け

ているうち、なごみ、西ベルリン200(ツ

ォー)駅に到着、ここから、フリードリヒ・

シュトラウゼ(七ヶ所の検問の一つ)へ。東

ベルリンに入るため、腰痛の山辺氏それに

縦には小じんまりした久藤氏、これまた輪を

掛けた、ちびの女二人が、馬鹿でかい荷物に

振りまわされ、簡易トイレ風の検問所を、パ

スポート片手にヨロヨロ出た途端、なつかし

いジョチータ氏(昨年来日)の顔をみつけ、一

行、ホッと、安堵の溜息をついたものです。

招待なので、聞いていた、物々しさもなく東

側に入れたのです。

東ベルリン市内は、整然と区画整理され、

ウンターデリンデン(菩提樹の並木道)の</

観劇雑感 萩坂桃彦

「12人の怒れる男たち」(東京芸術座)

簡単に紹介すると、こんな話である。

ニューヨークのブロードウェイに住む一九歳の少年が父を殺す。その審判が十二人の陪審員に委ねられる。陪審制は全員一致が原則である。

親子の争いの声も聞き、そして逃げ出して

ゆく少年の姿を見たという、アパートの階下に住む老人の証言や、同じように現場を、電車の線路をへだてた反対側のアパートから窓越しに見たという中老婦人の証言などで疑問

をはさむ余地がないように見える。

早いところ片づけて、夜の八時からの野球の

ナイターに間に合わせたいという陪審員第七

号(宮川尚)や、いかにもあひうスラム街

の連中のやりとりがそこそこ、と頭から決めて

かかる第十号(をばり万造)。

審議の必要もなさそうなので、直ちに票決

ると口名。

ひとり、第八号(北村耕太郎)が応じない。

彼は、無罪を証明することは出来ないが、有

罪と決めてしまうのには、いくつかの疑問が

あるというのだ。

このあとのアプロットはこびり巧妙である。

全員が合意にいたるまで話し合うべきだと

いう民主主義の原則、また、偏見や差別で人

を裁くことは許されないという、よきアメリカ

の合理主義も、この作品での言いいたいこと

の一つであるが、むしろ作者の腐心は、こ

のドラマの構成そのものにあるように思う。

12人の一人ひとりの、性格、職業などをか

らめた正確なアプロット、開票毎の票の姿

化で、それがあらわになってゆく。

この、虚々実々のおもしろさは、粒を揃え

た東京芸術座の俳優たちをどうやら燃えあが

らせたようである。

俳優は、役柄をおのれのカラーにとりくん

でゆく。

誠実で物静かで、粘着力のある第八号を北

村耕太郎。怒りっぽく、軽薄、野球好きのセー

ルスマンの第七号を宮川尚。人生に敗北して

孤独な老境にある第九号を、西島伸四郎。

ヨーロッパの独裁政治を逃れて、アメリカ

に渡って来た、屈辱には馴れている時計商の

第十一号を立川恵三。

有罪説、を最後の一人になるまで主張し

て抵抗する自信過剰の第三号を、井上鉄夫。

臆病で、たえず意見の動揺する下級銀行員

の第二号を倉田地三。何かにつけ尊大にかま

えている株式仲買人の第四号を保科三良。な

ど、など。

という風に眺めてゆくと、いづれ劣らぬ、

競い合った役づくりと言える。

しかし、そこで、待てよ、と思う。

この戯曲の収められてある本(レジナルド・

ロース著 頼田やえ子訳)の作者の言葉を讀

むと、この作品は、作者の個人的経験を僅か

でもとり入れた唯一の作品で、作者はこれに

しまった。

ニヤスの欠万テン次に注目したのみで終って

その点、男優陣はやや手薄に感じられ、バ

芝居が引き締まった。

いた雰囲気を出すことに成功したので、

ら好演。それを受けて立つセシヤがおちつ

中心人物のゆきは、やや癖のある演技なが

であつただけに安心して見ることが出来た。

女子高校があり、その生徒たちも相当数観客

松山市にはカトリック系、新教系の二つの

ある。

だから、この研究に心を加えたのはさすがで

ている者には奇妙な違和感を与えたりするの

た音はフルートで、役者の指の動きとの不

致と共に、気になった。色々と音を変形させ

て苦勞した形跡はかなり感じられたのだが、

所詮音は金である。木管の暖かく柔らかな

な音は望むべくもない。

琴の音は『風早秘話』の中で重要なモチー

フの一つであり、それに舞台上登場人物が弾

く本物のナマ音を使用可能であつたのは幸い

であつた。

次に『荏原の月笛』は、やはり松山近郊に

ある古い城あとに啓示を得た台本と聞いてい

るが、心情的には『風早秘話』の動に対して

静の芝居であり、対比を見せていた。

批評は好き嫌いでものを言つてはならない

のだが、筆者としてはこちらの方が親しみ易

かつたように思えた。

人数の少ないキヤストを苦勞してつじつま

を合わせる為であろうか、語り部の『おばあ

さん』につきまとう子供達のうちの男の子の

一人を、家来たちの一人に起用したのはいさ

さか強引。セリフも堂々として破綻はなかつ

たが、その子が出てくる間、見えてハッパ

ラした。大人の演じる家来と並んだときの身

長の差(仕方がないが——)も気になった。

何となく学芸会じみる。

うということである。

テレビは中央の文化を、少しやり過ぎる位

地方に運んで来る。地方は文化的にローレ

ルで、文化活動をしていると遊んでいるとい

う眼で見られ易い。(運動選手は鍛錬に身を

汗するとしてもはやされるのと、大きな差が

ある)そんな中にある、中央の二番せんじ

でなく、地域に立つものをと努力しているこ

じか壁に今後一層の奮起を望みたい。

(一九八六、一〇、八)

着手する一ヶ月程前、ニューヨークの地方裁判所で、故殺事件の陪審員をつとめた、そこで強烈の印象は、先ず、ニューヨークには八百萬も人間がいるのに、速りに運んで俺を呼び出さなくても、の不滿にはじまり、つづいて陪審員のおかれた苛酷な位置、である。おそろしいまでの法廷の静寂さ、無感情な、仮面のような裁判長の顔、などをくぐった最終判決が、他ならぬ十二人の陪審員に委ねられ、事柄の深刻さである――と述べている。

“怒れる十二人、の”怒れる、は、何に對して怒っているのであるか。

それは、十二人を追いつめてきたもの、追いつめられてしまった、一人ひとりの、おのれに對してではないのか。

この裁判は六日間も公判が続き、証人の喚問や実地検証と、その間拘束されている陪審員たちにどんな保償が与えられているのか明らかではないが、広告代理店の営業マンの第十二号（小杉幸彦、松岡則夫）は、この間にクビになっているかもしれないと言っているのだ。彼らは疲れている。そして病んでいるのだ。その病み、疲れから、第七号や第十号や第三とあるが、前の二作については、よくわかつてくる。かの女は酒場エスカルコのマア静代（松井信子）の娘だが、このアパートの住居ないので委しいプロットは書けない。というより、一作毎に趣向を変えたエピソードがあるようで、その筋立の中に、おなじみの登場人物が、その人物たちらしく物語をひろげてゆく。連続もののテレビドラマなどでも、よく使われる手である。

“四畳半”は、札幌市内の、すすき野という飲み屋街にある、安アパートの一室の呼び名である。

このアパートは住居人の自主管理で、持ち主は東京に出ていって、クラブのマダムか何かしている。

住居人は、酒場エスカルコの女マア（真田菜子）、マアを姐さんと呼ぶ、みどり（木村理恵）、千秋（島田優子）、あけくれ（酒浸りになっている女マアラレ（類家里美）、絵画き修業中の野生（松永容治）、パチンコ屋に働く和夫（田子止博）と良子（高島明美）の夫婦、それに、風呂屋のサンボイ・チマツの松つあん（山野久治）といった顔ぶれで、同じ釜の飯の仲、目をつむっているも傍にくれは臭いでわかるという仲である。

目をつむむると言えは、ここに眼の不自由な野重という少女（上田奈緒美）がよくたすね

てくる。かの女は酒場エスカルコのマア静代（松井信子）の娘だが、このアパートの住居人たちが大好きだ。なかでも、何かにつけ親身になつていたわつてくれる野生のやさしさがある。どこか、チャップリンの“街の灯”の盲目の花売りやを思い出させたりする。（最後にわかるが、このふたりは、お互知らずにいるが、実の兄妹である。）

話はいろいろ盛り込んであって、このアパートに、東京から、売れっ子のテレビドラマの作家戸川大作（真田宏一）があらわれる、というのが話のはじまりである。しかし、この大作は引き出し役で、話の本筋には関わりはないが、彼とマア中の女、マアラレとの交情、それに絡む戸川の秘書野村華子（松本直子）、マアラレと華子の、女の決闘、は一寸した芝居だ。それにしても戸川大作という人物はいい気なものである。こういうマアラレを許すのは作者なのか、観客なのか、わからない。

しかし、渋谷氏の会話はうまい。うまい、と思う。参考までに一寸、お目にかけよう。アアラレが主編気どりで部屋の中で、卓を拭いていると、東京から着いたばかりの野村があらわれる。

野村 こんにちは。

アアラレ あー

野村 先生（戸川のこと）いらっしやいます？ お部屋の方かしら？

アアラレ 出かけているわ。太分遅くなるみたい。

野村 本当に？

アアラレ 信じようと思ひまいたあなただの勝手。

野村 アアラレさんでしたわ。

アアラレ よく覚えていたわね。

野村 人の名前を覚えるのが早いんです。

アアラレ 立派。

野村 貴方だつてご商売柄、そうじゃない？

アアラレ 肉？

野村 とんでもない。

アアラレ （お茶を入れて）上がつたら。

野村 いいかしら。

アアラレ 私、あんだみたいたいなタイプの人と話すの好きなの。

野村 うれしい。

たしかに、セリフのうしろに人物の個性をなにはどかはのぞかせている。こういう活き

号の本質が、無知と傲慢と差別の偏見となつて出てくるのだ。第八号の不承知は、怖らくそのことに對してである。藏んだ空気の中に、第八号が必死に耐えている。これは作者にもかさなつてくる。

ただ、最後には全員無罪説に辿りつく、票決のズリル劇でもサスペンス劇でもないというところだけは言える。好い舞台だっただけに無いものねだりをしていいるのかもしれないがどうだろう。（9月15日 砂防会館ホール）

“四畳半幻燈”（劇団シアターII）

あぶな絵を連想したりして、ひょとして妖しい芝居かも知れぬと思つたりした。勿論、これは見ればわかることなので、それだけの話である。

作者の渋谷健一氏には、この七月、美唄での北海道演劇祭で初会した。氏は、道演集のその病み、疲れから、第七号や第十号や第三

これは描宅して、暫らくしてから読んだ。即座に「あぶな絵」の妄想は消えた。そして手紙を書いた。返事が来た。東京公演の案内と招待券に混って、短い言葉が添えてあった。「読んで貰えて、まさか手紙まで、とは思ひませんでした」という意味のことが書いてある。それととりちがえて読んだ。おれは渋谷氏よりエライのかも知れぬと勘がいをしたのだ。つまり、渋谷氏は、道演集には所属してゐるけれども、いわゆる「リアリズム」には背いて、理窟張らない、誰にもわかる、たのしい芝居を書く、道演集の異端児、を任じていて、つまり、そういう人物のものを、全り演の「演劇会議」編集長が読むはずがないと考へたらしい。

さて、下北沢、駅前劇場で親だ「四畳半幻燈」は、このシリーズものの完結編といつて、ともあつて、登場人物のそれぞれに結末が与えられている。一九八三年に初まつて三作目

たセリフというものは俳優の使いわけで幾様にも、様子が変わってくる。

舞台「四畳半幻燈」にあらわれた、よく言えは「ライオネーイ、悪く言えば混乱は、渋谷氏のセリフのおもしろさのためである。

物語の住のつに、サンバ・マン松つ表現はほとんど、艶歌、浪花節のカチコライ

女だ。この美知子に対する松つあんの愛のんで、何年かの刑に服して来たような哀れな

は、男に騙されて、動先の会社の金を使いて、彼の献身的な愛を受ける美知子（大島拓子）

組合せはいかにも意図的のようだった。この両刀使いをしても、渋谷氏は「道演集の

異端児」というのだろうか。だとして、ばくにとつても初めてのこと

ではない。この手の作りよりは昔もあつたのだ。昭和十四、五年頃、浅草オペラ館でみた

永井荷風の「すみだ川」などがそれだった。テラゲラ笑いがからも、アト泣ぐみ、そして

て何かを大切にしたいくなるような気持になつた。秋口にかけての話である。

敵方になつたおぶんが、健気に立直らせるといふ話だ。

良助は孤児同然で、野宿の暖をとるために犬を抱いて寝たような、ひどい生立ちで、売

られ売られて二十歳のとき、神田大工町の「よし川」という小料理屋の板前見習に入

だが、そこで六年もただ働きさせられて、放り出される。比喩をのんでいたのは、「よし

川」への仕返しを考えていたからである。良助は絶望のなかで、おぶんの心の暖かさ

にふれる。おぶんも考へず、可哀そうな身の上である。生れながらの片足不具の兄が父親

を殺して川に身投げをして果てる。だから、ひとりぼちである。

おひろはおぶんに、男に惚れるな、信じるな、と説く。そんな、男にたよる愛情なんて

ものは「露のすぬ間」に咲く朝顔のようなもので、またく間の夢にすぎないと訓える。

しかし、やがて大暴風雨におそわれる。高潮に見舞われて佃町一円は海のように、

の屋根の上に避難しておひろとおぶんは、この世の終りを覚悟する。そこへ、解をこいで

姿を見せたのは良助であった。おぶんの真心が通つたのだ。

そこに出てきた人間たちの小ささ、貧しさ、正直さ、おろかさ、そして決して報いられる

ことのない哀しい結末に対する共感の深さは、まさに、背景に、色濃く、戦時体制下という

時代の閉塞があつたからであつた。無責任に、飛躍して言えば、いま渋谷氏は、

そのすぐれた才能を、どういつ時代を背景にして、どこに向けて燃焼させているのだろうか、と考えたりする。

（9月21日 下北沢・駅前劇場）

「つゆのひめま」（劇団蒼生樹）

山本周五郎の小説の劇化である。劇団の中に、周五郎に熱心な、特定の誰かがいるのか、

それとも、珍しい程の粒の揃つた女優を抱えていることでの、劇団あけての（女性上位の）

企画か。前作も、周五郎の「おたふく物語」であつた。

「つゆのひめま」はよく知られているのであらためて書くこともないが、周五郎、岡場

所もの、の、一つで、舞台は、深川の端れ、海辺近い佃町にある、鳶屋という遊び場所。

抱えの女が四人いて、女将不在中の、夏から秋口にかけての話である。

年長で、古株の二十五になるおひろ、軽口で陽気な二十一歳のお吉、従順して、沈み

がちなおぶんは二十歳、客扱いもうまく、伝法肌のおけいも同じ歳だ。

それぞれ、五、六人の馴染客があれば、店も成り立っているようで、酒食は一切出さないで、一見、仕舞屋と変らない娼家。

こういう特殊な店のたずまいを、考証誤また再現してみせるのは至難のわざで、蒼生樹の舞台も、せいせい、長火鉢とカ行燈と

か、長襦袢姿の女とかで見せる程度である。観る側でも、そんな穿索のできる手合は、も

はや昔無といつていい。従つて主客（劇団と観客）とまともに、そこどころは外してかか

ることになる。つまり、こういう苦界で、春をひさぐ女たちの、リアルな生活的表現は別

にして成り立っている。話の、主な柱は二つあって、おひろは、武

家の出で、隣家の浪人者の良人と子供のために働いているといつづけているのは、全く

の嘘っぱちだ、そう信することだけが生きがいで、女は哀れさがさいごにわか

るというのひとつ。もうひとつは、ふところに比喩をのんで、

おどおどとしてあらわれた良助という男を、

出（浜田重行）の仕事としてではなくて、別の要素でそうなっている。

それにしても男優陣は気の毒な扱いを受け

ていた。良助（大類賢悦）は何とか形に納まつたもの、

の、嬌客（大熊良雄、北原良彦、鈴木弘明）や目明し（河住靖一）は観ていて困つた。

お吉の馴染の若い男（三瓶俊一）、風の夜の見廻り（杉平健二）にしても、もう一つき

まらず生影に乏しいのは脚色上の手抜きと思える。

演出のテノホは序幕、中幕をとおして、緩慢に、丁寧に、辛抱よく、既修済みの、周

五郎哲学をきかされるのには疲れた。終幕の救われた。終り好ければすべて好しか。

（10月26日 横浜市教育文化ホール）

「かもめ」（劇団仲間）

チェホフの「かもめ」を、劇団仲間がやるのかーという程度の浅い関心で、俳優座劇場

の客席に坐つた。幕あきはしたが、庭園の中央に仮設舞台があつて、その背後には湖水が、そして左右に

瀧木の茂みがあり、これからはじまるトリー
アレアの老居を見るための、いくつかの椅子
や小卓があるはずだ、という常識で待ってい
ると、まるで勝手がちがう。

舞合中央に、濃い藍色の、一枚とも見える
バル（ドロップ）があるだけ。これが左右

に割れると、そこが仮設舞台というわけだ。

成程、こういう式の芝居か。トリーアレア

もニーナも、そこらで見てかける若者という

わけか、と観ていると、これもまた、勝手が

ちがってくる。

どうやら、セリアはチエホフの、かもめ。

の原作の通りのようであるが、何か、違う。

あの、チエホフ一流の、おしゃべり好きの

人物の一人ひとりが、どうしたことか、何や

ら余分なものをほとんど振り捨てて、出てく

るのだ。セリアもチエホフがはやく、弾みをつ

けて、こちらにとび込んでくる。

ただの若者に見えたトリーアレア（鹿島伸

往）やニーナ（尾花糸名子）が、息づいてく

る。素手で、かもめ、の核心に入ってゆく。

どうも様子がおかしいので、幕間にパンフ

レットを覗くことになる。

アントン・チエホフ原作、マルグリット・

デラス台本、利光哲夫訳、演出・増見利清、

亀井光子とよめる。

フランスの女流劇作家でもあるらしい、デッ

ラスという人の名を知らなかったこちらの無

知は嘆かれても仕方がない。不勉強もいと

ころであった。

ところで、かもめ、は平たく言って、愛

のドラマといていいだろう。

生産や労働に根ざさない、ここに出てくる

チエホフの人物たちは、苦しめば苦しむほど、

それが空転してくる。

ニーナはかの女に夢中になっているトリー

アレアからトリゴリーン（関口鷹）に気持ちを

移す。トリゴリーンは人気のある通俗的な流

行作家だが、この作者に確立したものは何一

つない。（と言って軽薄と見るのはまちがい

で、どうやらチエホフも自分をそれに重ねて

いるらしい）彼の目下の愛人はアルカージナ

（伊藤巴子）だが、彼はただ、その言いなり

になっているだけだ。ここにも、愛の不毛が

ある。アルカージナはトリーアレアの母親で

ある。トリーアレアのトリゴリーンへの敵意

は自から知るべしである。

ニーナは、トリゴリーンの後を追って、モ

スクラに行き、女優になるが、機局を迎える。

最終幕は、元の鞘におさまった、アルカーシ

ナとトリゴリーン。

いまなおニーナを愛しつづけているトリー

アレア。

傷めつけられて故郷に戻って来たニーナは、

トリーアレアの暖かい手を振りはらって、再

び、激しい雨の降る外の世界の中に去ってゆく。

広間では、アルカージナやトリゴリーンが

かるたの団らんで打ち興じている。

やがて、隣のとリーアレアの部屋から銃声

が聞こえる。あの、劇的なトリーアレアの自

殺である。

省略して、中心になる四人にしか触れなかつ

たけれど、かもめ、に先んじた作品「イザー

ノフ、や、伯父グーニア」と同様、やはりこ

こには、チエホフおなじみの田園風物詩的な

人物が必要ない致し登壇している。

この劇の舞台、ソリーン家の別荘の持主、

アルカージナの兄のソリーン（津島康一）や

管理人のシヤムラエフ（井原幹雄）とその

妻（相沢司津子）、そして娘のメーシヤ（上

野美和）、メーシヤにご執心で、おけくれ安

い傳給を飲んでいる教師のメドワエーシエン

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

劇評 ■ 劇団若者座の

「グッド・ラック」で感じたこと

笹尾新

（10月28日 俳優座劇場）

あらためての警告を要しない。

さきに、登場人物たちが、素手で、かもめ、

（菊地勇一）

その交錯の図柄はチエホフの本領であって

から舞台であった。

それを予測した演出の計算が、実によくわ

得られるはずだ。

優たちの、たしか位置、たしかなセリフで

の核心に入ってゆくと書いたが、それは、俳

優たちの、たしか位置、たしかなセリフで

得られるはずだ。

それを予測した演出の計算が、実によくわ

得られるはずだ。

それを予測した演出の計算が、実によくわ

得られるはずだ。

それを予測した演出の計算が、実によくわ

得られるはずだ。

最終幕は、元の鞘におさまった、アルカーシ

ナとトリゴリーン。

いまなおニーナを愛しつづけているトリー

アレア。

傷めつけられて故郷に戻って来たニーナは、

トリーアレアの暖かい手を振りはらって、再

び、激しい雨の降る外の世界の中に去ってゆく。

広間では、アルカージナやトリゴリーンが

かるたの団らんで打ち興じている。

やがて、隣のとリーアレアの部屋から銃声

が聞こえる。あの、劇的なトリーアレアの自

殺である。

省略して、中心になる四人にしか触れなかつ

たけれど、かもめ、に先んじた作品「イザー

ノフ、や、伯父グーニア」と同様、やはりこ

こには、チエホフおなじみの田園風物詩的な

人物が必要ない致し登壇している。

この劇の舞台、ソリーン家の別荘の持主、

アルカージナの兄のソリーン（津島康一）や

管理人のシヤムラエフ（井原幹雄）とその

妻（相沢司津子）、そして娘のメーシヤ（上

野美和）、メーシヤにご執心で、おけくれ安

い傳給を飲んでいる教師のメドワエーシエン

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

あらためての警告を要しない。

さきに、登場人物たちが、素手で、かもめ、

（菊地勇一）

その交錯の図柄はチエホフの本領であって

から舞台であった。

それを予測した演出の計算が、実によくわ

得られるはずだ。

優たちの、たしか位置、たしかなセリフで

の核心に入ってゆくと書いたが、それは、俳

優たちの、たしか位置、たしかなセリフで

得られるはずだ。

それを予測した演出の計算が、実によくわ

得られるはずだ。

それを予測した演出の計算が、実によくわ

得られるはずだ。

それを予測した演出の計算が、実によくわ

得られるはずだ。

最終幕は、元の鞘におさまった、アルカーシ

ナとトリゴリーン。

いまなおニーナを愛しつづけているトリー

アレア。

傷めつけられて故郷に戻って来たニーナは、

トリーアレアの暖かい手を振りはらって、再

び、激しい雨の降る外の世界の中に去ってゆく。

広間では、アルカージナやトリゴリーンが

かるたの団らんで打ち興じている。

やがて、隣のとリーアレアの部屋から銃声

が聞こえる。あの、劇的なトリーアレアの自

殺である。

省略して、中心になる四人にしか触れなかつ

たけれど、かもめ、に先んじた作品「イザー

ノフ、や、伯父グーニア」と同様、やはりこ

こには、チエホフおなじみの田園風物詩的な

人物が必要ない致し登壇している。

この劇の舞台、ソリーン家の別荘の持主、

アルカージナの兄のソリーン（津島康一）や

管理人のシヤムラエフ（井原幹雄）とその

妻（相沢司津子）、そして娘のメーシヤ（上

野美和）、メーシヤにご執心で、おけくれ安

い傳給を飲んでいる教師のメドワエーシエン

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

コ（大槻悦朗）、下男ヤークコフ（小田切昭彦）

こうしたきわめて歴史的で構えの大きな時間と空間の設定の下に展開される物語は、おもしろ意味で現代のおとぎ話、メルヘンである。オオノ堂主人の信吉（大西衛一）は、大のお人好しで、SRK出身の元レコード歌手で年の進うふじ（宮本紀子）を後妻にしている。娘のみさを（夏川湘子）は、傷痍軍人六百人と文通している軍国少女。そしてこの家には、元生活綴方教師で今は星座ばかり眺めている広告文案家の竹田（小森清太郎）と、ほとんど言葉をしやべらずにピアノでジャズを弾くのが大好きな森本（益田和之）が下宿している。この五人と、それから千葉の砲兵隊を脱走した長男の正一（三浦義夫）とに共通しているのは、流行歌を含む音楽が好きで好きでたまらないこと。そこに、この正一を追う憲兵伍長の権藤（青木克也）と、「非国民の家」を「美談の家」に変えようとしたふじの策略によってみさをと結婚した源次郎（三村省三）とがこの家に入り込んで、テノボの早いアタションが展開する。

脱走兵と憲兵とが、昔の喜劇映画のように間一髪のタイミングですれ違ふ追っ掛け合いを演じたり、その脱走兵が逃亡の途中でたび

この井上ひさしの「昭和庶民伝」第一作をせむとも自分たちの手で上演しよう、四紀の市民劇場はたびたび作者にアプロチして、やっと上演許可を得たこと。『きらめく星座』という戯曲にはそれだけの価値があるのかどうか、また実際の舞台は戯曲のなかに表現し得たかどうか、考えてみたいと思う。

井上ひさしは、太平洋戦争前夜の「庶民」の生活を描くのに、先ず二つの仕掛けを施している。一つは、老居の場をオオノ堂という浅草のレコード店に設定したこと。流行歌が庶民生活と切り離せないのは言うまでもないが、軍部が憎んだ「仮想敵国の軟弱の上にはやり唄」を、出征前夜の若者がわざわざ聞きに店を訪れたり、また軍歌が「ベタくさいリズム」のマーチだという矛盾が、いわゆる日本主義の浅さに対する痛烈な皮肉となっていると同時に、日本文化の二重性について

謝の日——と続いている。すなわち、戦争中の国家的祭日が名前を変えただけで現在も国民の祝日になっている事実が、改めて思い知らされる。そしてあと二つの場は、八月十五日と十一月八日の前後であり、庶民生活にきわめて大きな影響を与えたこの二つの日付は、国家によって公式には何の記念日にも指定されていない点も、あわせて示されている。国体、家体制、特に天皇制は、戦争によっても変更を受けていないのではないかと、作者は訴えているようである。

平田 康

上演にかけた熱意は実った…… ——四紀会の「きらめく星座」をみて——

だから、けい古も楽しくて……」と語った。また、観客の彼を知る字友も「あいつ、半年であれだけ変わったとはすごいな」と、その成しと想ったのは、私だけではあるまい。今日までの役づくりの結果をこのままにするのは、なんとしてもおしこごだ。

いまから二十年前の一九六六年、山口市を根拠に全国巡演していた劇団はぐるま座が中国の盲従集団に愛護し、いっしょに名譽ある追放を受けた青木力弥が十年前の青年劇場の「グランド・ラック」でピョートル役を演じた。またそのときの同志であり、先輩の矢野弘が山口に居をかまえ、演出や舞台美術ひとすじに生き、劇団若者座の舞台装置も二十年来半掛け、今回もかかわったことは、いま劇団とは直接離れた私にとって、彼らが舞台の一端を支えてくれていることに心から感謝したい。

劇団若者座のみなさん。ほんとにうらやまがとつ。

（筆者は、元劇団はぐるま座。現、日本共産党山口県議団事務局長）

目についた。

ともあれ、仕事や学業、家庭をかえってわずかなけい古時間に熱中し、劇団若者座は

えたことも見おとせないことだ。

天羽演出の芝居くささを感じさせない軽妙なタツチは、三時間近くの上演時間を忘れさせた。彼の演劇に対する異常なまでの執念と秀でてたリズム感が観客を息事にひきだした。ところで、これだけりっぱな舞台をつくらた劇団若者座だけに、一言せいたくなのぞきも言いたくなる。

舞台上でぐるま座のような緊迫感と迫真性、無遠りよに腹の底からでてくる笑いがもうひとつほしい。けい古量不足する自立劇団としての悩みか。充分なけい古量をつんだ役づくりと、いま一步のものとデコギコがちょっと目についた。

長ぶりに驚たんだ。

この力は、二十二年間、四十数回の上演回数と四万五千近い観客をえてきた劇団若者座のバイタリテといつても若さを失わぬと根性であらう。また、今日の舞台では、十年以上上の劇団歴をもつ古い劇団員全員が裏方で支

△記念誌について▽

八〇年代も後半に入ると劇団の歴史も重ねられ創立二〇年、三〇年が経々と出てくる。記念ハーテイ案内の白い角封筒が自立ってきた。また記念誌の発行も盛んである。この記念誌の編み方は自治体のお役所、トップからの挨拶をはじめとして、どれもよくぞここまで、という讃辞が多い。逆にいうと市長とか教育長とかいうひとたちのお話しむきの場所になる。

それをこつとわる理由はないけれど、やはり飾らない劇団の姿をのこすことの方が大事だ。

最近三〇年を予えた北見の劇団河童から百頁ほどの、写真なども豊富な立派な記念誌が贈られてきたが、その編集の手堅さに感心した。年次的に、その折々に劇団とかかわった人たちが登場させて、多少回顧的で甘さはともなっているが、劇団の歩みの容易でなかった歴史が手にとるようにわかる。今でも柱になっている歴代作者の石上慎さんの「俺にも言わせろ」が中でもおもしろかった。（はぎ）

おつと・リアリズム、を

——中部プロダク、7月・10月の上演から——

丸子礼二

(1)

今年のゼミの会場、ヴァイラ雨畑、の設備は大変便利だった。交流会用の広いグラウンド、モデル上演にぴったりの体育館と舞台、「丁度よい会場がよくあつたな」と感心しているうちに、「ああ、これは学校じゃないかい」と気がついた。島田豊さんが流れるような話しぶり、で私達を感心させている演壇のテラスには、中学の校章が浮きぼりにしてあつた。過疎のため廃校となつた校舎が、若者達の集うヴァイラとなつていたのだ。「この学園を巣立って行つた何百という人達は、自分の母校がなくなつてしまつたことをどう感じていたのか、と複雑な思いにとらわれた。劇団の場合にしても、久し振りにOB達に会つたり、手紙を買つたり、必らず「なつかしい」といふ言葉が出て来る。やつてゐる間は困難や悪条件の中で、苦しみも怒りもあつたのだが、色々あつても、人生の貴重な時期を

かけた存在、それが、劇団というものだろう。最近、二十周年、三十周年を迎える話、全上演の中でも数多く聞かれる。決して、楽でなかつた年月なのだが、それにしても、どのクループも、廃校にはなつて欲しくないのだ。...

(2)

7月から10月までの上演は以下の通り。

上野市民劇場 第10回親子劇場 7/12
上野文化ホール 7/29 名張市青少年センター

ター さねとうあきら原作 ふじたあさや脚本
色 なくきたわかつ演出「ベツカンゴにおに」

劇団すがお 第36回公演 7/12・13 桑名市民会館 R・ホルト作 木村光一訳 伍藤かずよし演出「花咲くチェリー」 第37回公演 10/25・26 桑名市民会館 アシネ・フランク原作 ハケット夫妻作 菅原卓訳

加藤武夫演出「アシネの日記」
劇団はぐるま 第72回公演 なつやすみ親

と子の劇場 No.15 7/19・21 岐阜市民会館
松谷みよ子原作、藤本昭脚色・浦田ひさし
演出「龍の子太郎」
劇団名芸 第6回天白こども劇場 7/26・27 名芸平針小劇場 9/20・21 天白役所ホール 第18回みなみこどもげきよう
9/13・14 黒木英章脚本 糸井重喜演出「雪んすものがたり」
名古屋演劇集団 アトリエ公演 8/31 劇団稲古場 N・カワード作 加藤恭平訳
若尾正也演出「陽気な幽霊」
劇団名古屋 附属研究所第19期生卒業公演 9/20・23 劇団稲古場 吉地隆介作 山岸裕孝演出「幽霊豆話」
劇団四日市 結成25周年記念公演 10/25・26 四日市文化会館第2ホール 木藤亜也原作 森けんろう脚色・演出「リットルの涙」
竹内勇太郎作 森けんろう演出「雪夜の客」
... 岡崎演劇集団と劇団夜明けの公演は11月以降であり、他にも11月、12月に公演を控えている集団が多い。「演劇会議」の締切りの関係で、今回は上半期の終り、夏のことも劇場と、秋冬のシーズンのはじめの部分にまたがつてしまつた。悪しからず...

たび生家を訪れる中で、家族が歌を歌いながら日常生活を続けるといつた事態は、恐らく現実には起こり得なかつたことであらう。それは一面で当時の庶民がこうあつたと願つたさやかな願いの表れだと言へるが、このメルベにリアリティを与えてゐるのは、一つには生活の細部の忠実な描写である。銭湯に行く時には石鹸に紐をつける、闇の食糧買出しに出掛ける女性の方がうまく警察の目をごまかす、等々。

そして作者が、駄じやれや語呂合わせのよな言葉遊びを最少限に抑えて、タチマエをふりかざす二人の軍人と、ホソネを大切にしてくる暗い時代を明るく生き抜こうとする人びとの間に生じる食い違いを、喜劇の根底に置いたことが、この戯曲をすぐれて現代的な傑作に高めた理由だと考えられる。

四紀会の舞台も、この点はきつちりと表現してゐた。特に源次郎の変化の過程が、太い線できつちりと描かれた点に強い印象を受けた。彼は初め、コヒーを好む家族を苦々しき思ひ、灰田勝彦と市川春代のボスターを外して天皇の御真影を飾る国粋主義者だったが、一つの配給券を他の五人とつばを飲み込みながら見詰めるような生活を送り、高級軍人と

さて、矢野しげ子による音楽の処理も、ほぼ忠実に原作の意図を生かしてゐた。「ホソネの天地」以上に、歌が大きな役割を果たしてゐた。そして言うまでもなく、江口慶一の演出は、これまで述べてきた意味で、一人ひとりの登場人物を十分に動かしきつてゐた。ただ難を言えば、権力の恐ろしさの描出がやや不足してゐた感じが、戯曲の感傷的側面が強く出過ぎたように思われる。そのため、例えはみさをか腹の子をおそろとして漬物石で腹を打つて言う、「男の子が仕合せぢやないのに、どうして女の子だけが仕合せになれるの」の台詞が、もう一つ強く響いてこなかたり、竹田の「人間は奇蹟そのもの。だから人間は生きなければなりません」という後の心の痛みを、この舞台では源次郎の幻滅という形で表現してゐた。そしてこれは決して私個人だけの体験に留まるものではない。味わつた民族的体験だつたはずである。それが現在、「戦後の総決算」などという言葉と共に、無理に忘れさせられようとしてゐる。この時点での「きらめく星座」の戯曲とその舞台化の持つ意義は、きわめて大きなものがある。

乱暴者で仲間はずれの龍の子太郎が、やさうらみ、あやをさらった鬼をうらみ、凍えをさられる吹雪をうらみ、母を龍にしてしまつた運命をうらみ、という風になりがちなのだ。そこをカラッと力強く、しかも充分子供っぽく怒る所がよかったのである。はじめ敵役であとで味方になるコミカルな赤鬼達で、なみ悟朗、青木茂、片岡隆司の三人組が達者な所を見せて面白く。それとクマ公や動物達……こつなると大人達の役まわりはどうしても損になるのか、黒鬼（藤沢伸二）お婆（山田壮太で、人間の、正に児童劇の代表作品である。現代の子には一寸まともすぎるか……。

10年程前、私がはじめてはぐるまの親と子との劇場を見に来て、会場前の観光バスの列や入れ替えを並んで待つ何百人の親子達、そして予算をたっぷりかけた舞台におどろいた時の作品もこの「龍の子太郎」だった。以後毎夏欠かさず親と子の劇場を見ているが、印象深い点では上位三本のうちに入るだろう。久しぶりの出会いを大いに期待して出かけ、そしてはぐるまの舞台はちゃんと期待にこたえてくれたから大したものである。

太郎を演じた河井せつ子がツキリした好演。この役はシチュエーションが、何かにうらみごとをぶつける所の連続なのでどうして泣きぶしになりやすい。村のいじめっ子を

うらみ、あやをさらった鬼をうらみ、凍えをさられる吹雪をうらみ、母を龍にしてしまつた運命をうらみ、という風になりがちなのだ。そこをカラッと力強く、しかも充分子供っぽく怒る所がよかったのである。はじめ敵役であとで味方になるコミカルな赤鬼達で、なみ悟朗、青木茂、片岡隆司の三人組が達者な所を見せて面白く。それとクマ公や動物達……こつなると大人達の役まわりはどうしても損になるのか、黒鬼（藤沢伸二）お婆（山田壮太で、人間の、正に児童劇の代表作品である。現代の子には一寸まともすぎるか……。

10年程前、私がはじめてはぐるまの親と子との劇場を見に来て、会場前の観光バスの列や入れ替えを並んで待つ何百人の親子達、そして予算をたっぷりかけた舞台におどろいた時の作品もこの「龍の子太郎」だった。以後毎夏欠かさず親と子の劇場を見ているが、印象深い点では上位三本のうちに入るだろう。久しぶりの出会いを大いに期待して出かけ、そしてはぐるまの舞台はちゃんと期待にこたえてくれたから大したものである。

太郎を演じた河井せつ子がツキリした好演。この役はシチュエーションが、何かにうらみごとをぶつける所の連続なのでどうして泣きぶしになりやすい。村のいじめっ子を

かも知れません。

(5)

戦後四十年たっても「アソノの日記」がくり返し上演されているのは、やはり若い世代に訴えるものがあるからだろう。閉じてめられた生活の中で精一杯生きて行くアソノ、それを通して考えさせられる戦争の惨酷さ、そして台本自体の持っている人間性描写の鋭さと多彩さ一学校巡演のため一時間に切りこちめたと聞いて、どこをどうまとめたのか、心配でもあり、興味もあつたが……

結局、心配の方が当つてしまつたようである。第二場のはじめ、ベーターの人間知りたアソノがじれったくなり、いたずらをしかけてけんかになる。ベチヤチヤ興さん、のくだり……アソノのバリエーションやアソノの対立、姉と比較されることへの怒り、空襲の夜のヒスナリとその反省から来る人間性の成長……そういう所がカットされているので前半があさり終つてしまつ、アソノがどう成長するのか、ベーターがどんな性格なのかどうにも浮び上つて来ない。

一切のベーターの大小をめぐって、血相変えた対立がおきる等とは栄養のよすぎる現代

子の劇団員諸氏にはヒンと来ないのか、私に「はけ」でうす、というミニアの辞退に、どれ程の思いがこもっているのか、全然わからないらしい。切りわけ驕きのくだりが過ぎると、ベーターは無関心にそちのけになつていく。どんな風でもいいから、はつきり決着をつけて欲しい、とおとなしいマルゴットが言い切る返に、どれだけ局面に演技上の適当、工夫が必要か……

日記を読んで、何年も一緒に暮らしていたアソノの中にどんなに素晴らしい抵抗の精神があつたのかを知らされ、安全な外国へ逃げずに、あえて苦しい生活に踏みとどまつてただただかゝうとした自分の姿勢までも含めて、慚愧にたえない、と言うオットー・フランクの心にとれ程迫つたか……戯曲「アソノの日記」が要求するリアリズムには、残念ながら劇団がおおの皆さんの努力及ばすという所だろう。

(6)

一年前までは歩けたのに、もう歩けない……病氣とたたかつたために、動かぬ指でつかんで書いていた記録、それも、もう書くことができない。お母さん、私は何のために生きていく……難病とたたかい生き続ける少女亜也ちゃん……難病とたたかい生き続ける少女亜也ちゃん……

の日記。「リトルの旗」、中部出版界空前のベストセラーと言つてこの本の舞台化は至難のわざだつたらう。主人公を舞台に出さず、演技者はすべて、そこにいるつもり、本当の亜也ちゃんに語りかけるという形式、出演者の七割までが友情出演で、役者の発声は全くせず、生の声で話しかける。日記の朗読者城山千恵子も、出来る限り感情を殺して淡々と進める。母親役の山本淳子も、きつとした適応で、恐らく実際のお母さんお娘の前ではそつでであつたらう、感情をかくした明るさである……こういう中で、主人公の思いだけが、観客の想像の中に浮かび上つて来る……今回は、それが成功していた。私も残念ながら、家に帰つてかみさんに「おい、いい本買つて来た」と言つたら「私、とくに読んだ」と、不勉強な喜ぶ、という顔をされてしまつた。この話を、素直に紹介出来ただけで、劇団四日市25周年記念公演の価値は充分あつたのではない。

同時上演の「雪夜の客」は城山千恵子が、殺人をかくすバターのメダムを、かなり丁寧に演じていたが、それでも一寸、余計だつた……

小島真木

ॐ नमः

登場人物

५८
७५

なだらかな山麓にある段々島。
今は何も植えられていない。
桐の木が一本、高く伸びている。その
下に、白い幕をかけた石碑が建っている。

「おめえは運転が乱暴だん
ちやつたによ……おめえは
て、おめえは、もうどうも止
まれねえのかよ……頭んふら
ふらするによ。（車から降りて、
人が近づく気配がする）
……お、立てねえ。痛えよう。
これじゃ、何にも出来ねえによ。
おめえ、上手伝へてくれないよ、
な、ええすうら……大げさじゃ
ねえ、ふんにとふらふらするだ
によ。……忙しいので、本当な
らうとおまへが祝してくるも
んすうら……ああ、そうすうら
によ。……おめえは、ちがう
頼まねえによ。……おれが自
分の勝手通しだが、悪いから。
おめえは、心配してくれてる
ことだと思つて、たけえが、ま
まい、息子なんて持つもんじや
ねえよ。女房の云いなりだあ！」

響と木製のちりととりが、ボソと放り出されて、車のドアの締る音強く、
つる、舞台袖に駆け寄り、
「おお、まだ用事があるだつていうに、新聞記者の衆が家の方へ来るつて云つた、来て、来たらこちへ連れて来てくりやうよ……ちやんと来るつて云つてたに、十一時頃から」つて云つておいたで、な、ええか、ちやんと待つてて連れてきてくりやうよ……」
と云つてあるだから。

つる ふんにと五人も子どもんいても、誰一人役に立つもんはいねえ、（幕とちとりとりを拾って、廻りを見まわす）雨ん降らにや風ん吹いて、ふんにとやけきりしちゃうよ。（桐の木を叩いて）おめえも役立すだよ。こんな日に、でっかい葉っぱ放り散らかいでよ。（石碑の前に立って、しげしげと見つめる）だあれの世話にもならねえで、ちゃんと造れたによ。（石碑を背にして立つて）こちら辺がええか（振り返って）こっちの方がええかな。……皆さん、よくおいでくださいました。

ひさ、古びたベヒーカーを押しながら来る。石碑の傍に、一息入れて立っている。

つる カヲケのアイクを持ってきてもらわすよ。（もう一度振り返える）あ、おどけたー！……ひいちゃん、悪い辯だよ。来たんだいように、だんまっで立ってるはっかだ。ふんにおどけたに。……なんだやあ、

おめえ、もうちいことさぞばりして来てくりようやあ。今日は、おらの祝いの日だつて云つたすうら。

ひさ ほうきやあ、悪いっけやあ。

つる この間、あれっくれえ念押したじやんか。おめえは、おらの友人代表だんて、ちやんとしてきてくりようて。

ひさ ほうきやあ、おらまたこの畑へ来いって云うで、草取りでも手伝うだかと思つたによ。

つる おめえはこの頃、ちいどばけたによ。頭を使ねえからそうなるだよ。人間は、頭使わねや駄目だに。去年、おめえは喜寿の祝いをやつたすう。おい、ちやんと黒の紋付で、祝儀を持て行つたに。そりや賞えてるすうら？

ひさ ああ、嬉しいけによ。

つる 嬉しいと思つたら、「つるちやんはおらより一つ下だから、来年は七十七で喜寿の祝いだ。そんなときはおらも行つて祝つてやらす」ってことになるすう。いっも心ん中でそう思つていたら、一度聞きやあ忘れねえはすうだ。ひいちゃん、友だちつてもんは、そういうもんじやあないだか。おらそう思つてるに。

ひさ なんすうら？

つる これ見ろー、これがおらの祝いだによ。……おめえが、一番よく知てるもんだあ。

ひさ ほうきやあ。

つる ほうきやあ、自分て祝つてええだつちやうらわんでも、もつはあ、喜寿になりや子供に祝つてもよ。絶対おらのやりてえ祝いをやらすつてによ。おら、おめえの祝いん時に思つたに

つる おめえは、ええ婆さんぶつてりやええおら、そんなだけでも有難いによ。

ひさ みんな暇さうして来てくれるだで、やりや、もうはあ、沢山だ。

つる せたつもりだあ。あんなもんは還暦で一邊かホイホイして、もうはあ、ぜーんぶ済まね」って決まり文句並てよ、そんな時は「おばあちゃん、おめでどう、長生きして子や、孫やや曾孫までうじやうじや集つて、もりはねえよ。おめえは嬉しいっけかよ。芝居の大黒さんみてえな格好なんかするつちやんちやんここに赤い頭布かぶつて、食赤い

つる おら、魚清から仕出し取つてよ、食赤い

なあ。

つる でもここじやあ、ごつちやうも並べられん

つる 当ててみる。
ひさ ……さわくてもええか？
つる ええよ。
ひさ 何すら？ ……石みてえだな…墓造
ただか？
つる 縁起でもねえ。やめてくりよう、祝い
の日に。もうええよ。ままい、時間くつち
やっただに。おら、この葉っぱ片付けにや
なんねえだよ。（掃き出す）
ひさ おらも手伝うに。（葉を拾いだす）
……おら「ちや、この次きやあ、墓へ入
るしかねえよう……
つる ……そういやあ、おらの墓みてえなも
んかなあ。父さんや婆さんちが入ってる墓
に入っただ、おらなんか十把一からげよ。
こりや、おらがこの世にいた「ちゅう印に
なる、おらだけの墓かしんねえ。おめえ
も、たまにやええことも云うたな。
ひさ （煙しそに笑う）……ふんとに、何
ずらやあ。ちや「くら明けちや駄目か？
（暮にさわる）
つる さわくちや駄目だ。あ、その紐引張
ちや駄目だ！（とびつく）……暮ん落ち
ちゃうによ。おめえは、割輕なことするな
あ。しんねえ、こから、ちや「くら

ぞいてみる。
ひさ ……石しが見えねえ。
つる 石碑だもん。……おめえ、台座も、そ
のまんまの大きい石使ったに。そりやあ
てえしたもんだあ。ひいちゃん見りや、びっ
くりするに。全部お一人で石屋に交渉し
て、造ってもらったに。
ひさ 昭一さんが、やってくれたじやないだ
か。
つる あんなもん、やってくれすか！戦争
中ならともかく、今さ、そんな格好の悪い
ことすんなって怒るだよ。あんな尻の穴の
小せい男は、ろくなもんじやないに。体裁
はつか氣にして、何にも出来ねえ、おら、
云ってやっただに。ちや「くら聞きてえが、
おらの祝いをやってくれる「ちゅうくんは、
おらが一番喜ぶことをしてくれる「ちゅう
くんじやねえのかよ。そしたらおめえ、
そんな自分勝手通すなら、自分でやってみ
よう。おら「ちや知らねえってめかすだよ。
ああ、ええよ。そうしらす。おめえはがや
……嫁「こは、そ知らん顔してるだに。
ふんとに、底意地が悪くてよ。昭一だきつ
けちや、おらを除けもんにするのよ。

ひさ 年寄は、はいはい「て若い衆の云うこ
と聞いてりや、まるくおさまるによ。
つる おら、おめえみてえに、嫁「ここにき
使われてる衆の氣が知れねえ。……ええだ
よ。金は全部自分で出したし、これ「ばっ
ちもあいつらの手借りたわけじやなし……
ここは、おらん嫁に来る時、お父「さから
もらって来た畑だ。「おめえが嫁「こに行
く時のタンス造りさあと思つて、おめえが
生れた時この桐の木を植えた「けえが、婚
れがあんまり急で間に合わんで、この畑は
おめえにやる」って、つけてくれた畑だも
ん、誰も文句云える筋合いはねえよ。
ひさ ふんとに、つるちゃんは、えれえによ、
昔「から、誰にも文句云わせねえだよ。
つる あんな、ひいちゃん、新聞記者の衆が
来るだつてよ。……おら、新聞社へ電話し
てよ、石碑を建てて「云つたら、何だか
ゴチャゴチャ聞いた「けえが、とにかく、
伺つてみますって「云つたによ。
ひさ ほうきやあ。
つる 明日の新聞に載るかしんねえ。……
それでよ、おめえに断らなくて悪い「けえ
が、石屋が云うにや、こつ「いう石碑「ちゅ
うもんは、誰か他のもんが徳を讀んで建て

てくれるもんで、自分で建てるもんじやな
いだつてよ。だんて、おめえと坂下のきよ
ちゃんとおくまさんの名前を後「彫に彫
つといたんで、新聞記者の衆に聞かれたら、
そう云「てくりようよ。ええか、忘れんは
よ。
ひさ ……おら、判んないに。何ちゅうだ？
つる ……ええに、松野「するさんの徳を讀
てどか云やあ。
ひさ 何の徳だあ？
つる 何の徳だ「てええに。そう「云「てりや
ええだよ。
ひさ ……つるちゃん、坂下の
おきよちゃん、去年死んだに。……おく
まさんだ「て、三年の年忌をや「たに。
つる ええだに。後までよく見やしねえで。
名前は、たんと並んでいた方がええによ。
……おめえ、覚えてるら？ おらが国防婦
人会の分会長で、おめえが副分会長でよ。
白いエプロンに、こへ大日本国防婦人会
つて書いたタスキをかけてよ。出征する兵
隊さんを見送りに行つた頃に、えれえ部
隊長さんに色紙を書いてもらつた「けじや
ん。
ひさ ほ「うだ「けかあ。

ひさ　　うた……うた……うた……ない……（言葉が急につまつたように、うろたえて……首を振る）

つる　ええだよ、下手だって。

ひさ　　……

つる　さ、歌わず。正しく清く健やかに

ひさ　……（幼い子供のように、口を堅く結んでいる）

つる　我が子を育て　国のため　献げる母の誠実こそ

ひさ　（耳に両手で栓をする）………

つる　……ひちゃん、何の真似たよ。おめえ、いやなことするなあ。

ひさ　………

つる　おらの歌が、そんなに下手かよ。

ひさ　（口に両手でふたをする）

つる　もうええによ。おめえにや頼まねえで……やめろよ！（ひさの手を、もき放す）

ひさ　……駄目だに。おに云つちやうによ。

（また口にふたをする）

つる　（子どものようにむきになって、またもき放す）………故き、ひちゃん！

ひさ　（泣き出す）

「……泣くことあないすに……おめえがねらに、当ててすりしただから。おめええか悪いだからな……泣くのやめうと……ひいちゃん、やめてくれやー（こちからもほとんど泣ききつになりながら怒鳴る）
ひち……（驚いて泣きやみ——ばんやりししている）
近寄つて、肩に手をかけのぞきても、ひち、つるを避けて、離れた場所につすくまゐる。」

つる おめえはなにによ云つてゐるだ？
ひさ おら、茂によ、おめえだけは帰つてこいよ、待つてゐるによつて云いたか？ただに
よー
つる ……何によ云いたいだか、さつぱり判らねえ。
ひさ おめえが、茂に後鬘引かれるようなことと總体^{おんたい}云うなよつて云つたじゃんか！
つる 茂男ちゃんの出征の時のこと云つてんのか？あたりまえだに。「お国のために命を捧けに行く兵隊さんに、心おきなく征つてもらうのが統後の婦人のことめ、じゃねえか。涙で送つちや兵隊さんの心があとに残るで、笑顔で送るのが、おらちう国防婦人会の務めだによ。家の衆だけじゃしめっぽくなるで、あとのお世話は引き受けたつて、おらちちが笑顔で旗ふつて送るのよ。戦さに行く兵隊さんと送るおらちちが一緒の氣持でなきや、戦争に勝てるわけがねえすら。おめえは、副会長だによ。他のもんより立派に息子を送り出さにや！、おらい、わきまえつちゅうもんを云つてやつたのよ。ひさ ……そんなでも、おら云つてやりましたか？だによ……茂はよ、七人兄弟の真中ですよ」

つる、指先きでゆっくり迎りながら、
低い声で碑文を読む。つるの声に引き
出されるように、スライドで文字が浮
び上る。
問。
つる、箱から餅をつかみ出し、勢い込
んで撒き初める。

つる ほれ！……ほれ拾え！……みんな沢山
拾えや！……おらの祝いだ、おらの七十七
の祝いだによ。みんな拾ってくりようよ。
……ほれ、桐の木よ、おめえもおらと一緒
に年取ったで、たんと食って元気出せや！
……ほれ……みんな、いっばい拾ってくり
よう！……ほれ、おらの祝いだぞ！……

餅を撒き続けるつる。

幕

六四号後記

◆今年の東会議の総会では、議案書の、今日の状況をどうみるか、
というところで随分時間がかかりました。それでも、誰もが納得の
いく結論にはならなかつたと思ひます。

事柄の性質上、これはあわてる必要はなく、もう一回位、「演劇
会議」の紙上で蒸し返してみるのもムダではあるまいと考えました。
いやがることはやさんに、無理に書いてもらいました。大橋喜一
さんも煩わしました。なによりも、巻頭の島田豊教授の、長い講演

の掲載は、実にそのためであります。
◆総会・ゼミの記事の割合が東に片寄つたとお叱りを受けてす

が、「今日をどう見るか」は、東西共通の課題であります。
西会議はトントシとはこんだらしく、新加盟劇団が三つもあつた
りして、ルンルン気分だったようですが、本号では、ひと先ず、東
との関係をおねがい致します。また、この問題については、青年劇
場の機関誌No.10の、「リアリズムと青年劇場への提言」を内容とし
たバネル・ブライスカンションを併せ読まれることを、皆さんにおお

すめします。

◇毎度生ら、あのフイバーの限りをつくした夏の、ゼミや講座の祭
典も、初冬で回顧する淋しきではありません。活字面でもう一回
燃えるのはとても無理です。劇団やまなみの河野司さんの「ゼミナ
ル・イン・雨畑を終えて」の文章には実感がありました。
◆本誌の特長は「劇団通信」で、官報のようにソツケないものから
怨嗟めいた私信のようなものもあつて興味はつきませんが、困るの

は不必要に長いもの、それとメ切無視です。舞台写真も、もうサイ
スへの協力はあきらめました。場合によっては鉄を入れさせていた
だきます。
◆本号の発行を早めましたのは、十一月十日に、香港で行われる国
際フレヒト・タイアローグに参加する、日本演出者協会主催の、訪
中ツアーの一員に、萩坂も加えていただいたためであります。十二
日間の不在になりますので、どうしても、出発前に、荷造り、発送
をしておかねければなりません。なお、この私の訪中のための費用
では、東・西事務局から暖まるカンペを仰いでおります。編集子
冥利につきと申さねはなりません。

(もも)

演劇会議 六四号

一九八六年十一月一日発行

定価 五〇〇円(送料二〇〇円)

編集委員 萩坂桃彦・こばやしひろし

丸子礼二・仲武司・藤沢薫

森本景文・栗原省

演劇会議 発行所

〒川崎市川崎区渡田四一―一三

はぎ書房内

電話 〇四四(三三三)〇七五

川崎信用金庫小田支店一三三二七

誌代振込は

又は郵便振替 横浜〇・一七二二七